

— 君津市 —

とみよし

富吉遺跡Ⅲ

みふねの里保育園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

君津市健康こども部
君津市教育委員会

— 君津市 —

富吉遺跡Ⅲ

みふねの里保育園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

君津市健康こども部
君津市教育委員会

序 文

温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、県内2位の広大な面積を有する君津市には、多くの貴重な文化遺産が残されています。これらの文化遺産を後世へと伝え残してゆくことが、現代に生きる私たちの使命なのだと思います。

しかしながら、経済発展や利便化のための開発行為など現代人の働きによって、遺跡が破壊されてしまうことが多いのも実情です。このような状況のなか、開発と遺跡の保存についての解決策の一つが、事前に発掘調査を実施する「記録保存」という手段であります。

本報告書は、公共事業に伴い発掘調査を実施した富吉遺跡の成果をまとめたものです。富吉遺跡は、過去の調査によって、古墳時代から近世にかけての遺跡であることがわかっています。今回の調査では、古代末から中世の倉庫群と考えられる掘立柱建物跡を多数検出し、小糸川下流域の当時の様相が明らかとなりました。

本書が学術資料、教育資料として活用されるとともに、市民をはじめ多くの皆様の目にとまり、遺跡というものがごく身近にも存在しているのだということを確認していただく契機となり、埋蔵文化財の保護を推進することができれば幸いです。

結びに、ご指導・ご助言いただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課、発掘調査・整理作業に従事した調査補助員の方々、ご協力いただいた地域の方々、関係者の皆様に対して、心から感謝の意を表します。

令和6年3月

君津市教育委員会
教育長 粕谷 哲也

例 言

- 1 本書は、平成28・29年度、令和3・4年度調査実施の千葉県君津市真元字喜平303番1ほかに所在する富吉遺跡Ⅲの成果を収録した、発掘調査報告書である。
- 2 調査は、千葉県教育委員会の指導のもと、君津市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査・整理作業期間は以下のとおりである。
(確認調査) (1) 平成29年1月30日～同年2月10日
(2) 平成30年1月25日～同年2月16日
(本調査) (3) 令和3年10月25日～令和4年3月9日
(4) 令和4年6月20日～令和5年2月28日
(整理作業) 令和5年7月1日～令和6年3月22日
- 4 発掘調査は、(1)は豊巻幸正・曾我真実子、(2)は朝倉 唯、(3)・(4)は矢野淳一、整理作業・原稿執筆は朝倉、編集は朝倉・曾我が担当した。
- 5 発掘調査で使用した遺跡コードは、富吉遺跡：K T 051である。なお、遺物注記の際には、コードの次に調査地点を付した(例：K T 051Ⅲ)。
- 6 遺構・遺物の縮尺は各実測図に明記した。方位は座標北であり、測量値は世界測地系による。
- 7 今回の調査に伴う遺物・図面・写真等の記録類は、君津市教育委員会が保管する。
- 8 調査組織は下記のとおりである。

《君津市教育委員会》

平成28年度

教育長：山口喜弘

教育部長：鈴木盛一

生涯学習文化課長：矢野淳一

副主幹(事)文化振興係長：當眞紀子

文化財主事：朝倉 唯

文化財主事：曾我真実子 文化財主事(再)：豊巻幸正

平成29年度

教育長：山口喜弘

教育部長：鈴木盛一

生涯学習文化課長：矢野淳一

副主幹(事)文化振興係長：當眞紀子

文化財主事：朝倉 唯

文化財主事：曾我真実子

令和3・4年度

教育長：粕谷哲也

教育部長：安部吉司

生涯学習文化課長：塚越直美

副主幹(事)文化振興係長：當眞紀子

主査(再)：矢野淳一

文化財主事：朝倉 唯 文化財主事：曾我真実子

令和5年度

教育長：粕谷哲也

教育部長：丸 博幸

生涯学習文化課長：塚越直美

文化振興担当主幹：當眞紀子 文化振興係長：中花彩乃

主査(再)：矢野淳一

文化財主事：朝倉 唯 文化財主事：曾我真実子

- 9 発掘調査から本書の刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。(敬称略・五十音順)

小高春雄、松本 勝、宮本敬一

凡 例

- 1 本書で使用した地形図は、第1図 地形図「鹿野山」(1:25,000) 国土地理院発行、第2図 君津市地形図「D-5」(1:2,500) 君津市発行である。
- 2 遺構番号は各遺構ごとに通しで番号を付した。
- 3 遺構ごとに一括して記載した遺物については、番号脇の()内に遺構番号を記した。
- 4 本文中に記載した遺構の重複関係は(旧)→(新)の順に記載した。
- 5 遺構実測図のスクリーントーンは下記のことを示す。

柱痕跡



目 次

序文・例言・凡例

第1章 はじめに	1
第2章 調査成果	8
第3章 まとめ	101

挿図目次

第1図 周辺の遺跡(1:25,000)	2	第32図 SB-017実測図	36
第2図 調査区位置図(1:3,000)	5	第33図 SB-018実測図	37
第3図 基本土層図	6	第34図 SB-019実測図	38
第4図 調査範囲及び確認調査トレンチ配置図	7	第35図 SB-020実測図	39
第5図 A区遺構配置図	9	第36図 SB-021実測図	40
第6図 SA-001実測図	10	第37図 SB-022実測図	41
第7図 SA-002A・B・C実測図	11	第38図 SB-023実測図	42
第8図 SA-003A・B実測図	12	第39図 SB-024実測図	43
第9図 SD-001・002実測図	13	第40図 SB-025・026実測図	44
第10図 SD-003実測図	14	第41図 SB-027実測図	45
第11図 SD-004実測図	15	第42図 SB-028実測図	46
第12図 SD-005・006実測図	16	第43図 SB-029実測図	47
第13図 SD-007実測図	17	第44図 SB-030実測図	48
第14図 SD-008・009実測図	19	第45図 SB-031実測図	49
第15図 A区ピット実測図	20	第46図 SB-032実測図	50
第16図 B区遺構配置図	21	第47図 SA-004実測図	51
第17図 SB-001実測図	22	第48図 SA-005実測図	52
第18図 SB-002実測図	23	第49図 SA-006実測図	53
第19図 SB-003実測図	24	第50図 SA-007実測図(1)	54
第20図 SB-004実測図	25	第51図 SA-007実測図(2)	55
第21図 SB-005実測図	25	第52図 SA-008実測図	57
第22図 SB-006実測図	26	第53図 SA-009実測図	58
第23図 SB-007実測図	27	第54図 SA-010実測図	58
第24図 SB-008実測図	28	第55図 SA-011実測図	59
第25図 SB-009実測図	29	第56図 SA-012実測図	60
第26図 SB-010・012実測図	30	第57図 SA-013実測図	61
第27図 SB-011実測図	31	第58図 SZ-001実測図	61
第28図 SB-013実測図	32	第59図 B区割図配置図	62
第29図 SB-014実測図	33	第60図 B区溝跡土層断面図	64
第30図 SB-015実測図	34	第61図 B区溝跡出土遺物実測図	65
第31図 SB-016実測図	35	第62図 B区土坑実測図	67
		第63図 B区遺構配置図(1)	69

第64図	B区遺構配置図(2)	70	第76図	B区遺構配置図(14)	82
第65図	B区遺構配置図(3)	71	第77図	B区遺構配置図(15)	83
第66図	B区遺構配置図(4)	72	第78図	B区遺構配置図(16)	84
第67図	B区遺構配置図(5)	73	第79図	B区遺構配置図(17)	85
第68図	B区遺構配置図(6)	74	第80図	B区遺構配置図(18)	86
第69図	B区遺構配置図(7)	75	第81図	B区遺構配置図(19)	87
第70図	B区遺構配置図(8)	76	第82図	B区遺構配置図(20)	88
第71図	B区遺構配置図(9)	77	第83図	B区ピット出土遺物実測図	89
第72図	B区遺構配置図(10)	78	第84図	調査成果	102
第73図	B区遺構配置図(11)	79	第85図	B区掘立柱建物跡及び柱穴列 遺構配置図	103
第74図	B区遺構配置図(12)	80			
第75図	B区遺構配置図(13)	81			

表目次

表1	A区ピット観察表	18
表2	B区溝跡観察表	62
表3	B区土坑観察表	66
表4	B区ピット観察表	89

図版目次

図版1～9	遺構写真
図版9	遺物写真

第1章 はじめに

1 調査にいたる経緯

平成28年12月5日付け28君子第1417号及び平成29年12月20日付け29君子第1704号で、君津市長より文化財保護法第94条に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」の提出があった。開発目的は(仮称)貞元保育園建設(当時)で、開発予定面積は11,181㎡である。開発区域は「周知の埋蔵文化財包蔵地内(富吉遺跡)」で、開発着手前に確認調査を実施する必要がある旨を市健康福祉部子育て支援課(当時)に説明した。協議の結果、計画どおり事業を行うことになり、遺跡の規模及び性格を把握するための確認調査を実施することとした。確認調査は、事業地の都合で、平成29年1月30日から同年2月10日まで及び平成30年1月25日から同年2月16日までの2回に分けて行った。確認調査の結果、古墳時代から中世までの掘立柱建物跡及び溝跡、土坑、ピットが検出されたため、子育て支援課と市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、本調査を行うこととした。本調査は、事業地の都合で2回に分けて実施した。1回目は令和3年10月25日から令和4年3月9日まで、2回目は令和4年6月20日から令和5年2月28日まで行った。調査はすべて君津市教育委員会で行った。なお、令和5年9月1日に保育園の名称が「みふねの里保育園」と決定したため、本報告では、みふねの里保育園建設に伴うものとして報告する。

2 地理的・歴史的環境(第1図)

富吉遺跡は、君津市貞元に所在し、JR内房線君津駅の南東約1.7km地点にある。小糸川下流域左岸の低位段丘に位置し、標高は約10.0m前後である。遺跡周辺の環境は、小糸川右岸がすでに市街化が進んでいるのに対して、左岸には水田が広がる農村集落的な景観が残されている。左岸の低地・丘陵上には多くの埋蔵文化財が分布している。近年、調査例も増えてきたが、遺跡の広がりや性格などはまだ不明な点が多い状況である。

発掘調査をした周辺の遺跡をみると、同じ低地遺跡であり、以前、区画整理の計画範囲に入っていた2.上湯江遺跡、7.釜神遺跡、8.中富遺跡がある。上湯江遺跡¹⁾では、平成6年度に確認調査が実施され、奈良・平安時代の掘立柱建物跡3棟以上を確認し、8世紀代の土器も出土したことから古代の集落の存在が裏付けられた。この他、中世の井戸跡と溝跡を検出し、出土した陶磁器の中には12世紀末から13世紀前葉の龍泉窯系の碗や初期かわらけがあり、鎌倉とつながりのある在地領主層の屋敷跡があったとも考えられている。平成23・26年度には個人住宅建設に伴う確認・本調査が実施され、古墳時代後期から奈良・平安時代の溝跡・土坑・ピットなどが検出された。湖西窯産の須恵器坏が出土し、集落跡の存在を示唆している。平成26年度の調査では、古墳の周溝と考えられる溝跡が検出され、古墳が存在していることが判明した。平成29・30年度には、トマト栽培施設建設に伴う、確認・本調査を実施した。古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡が7軒検出され、古代の集落の存在が明らかとなった。令和元・2年度には、宅地造成に伴う確認・本調査を実施し、平安時代の木枠の井戸、墨書土器や中世の古銭を500点以上埋蔵したピットなどを検出し、長期間にわたって土地利用されていたことがわかった。上湯江は地名から周淮



- | | | | | |
|-----------|-----------|--------------|----------------|------------|
| 1. 富吉遺跡 | 2. 上湯江遺跡 | 3. 八幡西遺跡 | 4. 八幡前古墳 | 5. 貞元遺跡 |
| 6. 貞元塚田古墳 | 7. 釜神遺跡 | 8. 中富遺跡 | 9. 八崎遺跡 | 10. 下湯江陣屋跡 |
| 11. 天神遺跡 | 12. 南子安古墳 | 13. 南子安子安坂古墳 | 14. 寺の前古墳 | 15. 下迫古墳 |
| 16. 下道古墳 | 17. 馬門古墳 | 18. 子安陣屋跡 | 19. 埜田遺跡 | 20. 花輪堂古墳 |
| 21. 八幡東遺跡 | 22. 壱師古墳 | 23. 八幡神社古墳 | 24. 外箕輪遺跡 | 25. 常代遺跡 |
| 26. 郡条里遺跡 | 27. 八幡権現塚 | 28. 郡西遺跡 | 29. 元秋葉台遺跡 | 30. 下荘台遺跡 |
| 31. 下荘台古墳 | 32. 中荘台古墳 | 33. 上野台遺跡 | 34. 上湯江上野台古墳 | 35. 法木作遺跡 |
| 36. 法木作古墳 | 37. 陣所古墳 | 38. 三船台遺跡 | 39. 鎌倉街道(房総往還) | 40. 下三船古墳 |
| 41. 春日神社塚 | 42. 渡間塚 | | | |
| A. 三船台古墳群 | B. 上野古墳群 | C. 元秋葉台古墳群 | D. 元秋葉台横穴群 | |

※ 番号に○印のあるものは、すでに消滅

第1図 周辺の遺跡 (1 : 25,000)

郡の「湯坐郷」の地と推定されている。釜神遺跡⁽²⁾は、小糸川の河道跡であり、近世の溝跡と畦畔が検出された。中富遺跡⁽³⁾も小糸川の河道跡であるが、中富地区の中心一帯は周囲よりも若干標高が高いため、遺構が存在している可能性が十分考えられる。南東側約2.0kmに低地遺跡の25. 常代遺跡や26. 郡条里遺跡がある。常代遺跡⁽⁴⁾は、弥生時代から中世までの複合遺跡であり、弥生時代中期の方形周溝墓群、河川跡、古墳時代中・後期の集落跡、奈良・平安時代を主とした掘立柱建物跡群などが調査され、河川跡からは多量の木製品が出土している。郡条里遺跡⁽⁵⁾では古代条里制と関係のある溝跡や水田跡を確認し

ている。丘陵上には縄文時代から古墳時代の包蔵地である33。上野台遺跡、石製模造品を伴う祭祀関連の30。下荘台遺跡⁽⁶⁾があるが、報告書未刊行のため詳細は不明である。古墳については、古墳時代後期の群集墳であるC。元秋葉台古墳群⁽⁷⁾や古墳時代終末期のD。元秋葉台横穴群⁽⁸⁾で一部調査が行われており、遺存状態が良好な須恵器などの遺物が出土している。三舟山の麓には、中世の「かまくら道」と推定される道路跡や近世の39。房総往還も所在し、古代から近世までの遺跡が多く残る地域である。

註(1)『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

『平成23年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2012 君津市教育委員会

『平成26年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2015 君津市教育委員会

『上湯江遺跡Ⅳ－トマト栽培施設建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－』2019 君津市教育委員会

『上湯江遺跡Ⅴ－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－』2022 君津市教育委員会

『千葉県君津郡君津町誌 後編』1973

(2)『富吉遺跡群確認調査報告書Ⅱ』1997 君津市教育委員会

『富吉遺跡群確認調査報告書Ⅲ』1998 君津市教育委員会

(3)『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

『富吉遺跡群確認調査報告書Ⅱ』1997 君津市教育委員会

(4)『常代遺跡群確認調査報告書』1989 君津市教育委員会

『常代遺跡群』1996 財団法人君津都市文化財センター

『常代遺跡Ⅱ』1998 財団法人君津都市文化財センター

『国道127号 埋蔵文化財調査報告書－君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、小山野遺跡－』2004 財団法人千葉県文化財センター

(5)『郡条里遺跡確認調査報告書』1988 君津市教育委員会

『郡条里遺跡発掘調査報告書』1990 君津市教育委員会

『郡条里遺跡Ⅱ』1992 財団法人君津都市文化財センター

『郡条里遺跡Ⅲ』1994 財団法人君津都市文化財センター

『国道127号 埋蔵文化財調査報告書－君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、小山野遺跡－』2004 財団法人千葉県文化財センター

(6)『千葉県君津郡君津町誌 後編』1973

(7)『元秋葉台32号墳発掘調査報告書』1977 君津市教育委員会、貞元・新御堂遺跡発掘調査会

(8)『平成6年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1995 君津市教育委員会

参考文献

『千葉県埋蔵文化財分布地図(4)－君津・夷隅・安房地区(改訂版)－』2000 千葉県教育委員会

3 遺跡の概要（第2図）

富吉遺跡は、古墳時代等遺物包蔵地として周知の遺跡であり、平成6・7年度に実施した区画整理に伴う確認調査や平成25年度以降から住宅建設・小規模な宅地造成に伴う調査により、少しずつ遺跡の範囲や性格が明らかになってきている。君津市貞元土地区画整理組合による区画整理の計画に伴い、平成6・7年度に確認調査⁽¹⁾（No.1～16、No.20～25地点）が22ヶ所実施されている。古墳時代の堅穴住居跡34軒（No.2、No.6～13、No.15地点）、奈良・平安時代の掘立柱建物跡13棟以上（No.2・7・10・13・15地点）、中世の溝跡（No.5地点）などを検出している。小糸川に面したNo.2地点では、古墳時代後期の堅穴住居跡のほか、建物配置に規則性のある奈良・平安時代の掘立柱建物跡を検出した。また、井戸と推測される土坑から9世紀代の土師器坏が出土している。No.5地点で検出された溝跡からは14世紀代の龍泉窯系Ⅲ類の青磁蓮弁碗が出土している。No.22地点では、古墳の周溝とみられる溝跡の一部が検出された。No.22地点の東側、事業区域外では埴輪片が表採されている。No.23地点では、古代末から中世とみられる東西方向の畦畔が2ヶ所検出されている。近年では、平成26年度に確認調査を実施した富吉遺跡Ⅰでは、古墳時代の溝跡11条、土坑1基が検出されている。平成28年度に確認・本調査を実施した富吉遺跡Ⅱ⁽²⁾では、平成6年度調査のNo.21地点で検出した溝跡と同一の古墳時代の溝跡やピットを検出した。平成28・29年度に確認調査を実施した富吉遺跡Ⅲでは、古墳時代堅穴住居跡1軒・溝跡24条・土坑10基、奈良・平安時代掘立柱建物跡3棟などを検出した。平成29年度に確認・本調査を実施した富吉遺跡Ⅳ⁽³⁾では、古墳時代溝跡1条・土坑2基、奈良・平安時代堅穴住居跡1軒・溝跡2条を検出した。平成30年度に確認・本調査を実施した富吉遺跡Ⅴ⁽⁴⁾では、古墳時代から奈良・平安時代までの遺構・遺物を検出し、遺跡の南端が明らかとなった。令和4年度に確認・本調査を実施した富吉遺跡Ⅵ⁽⁵⁾では、古墳時代堅穴住居跡4軒・溝跡3条・土坑5基・ピット36基を検出し、富吉遺跡内北側の微高地に古墳時代後期の集落の存在を裏付ける結果となった。令和5年度に確認調査を実施した富吉遺跡Ⅶ⁽⁶⁾では、古墳時代溝跡1条・ピット1基、中世土坑4基・ピット8基を検出し、遺跡の東端に集落が広がっていないことを確認した。

註（1）『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

（2）『富吉遺跡Ⅱ』2017 君津市教育委員会

（3）『平成30年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2019 君津市教育委員会

（4）『富吉遺跡Ⅴ』2019 君津市教育委員会

（5）『令和4年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2023 君津市教育委員会

（6）『令和5年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2024 君津市教育委員会

4 調査の方法（第4図）

確認調査は、事業地の都合により、平成28年度及び平成29年度の2回に分けて実施した。対象地11,181㎡のうち996.87㎡は平成6年度に区画整理に伴う確認調査を実施済みである。対象地内における遺構の分布と種別を把握するために、平成28年度は3,647㎡に12本、29年度は6,537.13㎡に18本のトレンチを設定した。調査区域の現状は荒蕪地である。調査を実施するにあたり、公共座標に基づく基準



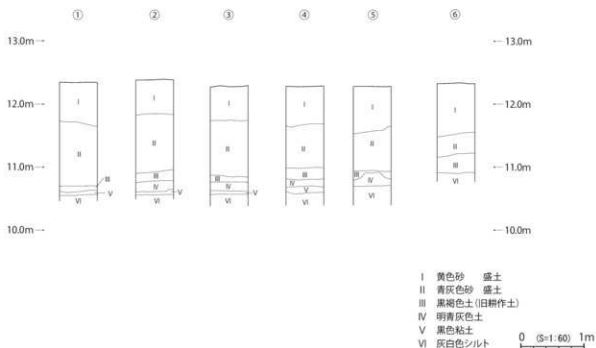
第2図 調査区位置図 (1 : 3,000)

点測量は専門業者が行い、この杭を用いて現地での平面図・断面図などの実測作業を行った。写真撮影はデジタルカメラを使用した。遺構確認面までの表土を重機で除去した後、鋤簾を用いて人力により遺構検出作業を行った。確認調査の結果、古墳時代の溝跡・土坑、奈良・平安時代の掘立柱建物跡などが検出されたため、埋蔵文化財をどうしても保存することができない部分 9,577 m²については、本調査を実施することとなった。

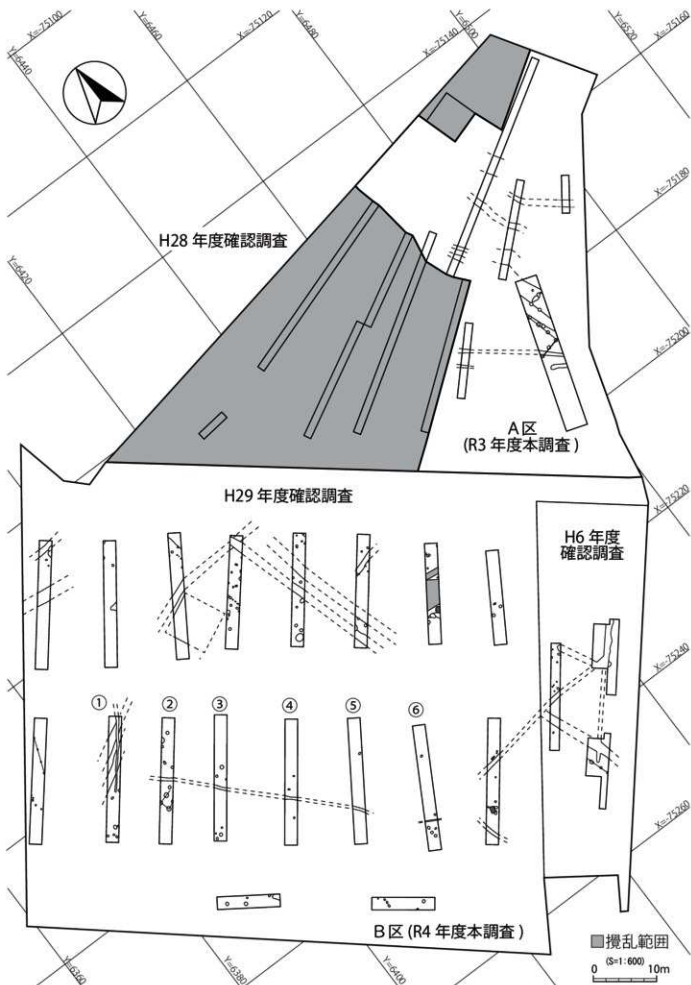
本調査は、令和3年度実施範囲 2,043 m²をA区、令和4年度実施範囲 7,534 m²をB区とし、2回に分けて実施した。遺構番号は、本調査区全体で通し番号を付した。遺構確認面までの表土は重機により除去し、遺構検出作業と覆土の掘り下げは人力で行った。公共座標に基づき基準点測量は専門業者が行い、この杭を用いて現地での平面図・断面図などの実測作業を行った。出土した遺物は遺構ごとに取り上げた。調査区内は湧水しており、水捌けも悪く、大雨の際に調査区が水没することがあった。そのたびに水中ポンプによる汲み上げ作業を行った。調査終了後は重機により排土を埋め戻して原状復帰し、現地作業を終了した。

5 基本土層（第3図）

現況は荒無地である。基本土層は①～⑥の北東壁で記録した。I層・II層は現代の盛土である。その下のIII層はそれ以前の水田の耕作土である。地山層はVI層の灰白色シルト層で、現地表面から1.50～2.30mで検出する。調査区北側の小糸川に向かい下がっていく地形である。



第3図 基本土層図



第4図 調査範囲及び確認調査トレンチ配置図

第2章 調査成果

1 A区(第5図)

柱穴列

SA-001(第6図)

重複関係 SA-001→SD-009

規模・形態・構造 柱穴10基を検出した。そのうちの6基で柱痕跡を確認した。柱穴の配置は北方向が開けたコ字状である。孤立柱建物跡の可能性もあるが、対応する柱穴が検出されなかったため、柱穴列とした。南北列を基準に主軸は $N-10^{\circ}-W$ で、長さ15.70m、柱間は1.60～1.85mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整である。確認した柱痕跡から直径10～14cm程の柱を想定できる。

遺物 鉄滓が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SA-002A(第7図)

重複関係 SD-004→SA-002A

規模・形態・構造 柱穴3基を検出した。そのうちの1基で柱痕跡を確認した。柱穴の配置は直線である。主軸は $N-69^{\circ}-E$ で、長さ3.70m、柱間は1.75～1.85mである。柱穴の平面形は円形である。確認した柱痕跡から直径14cm程の柱を想定できる。

遺物 土師器、鉄滓、板状の木製品が出土した。1は土師器坏である。柱穴内から出土した。同じ柱穴の底面から板状の木製品が出土した。口縁部～底部1/5の遺存である。復元口径14.0cm、遺存高2.9cm、調整は内面ヘラナデ。外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。焼成は良好である。色調は橙色。胎土は細かい砂粒、白色土粒、石英、小礫を含む。

SA-002B(第7図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴5基を検出した。そのうちの4基で柱痕跡を確認した。柱穴の配置は直線である。主軸は $N-17^{\circ}-W$ で、長さ7.35m、柱間は1.60～1.70mである。柱穴の平面形は円形・楕円形である。確認した柱痕跡から直径10～14cm程の柱を想定できる。

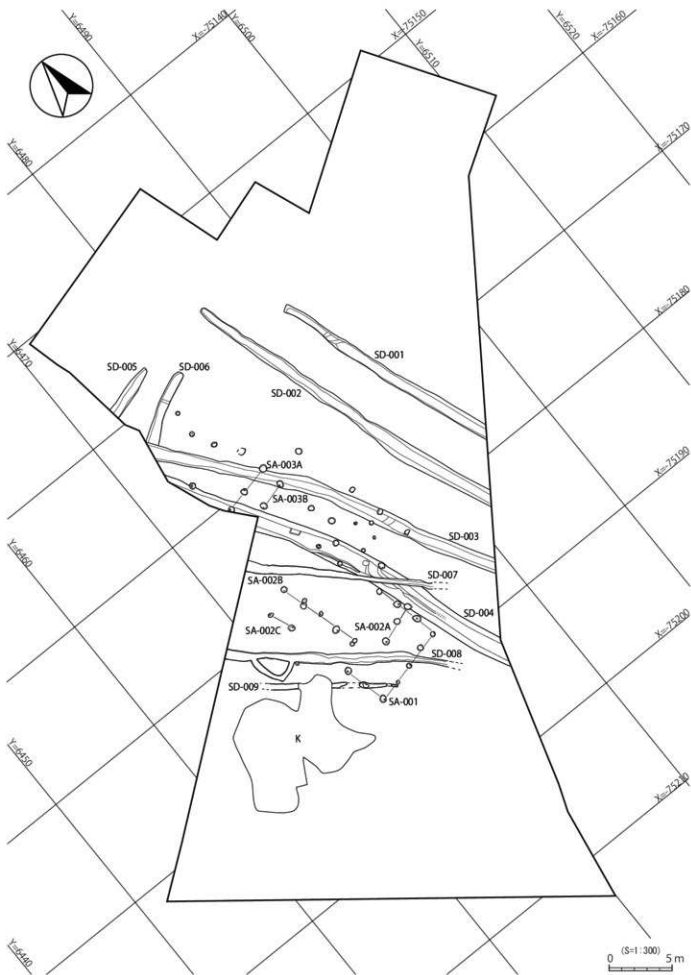
遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SA-002C(第7図)

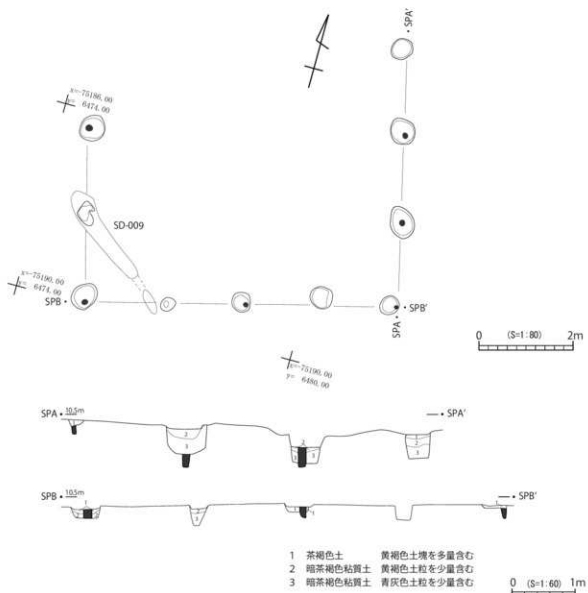
重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴2基を検出し、柱痕跡を確認した。柱穴の配置は直線である。主軸は $N-25^{\circ}-W$ で、長さ2.38m、柱間は2.04mである。柱穴の平面形は円形・不整形である。確認した柱痕跡から直径10cm程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。



第5图 A区遗构配置图



第6図 SA-001実測図

SA-003A(第8図)

重複関係 SD-003・004 → SA-003A

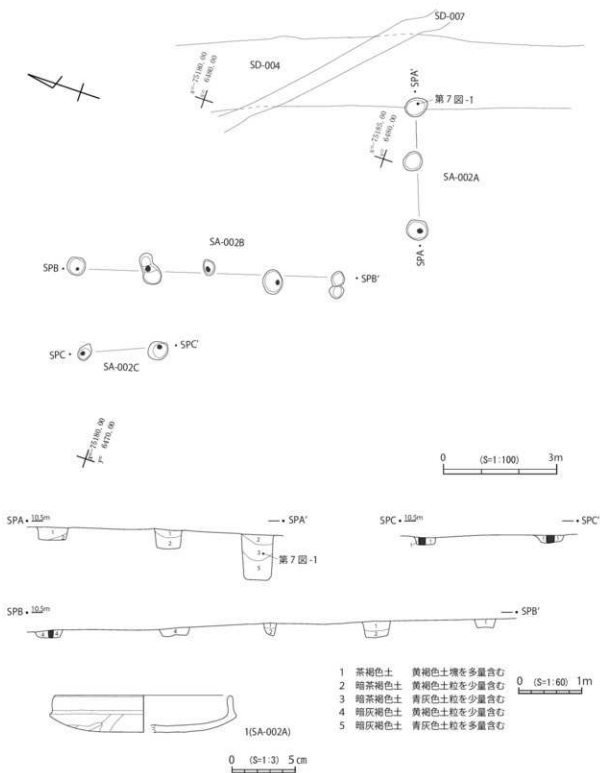
規模・形態・構造 柱穴3基を検出した。そのうちの2基で柱痕跡を確認した。柱穴の配置は直線である。主軸はN-80°-Eで、長さ4.60m、柱間は2.00mである。柱穴の平面形は楕円形である。確認した柱痕跡から直径10～12cm程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SA-003B(第8図)

重複関係 SD-003 → SA-003B

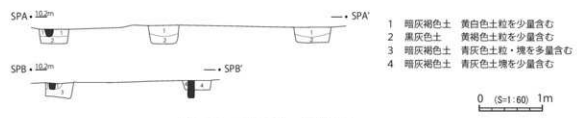
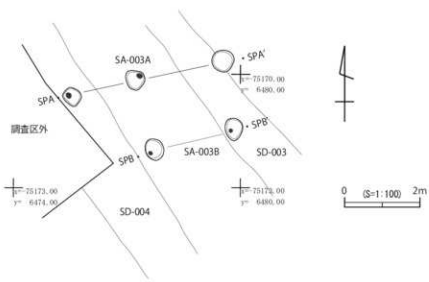
規模・形態・構造 柱穴2基を検出し、柱痕跡を確認した。柱穴の配置は直線である。主軸はN-73°-Eで、長さ2.65m、柱間は2.20mである。柱穴の平面形は円形・楕円形である。確認した柱痕跡から直



第7図 SA-002A・B・C 実測図

径12～13cm程の柱を想定できる。

遺物 なし



第8図 SA-003A・B 実測図

溝跡

SD-001(第9図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.60～1.10m、深さ0.25～0.54m、検出部分の長さ18.80m。南南東-北北西方向に走る溝で、断面形は逆台形である。

遺物 なし

SD-002(第9図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.70～1.50m、深さ0.36～1.49m、検出部分の長さ27.50m。南南東-北北西方向に走る溝で、断面形は箱形である。

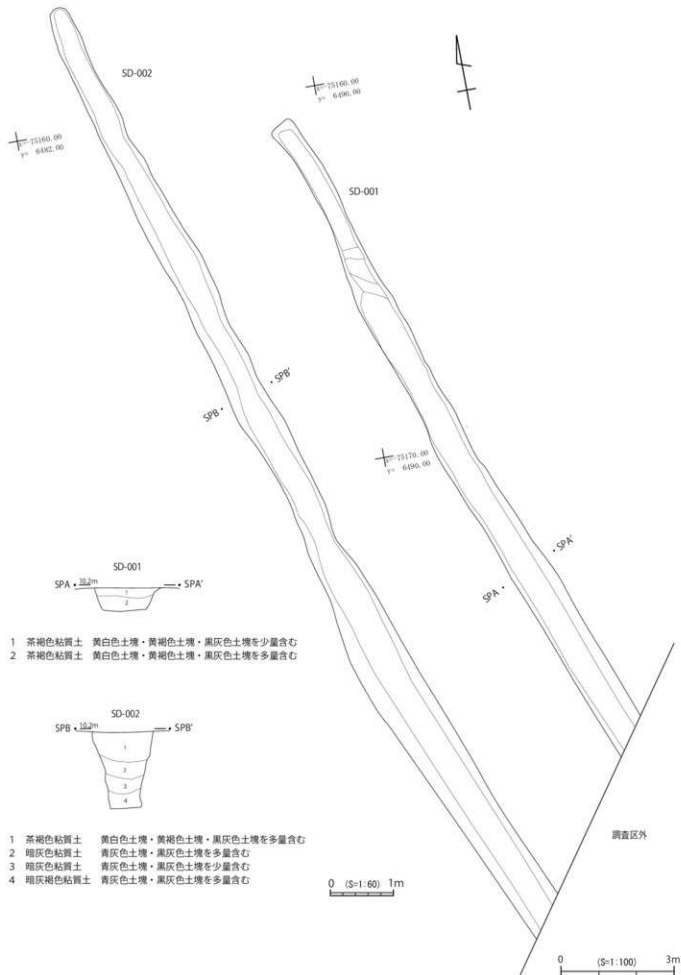
遺物 土師器、須恵器が出土した。破片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-003(第10図)

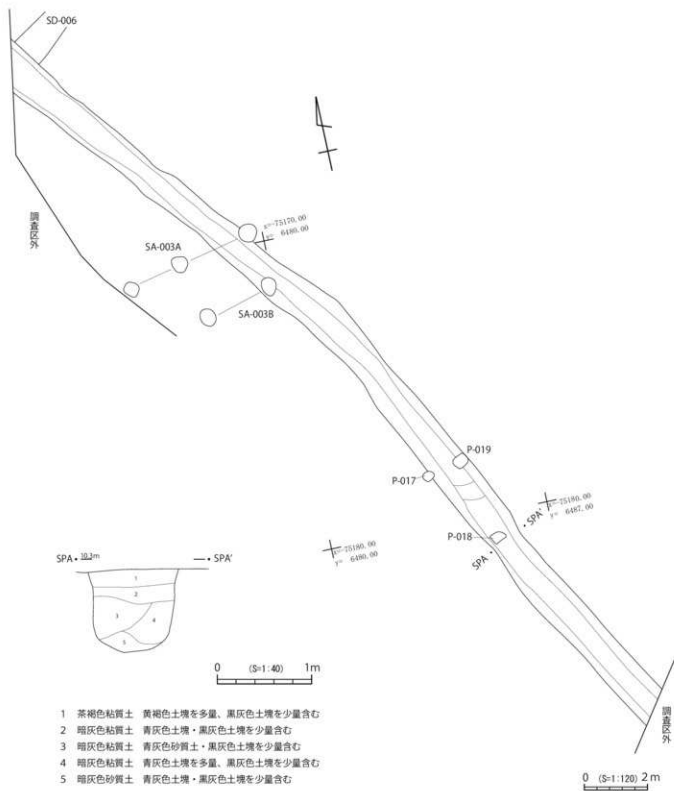
重複関係 SD-006→SD-003→SA-003A・003B、P-017・018・019

規模・形態・構造 幅1.10～1.30m、深さ0.38～1.10m、検出部分の長さ28.60m。南東-北西方向に走る溝で、断面形はU字状である。

遺物 土師器、須恵器、自然木が出土した。甃片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



第9図 SD-001・002 実測図



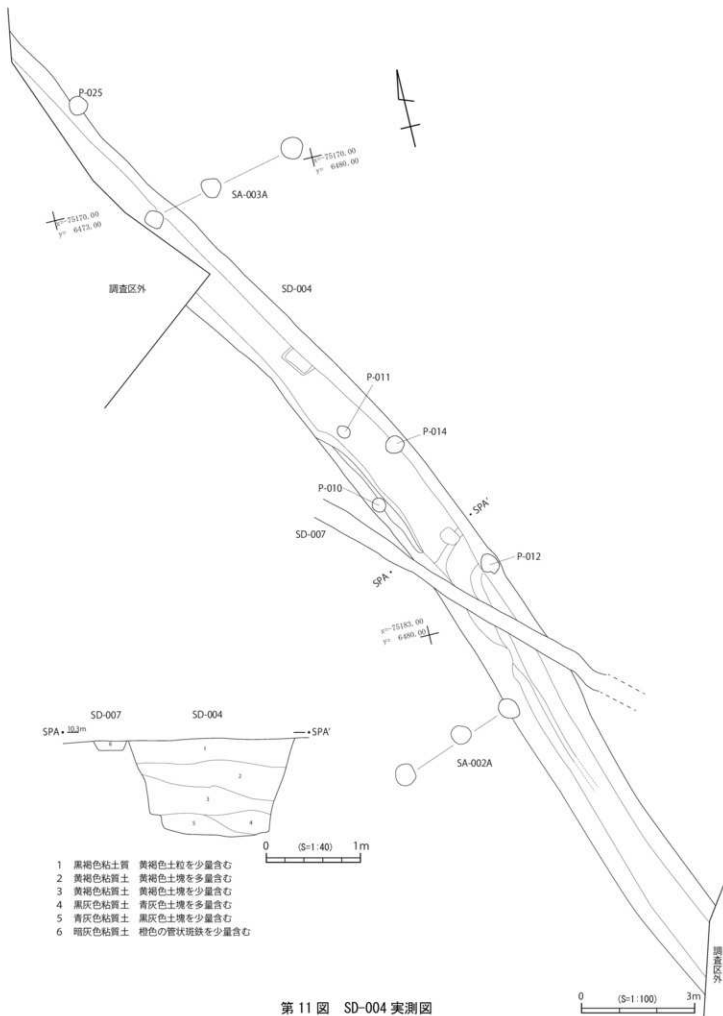
第 10 図 SD-003 実測図

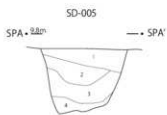
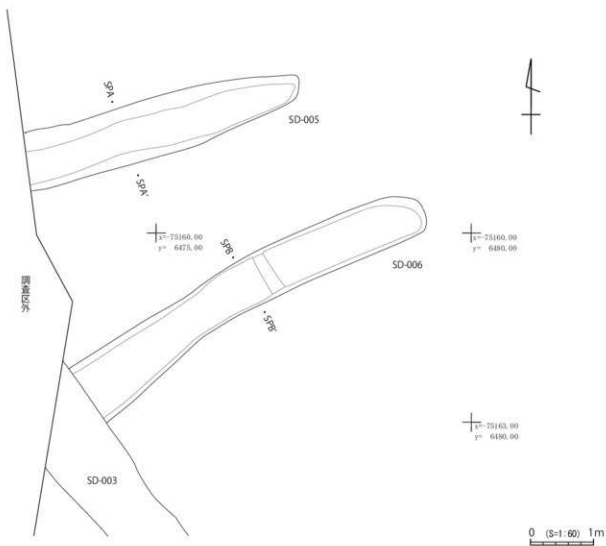
SD-004 (第 11 図)

重複関係 SD-004 → SA-002A・003A、SD-007、P-010 ~ 012・014・025

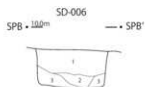
規模・形態・構造 幅 1.80 ~ 1.65m、深さ 0.65 ~ 1.17m、検出部分の長さ 30.03m。南東-北西に方向に走る溝で、断面形は逆台形である。

遺物 なし





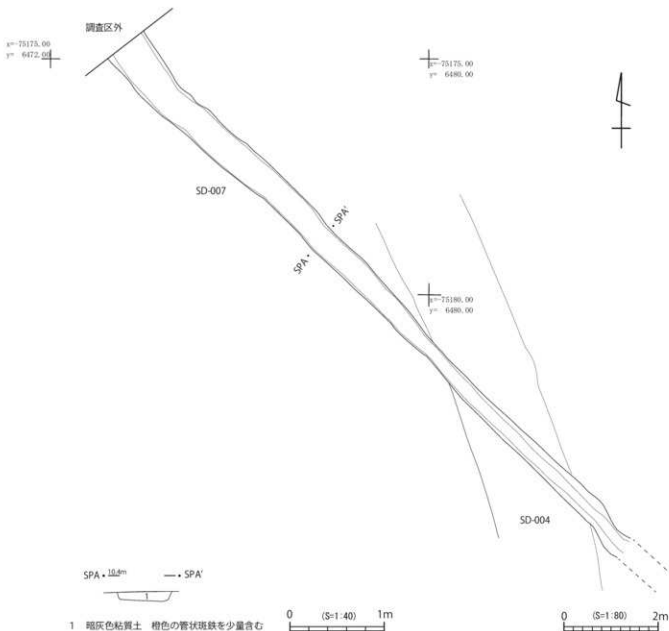
- 1 茶褐色粘質土 黄白色土壤・黄褐色土壤を多量、黒灰色土壤を少量含む
- 2 茶褐色粘質土 黄褐色土壤・黒灰色土壤を多量含む
- 3 暗灰色粘質土 黄白色土壤・黒灰色土壤を多量含む
- 4 暗灰色砂質土 暗青灰色砂質土壤を多量、黒灰色土壤を少量含む



- 1 茶褐色粘質土 黄白色土壤・黄褐色土壤・黒灰色土壤を多量含む
- 2 暗灰色粘質土 黄白色土壤・黒灰色土壤を多量含む
- 3 暗青灰色砂質土 暗青灰色土壤・黒灰色土壤を少量含む



第 12 図 SD-005・006 実測図



第13図 SD-007 実測図

SD-005 (第12図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.40～1.0m、深さ0.60～0.69m、長さ4.45m。東北東-西南西方向に走る溝で、断面形はU字状である。

遺物 なし

SD-006 (第12図)

重複関係 SD-006 → SD-003

規模・形態・構造 幅0.68～0.90m、深さ0.18～0.51m、長さ6.00m。東北東-西南西方向に走る溝で、断面形は箱形である。

遺物 なし

SD-007(第13図)

重複関係 SD-004→SD-007

規模・形態・構造 幅0.50～0.85m、深さ0.20m、検出部分の長さ14.80m。北東-南西に方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 なし

SD-008(第14図)

重複関係 SD-008→P-021、SA-001との新旧関係は不明である。

規模・形態・構造 幅0.60～1.20m、深さ0.09～0.36m、検出部分の長さ17.82m。北東-南西に方向に走る溝で、半円を描く溝が付随する。断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-009(第14図)

重複関係 SA-001→SD-009

規模・形態・構造 幅0.21～0.48m、深さ0.03～0.11m、検出部分の長さ10.12m。北東-南西方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 なし

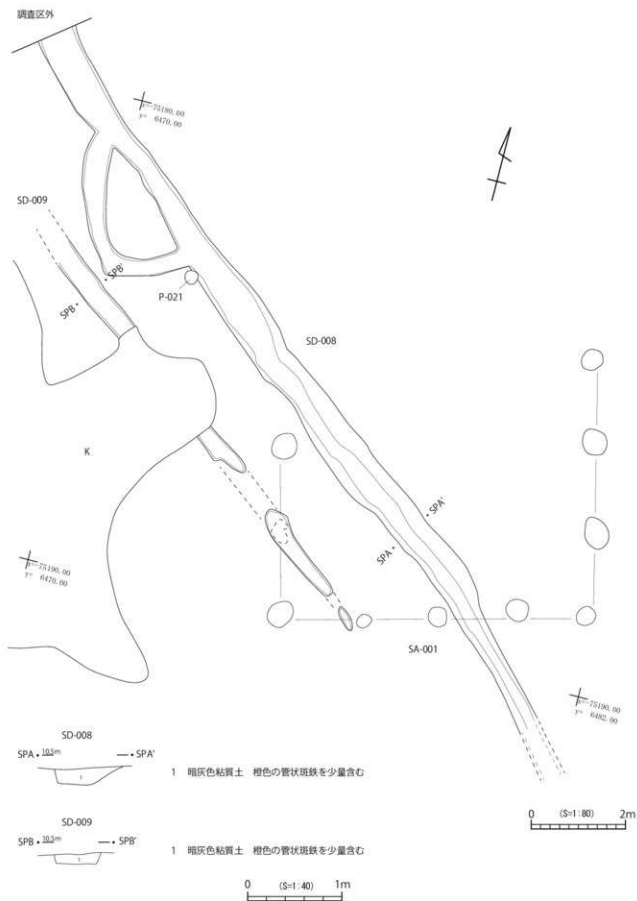
ピット(第15図、表1)

検出したピットは、下記のとおり一覧表にまとめた。

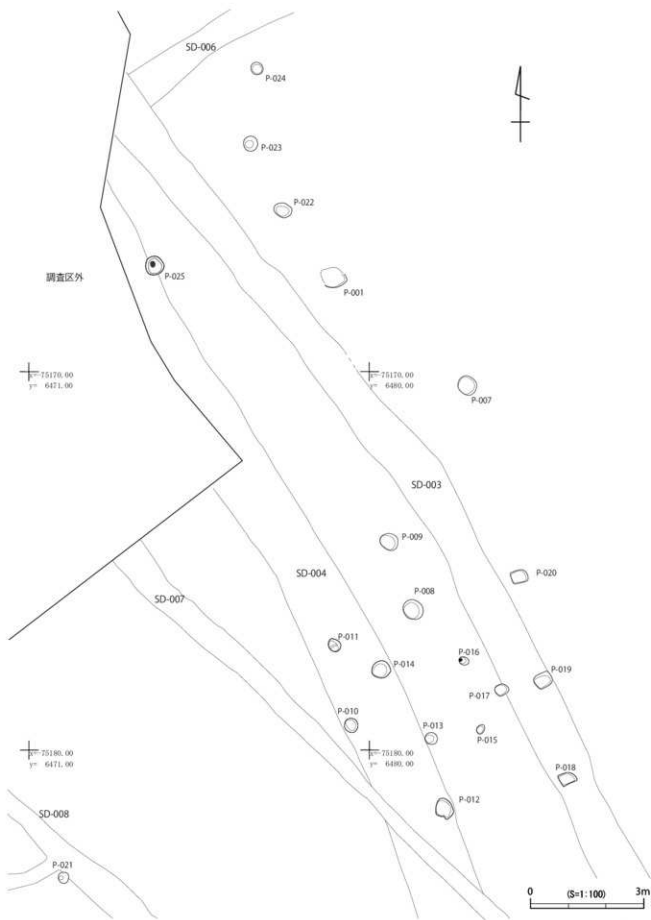
P-002～006は欠番である。

遺構	重複関係	規模 (cm)			平面形	柱穴の有無 (cm)	出土遺物	備考
		長軸 <small>(円形の場合は直径)</small>	短軸 <small>(円形の場合は直径)</small>	深さ				
P-001	無	59	23	19	楕円形	無	無	第15図
P-007	無	86.5	43	9.5	楕円形	無	無	第15図
P-008	無	54.5	53	3.5	楕円形	無	土師器	第15図
P-009	無	48.5	44.5	2.5	楕円形	無	無	第15図
P-010	SD-004→P-010	44	33	34	楕円形	無	無	第15図
P-011	SD-004→P-011	37.5	32.5	33	楕円形	無	無	第15図
P-012	SD-004→P-012	55	-	25.5	不整形円形	無	土師器・鉄滓	第15図
P-013	無	34.5	29	25	楕円形	無	土師器	第15図
P-014	SD-004→P-014	50	41	7.5	楕円形	無	無	第15図
P-015	無	25.5	20	25	楕円形	無	無	第15図
P-016	無	24.5	-	21	円形	12	無	第15図
P-017	SD-003→P-017	37	-	18	円形	無	土師器	第15図
P-018	SD-003→P-018	44	35.5	22.5	楕丸長方形	無	無	第15図
P-019	SD-003→P-019	48	38.5	21	楕丸長方形	無	無	第15図
P-020	無	46	34.5	15.5	楕丸長方形	無	無	第15図
P-021	SD-008→P-021	28.5	-	4.5	円形	無	無	第15図
P-022	無	44.5	38.5	6	楕円形	無	無	第15図
P-023	無	34	-	7	円形	無	無	第15図
P-024	無	35.5	-	5	円形	無	無	第15図
P-025	SD-004→P-025	48	42	15	楕円形	12	無	第15図

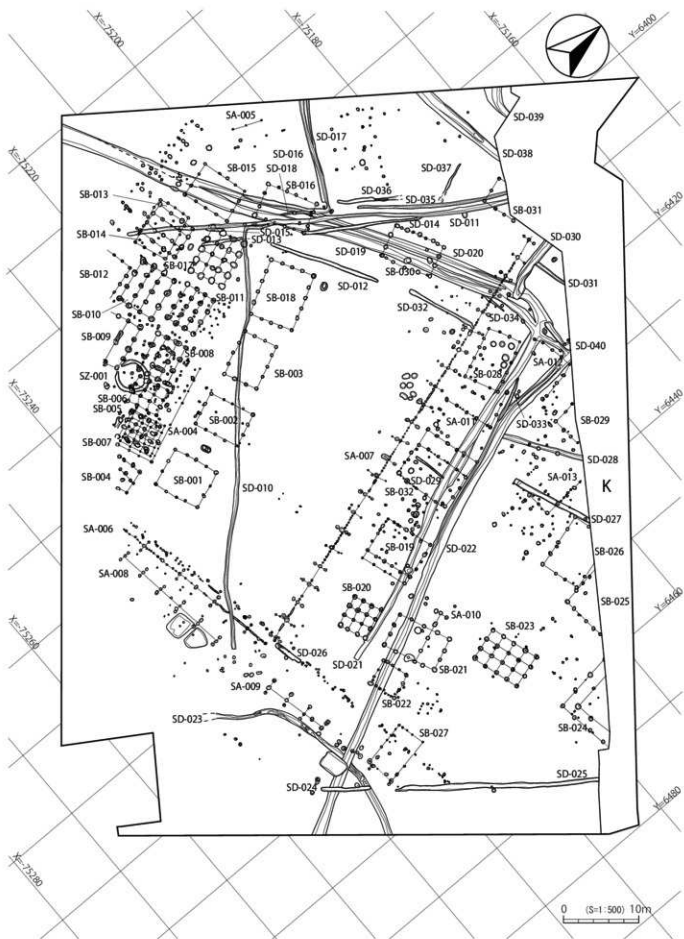
表1 A区ピット観察表



第 14 図 SD-008・009 実測図



第 15 図 A 区ビット実測図



第 16 図 B区遺構配置図

2 B区 (第16図)

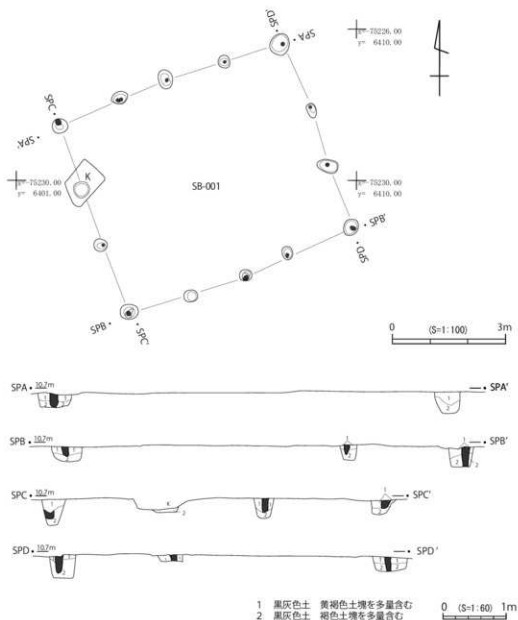
掘立柱建物跡

SB-001 (第17図)

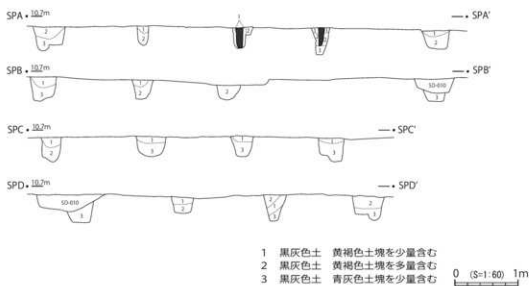
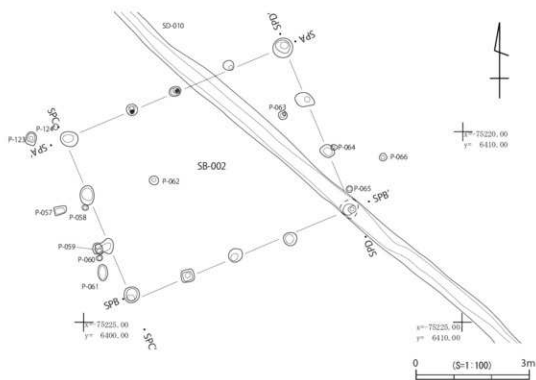
重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴14基を検出した。そのうちの12基で柱痕跡を確認した。桁行4間、梁行3間の側柱東西棟建物である。主軸は $N-20^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で1.40～1.70m、梁行で1.60～1.80mである。柱穴の平面形は円形・楕円形である。確認した柱痕跡から直径9～14cm程の柱を想定できる。

遺物 なし



第17図 SB-001 実測図

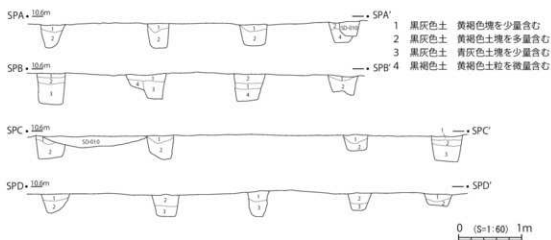
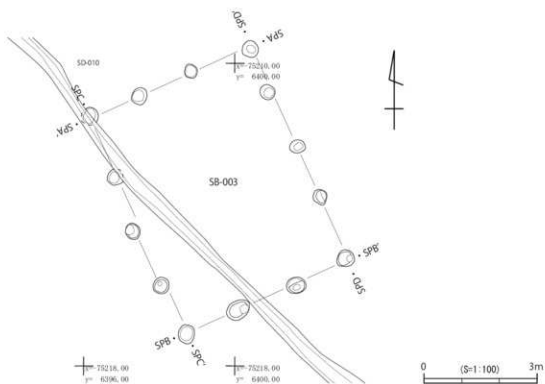


第 18 図 SB-002 実測図

SB-002(第 18 図)

重複関係 SB-002→SD-010、P-059・064

規模・形態・構造 柱穴 14 基を検出した。そのうちの 2 基で柱痕跡を確認した。桁行 4 間、梁行 3 間の側柱東西棟建物である。主軸は $N-22^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.30 ~ 1.85m、梁行で 1.45 ~ 1.65m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径 12 ~ 14cm 程の柱を想定できる。
遺物 なし



第 19 図 SB-003 実測図

SB-003 (第 19 図)

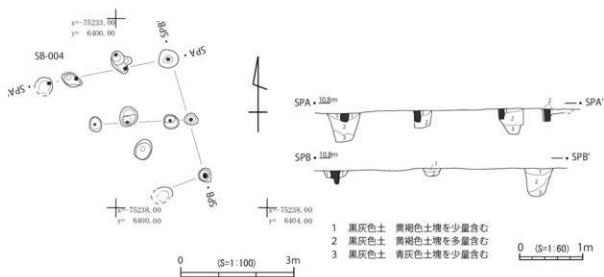
重複関係 SB-003 → SD-010

規模・形態・構造 柱穴 14 基を検出した。桁行 4 間、梁行 3 間の側柱南北棟建物である。主軸は N-24°-W で、柱間は桁行で 1.35 ~ 1.80m、梁行で 1.45 ~ 1.70m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。

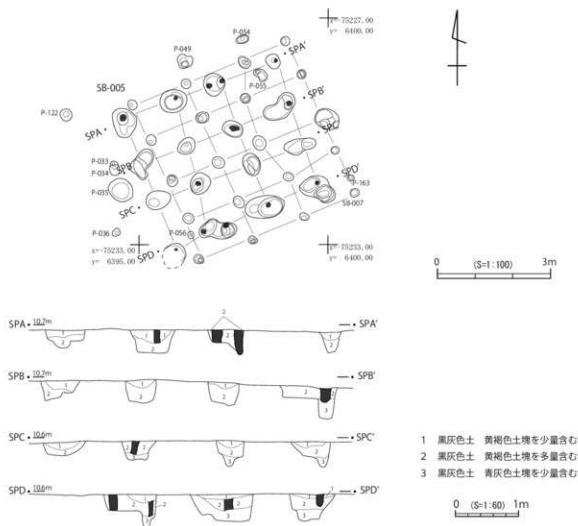
遺物 なし

SB-004 (第 20 図)

重複関係 なし



第 20 図 SB-004 実測図



第 21 図 SB-005 実測図

規模・形態・構造 柱穴 11 基を検出した。そのうちの 9 基で柱痕跡を確認した。桁行 2 間以上、梁行 2 間以上の総柱建物の可能性があるが、対応する柱穴が検出されなかった。主軸は $N-11^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 0.87m ~ 1.65m、梁行で 1.09 ~ 1.30m である。柱穴の平面形は楕円形・不整形である。確認した柱痕跡から直径 10 ~ 14cm 程の柱を想定できる。

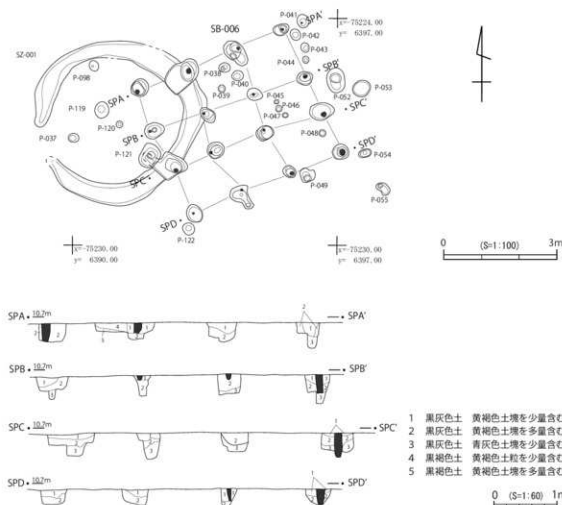
遺物 なし

SB-005 (第 21 図)

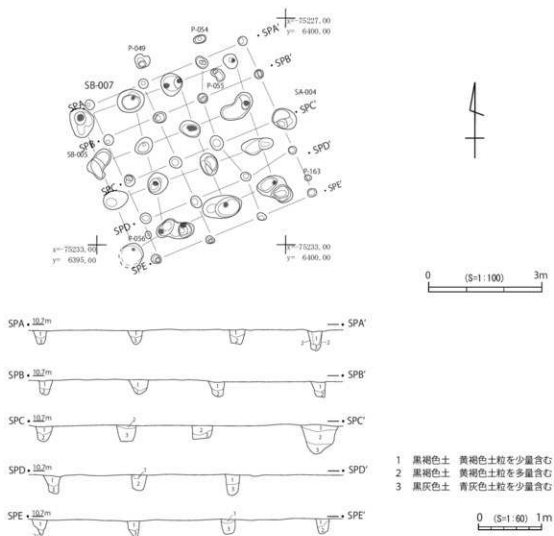
重複関係 SB-007 との新旧関係は不明である。

規模・形態・構造 柱穴 16 基を検出した。そのうちの 11 基で柱痕跡を確認した。桁行 3 間、梁行 3 間の総柱東西棟建物である。主軸は $N-20^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.25 ~ 1.50m、梁行で 1.15 ~ 1.40m である。柱穴の平面形は楕円形・不整形である。確認した柱痕跡から直径 11 ~ 15cm 程の柱を想定できる。

遺物 なし



第 22 図 SB-006 実測図



第23図 SB-007実測図

SB-006 (第22図)

重複関係 SZ-001 → SB-006 → P-121

規模・形態・構造 柱穴16基を検出し、柱痕跡を確認した。桁行3間、梁行3間の総柱東西棟建物である。主軸はN-23°-Wで、柱間は桁行で1.30～1.50m、梁行で1.10～1.40mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径12～18cm程の柱を想定できる。

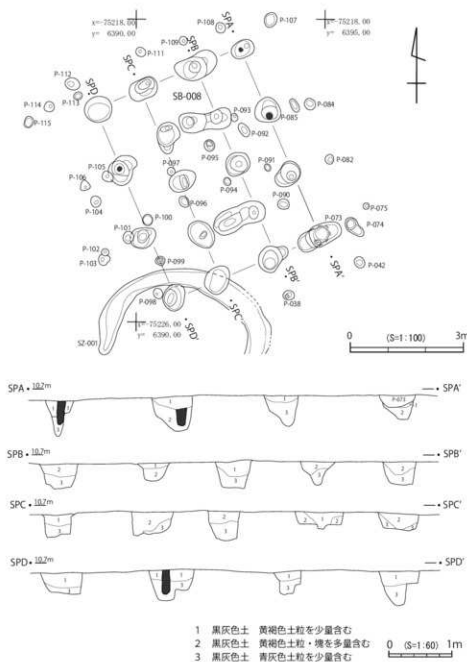
遺物 なし

SB-007 (第23図)

重複関係 SB-005との新旧関係は不明である。

規模・形態・構造 柱穴20基を検出した。桁行4間、梁行3間の総柱南北棟建物である。主軸はN-23°-Wで、柱間は桁行で1.05～1.25m、梁行で1.45～1.50mである。柱穴の平面形は円形・楕円形である。

遺物 なし



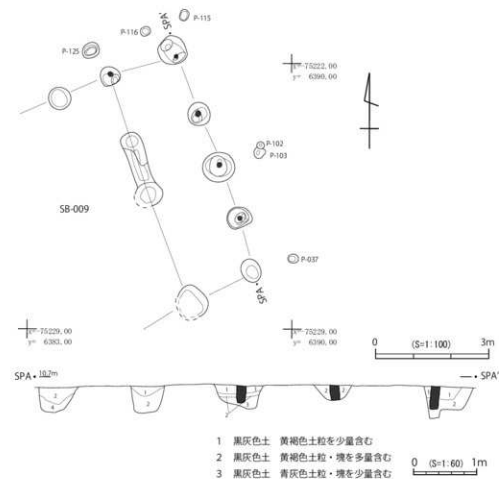
第 24 図 SB-008 実測図

SB-008 (第 24 図)

重複関係 SZ-001 → SB-008 → P-073・101・105

規模・形態・構造 柱穴 18 基を検出した。そのうちの 3 基で柱痕跡を確認した。桁行 3 間、梁行 3 間の総柱南北棟建物であるが、中央部の柱穴の数が外周の数より多い。主軸は $N-21^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.70 ~ 1.90m、梁行で 1.30 ~ 1.55m である。柱穴の平面形は円形・楕円形である。確認した柱痕跡から直径 10 ~ 16 cm 程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



第25図 SB-009実測図

SB-009(第25図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴10基を検出した。そのうちの5基で柱痕跡を確認した。桁行4間、梁行2間以上の総柱南北棟建物の可能性があるが、対応する柱穴が検出されなかった。主軸は $N-19^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で1.45～1.60m、梁行で0.92～1.80mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整形である。確認した柱痕跡から、直径12～16cm程の柱を想定できる。

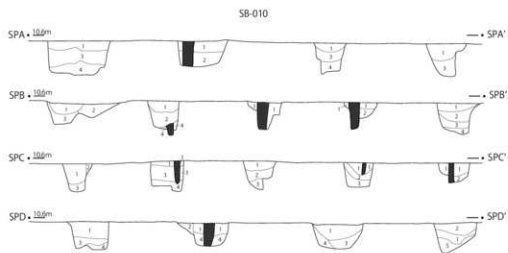
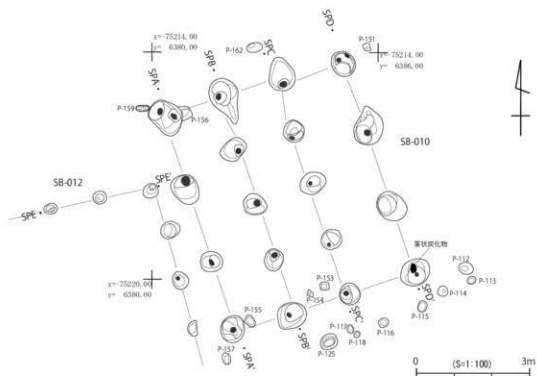
遺物 土師器が出土した。坏片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SB-010(第26図)

重複関係 P-156 → SB-010

規模・形態・構造 柱穴18基を検出した。そのうちの17基で柱痕跡を確認した。桁行3間、梁行3間の総柱南北棟建物であるが、中央部の柱穴の数が外周の数より多い。主軸は $N-17^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で1.85～2.25m、梁行で1.50～1.85mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径13～18cm程の柱を想定できる。柱穴のうち1基では、茎状炭化物を多量に含む覆土が検出された。

遺物 土師器が出土した。坏・甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



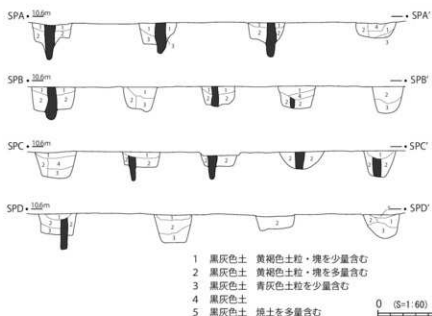
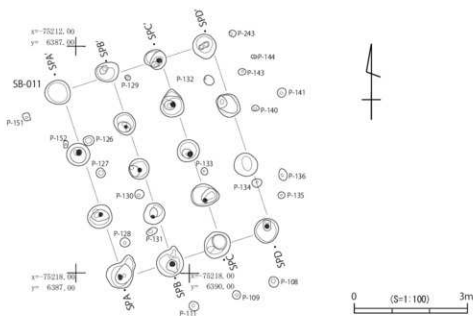
- 1 黒灰色土 黄褐色土粒・塊を少量含む
- 2 黒灰色土 黄褐色土粒・塊を多量含む
- 3 黒灰色土 青灰色土粒・塊を少量含む
- 4 黒灰色土
- 5 黒灰色土 茎状の炭化物を多量含む



- 1 黒灰色土 黄褐色土粒を少量含む
- 2 黒灰色土 黄褐色土粒・塊を多量含む
- 3 黒灰色土 黄褐色土塊を少量含む

0 (S=1:60) 1m

第 26 図 SB-010・012 実測図



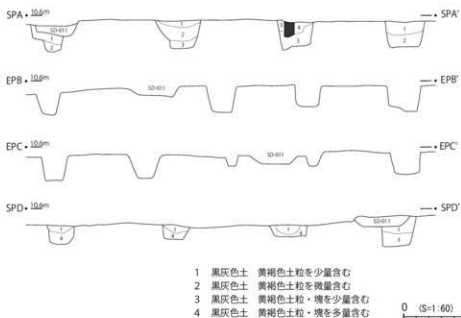
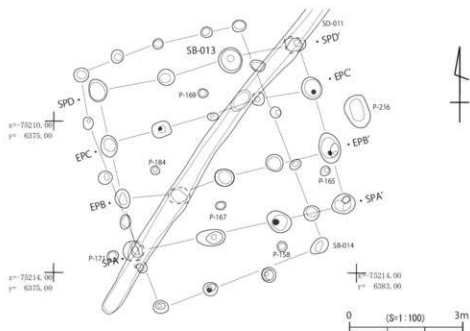
第 27 図 SB-011 実測図

SB-011 (第 27 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴 18 基を検出した。そのうちの 12 基で柱痕跡を確認した。桁行 3 間、梁行 3 間の総柱南北棟建物であるが、中央部の柱穴の数が外周の数より多い。主軸は $N-18^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.65 ~ 1.75m、梁行で 1.30 ~ 1.45m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整な円形である。確認した柱痕跡から直径 12 ~ 18 cm 程の柱を想定できる。柱穴のうち 1 基では、確認面で焼土を多量に含む覆土が検出された。

遺物 なし



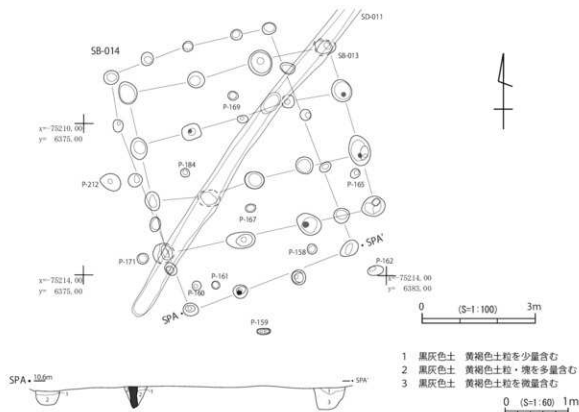
第 28 図 SB-013 実測図

SB-012 (第 26 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴 6 基を検出した。そのうちの 1 基で柱痕跡を確認した。桁行 3 間以上、梁行 2 間以上の側柱建物の可能性があるが、対応する柱穴が検出されなかった。主軸は $N-11^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.15 ~ 1.35m、梁行で 1.25 ~ 1.55m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 12 cm 程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



第29図 SB-014 実測図

SB-013(第28図)

重複関係 SB-013→SD-011、SB-014 との新旧関係は不明である。

規模・形態・構造 柱穴18基を検出した。そのうちの4基で柱痕跡を確認した。桁行3間、梁行3間の総柱東西棟建物であるが、中央部の柱穴の数が外周の数より多い。主軸はN-18°-Wで、柱間は桁行で1.20～2.20m、梁行で1.30～1.65mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径12～15cm程の柱を想定できる。

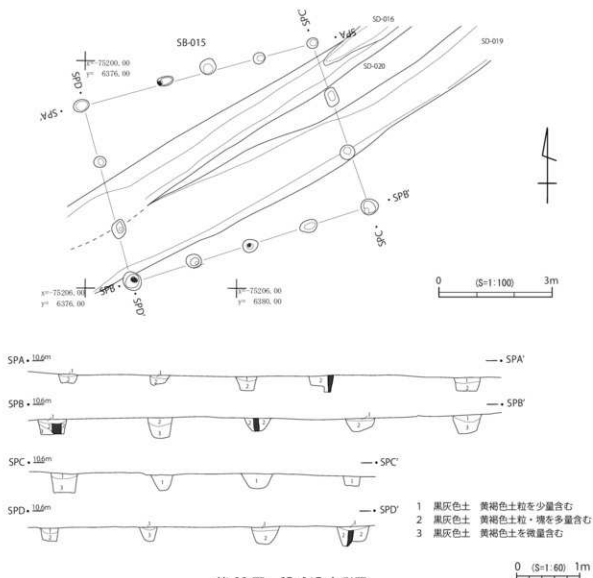
遺物 土師器が出土した。坏・甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SB-014(第29図)

重複関係 SB-014→SD-011、SB-013 との新旧関係は不明である。

規模・形態・構造 柱穴17基を検出した。そのうちの1基で柱痕跡を確認した。桁行5間、北側梁行4間、南側梁行3間の側柱南北棟建物である。主軸はN-20°-Wで、柱間は桁行で0.95～1.40m、梁行で0.85～1.30mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径14cm程の柱を想定できる。

遺物 なし



第30図 SB-015 実測図

SB-015(第30図)

重複関係 SD-020 → SD-019 → SB-015

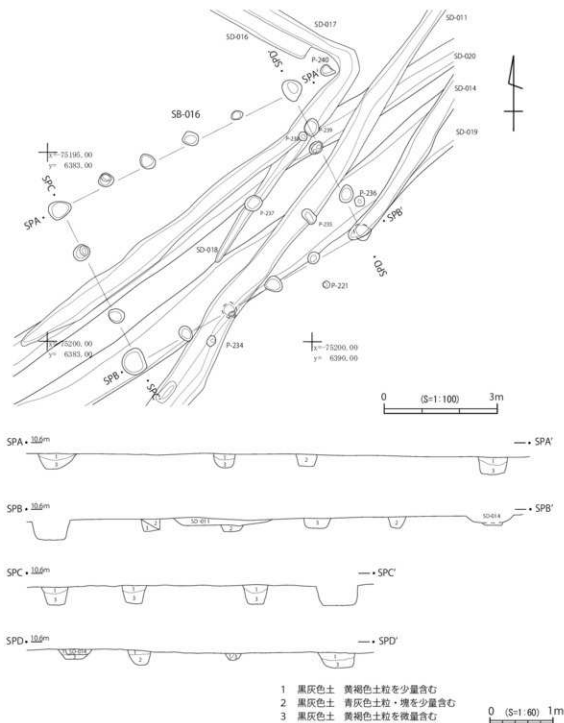
規模・形態・構造 柱穴14基を検出した。そのうちの3基で柱痕跡を確認した。桁行4間、梁行3間の側柱東西棟建物である。主軸はN-16°-Wで、柱間は桁行で1.45～1.70m、梁行で1.40～1.80mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径12～14cm程の柱を想定できる。
遺物 なし

SB-016(第31図)

重複関係 SD-020 → SD-019 → SB-016 → SD-011・014

規模・形態・構造 柱穴16基を検出した。桁行5間、梁行3間の側柱東西棟建物である。主軸はN-27°-Wで、柱間は桁行で1.15～1.60m、梁行で1.15～1.90mである。柱穴の平面形は楕円形・隅丸方形・不整な楕円形である。

遺物 土師器が出土した。坏片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

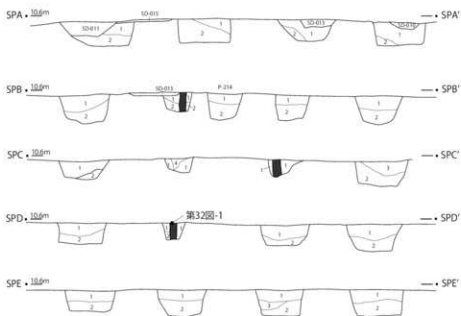
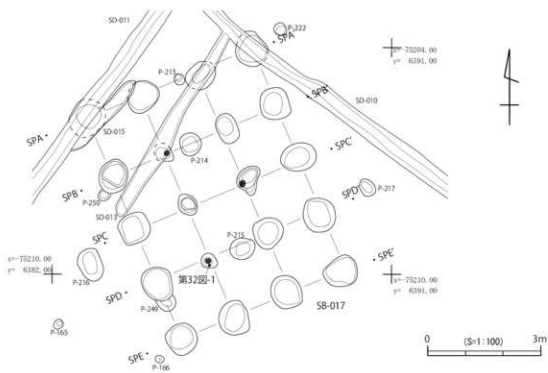


第 31 図 SB-016 実測図

SB-017 (第 32 図)

重複関係 P-249・250 → SB-017 → SD-010・011・013・015

規模・形態・構造 柱穴 20 基を検出した。そのうちの 3 基で柱痕跡を確認した。桁行 4 間、梁行 3 間の総柱南北棟建物である。主軸は $N-21^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.50 ~ 1.60m、梁行で 1.55 ~ 1.65m である。柱穴の平面形は楕円形・隅丸方形・不整形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 16cm 程の柱を想定できる。



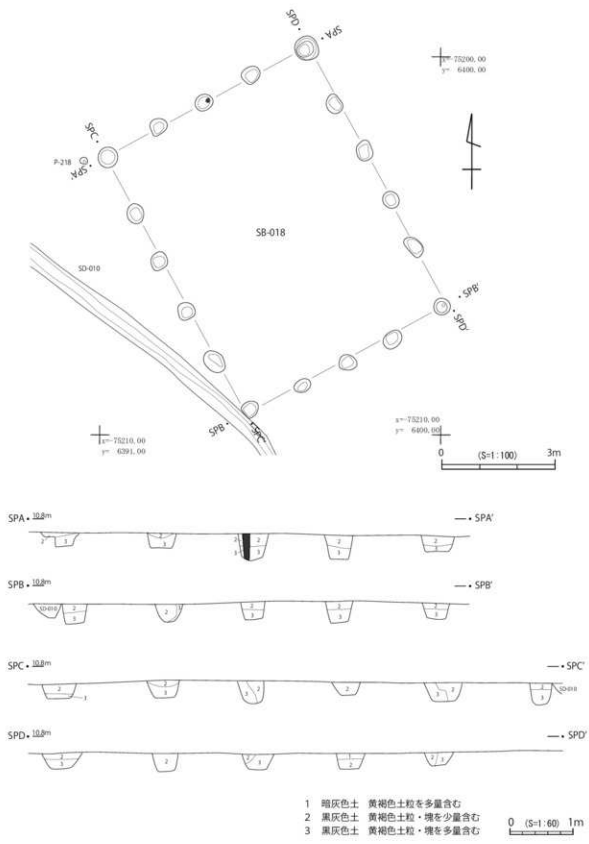
- 1 黒灰色土 黄褐色土粒・塊を多量含む
- 2 黒灰色土 黄褐色土粒・塊を少量含む
- 3 黄褐色土 黒灰色土塊を少量含む
- 4 黒灰色土 黄褐色土粒を微量含む

0 (S=1:60) 1m

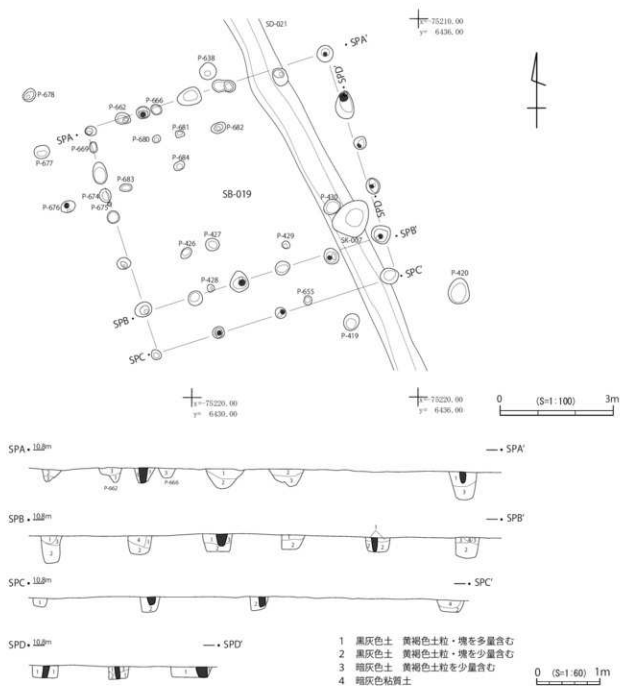


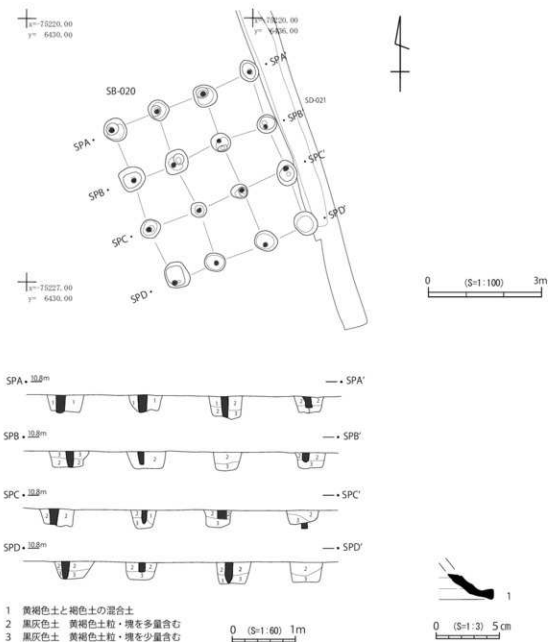
0 (S=1:3) 5cm

第 32 図 SB-017 実測図



第 33 図 SB-018 実測図





第 35 図 SB-020 実測図

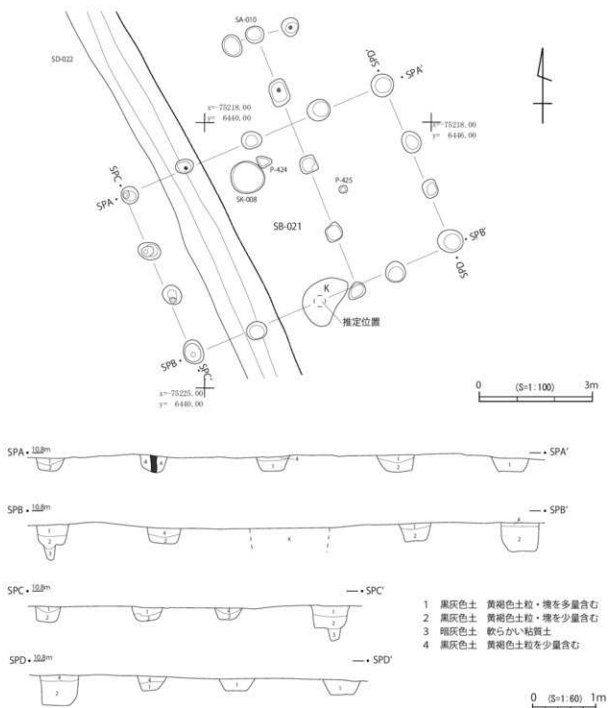
側柱南北棟建物である。主軸は $N-29^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で $1.40 \sim 1.60m$ 、梁行で $1.35 \sim 1.55m$ である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整形・不整な円形である。確認した柱痕跡から直径 $12cm$ 程の柱を想定できる。

遺物 なし

SB-019 (第 34 図)

重複関係 SD-021 \rightarrow SB-019

規模・形態・構造 柱穴を 22 基を検出した。そのうちの 10 基で柱痕跡を確認した。桁行 5 間、梁行 4 間の側柱東西棟建物で、南側に廂（縁）をもつ。主軸は $N-18^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で $1.15 \sim 1.55m$ 、梁



第 36 図 SB-021 実測図

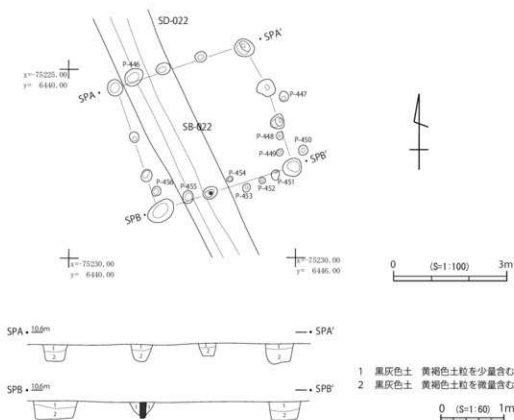
行で 1.15 ～ 1.35m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 8 ～ 20 cm 程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。坏片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SB-020 (第 35 図)

重複関係 SD-021 → SB020

規模・形態・構造 柱穴 16 基を検出した。そのうちの 15 基で柱痕跡を確認した。桁行 3 間、梁行 3 間の



第 37 図 SB-022 実測図

総柱南北棟建物である。主軸は $N-23^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で $1.35 \sim 1.60m$ 、梁行で $1.30 \sim 1.35m$ である。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 $10 \sim 14cm$ 程の柱を想定できる。

遺物 土師器、須恵器が出土した。1は須恵器高坏の脚部片である。遺存高 $2.0cm$ 。ロクロ成形。スカシ孔があると考えられる。焼成は良好。色調は灰白色。胎土は白色土粒、砂粒を含む。

SB-021 (第 36 図)

重複関係 SD-022 → SB-021、SA-010 との新旧関係は不明である。

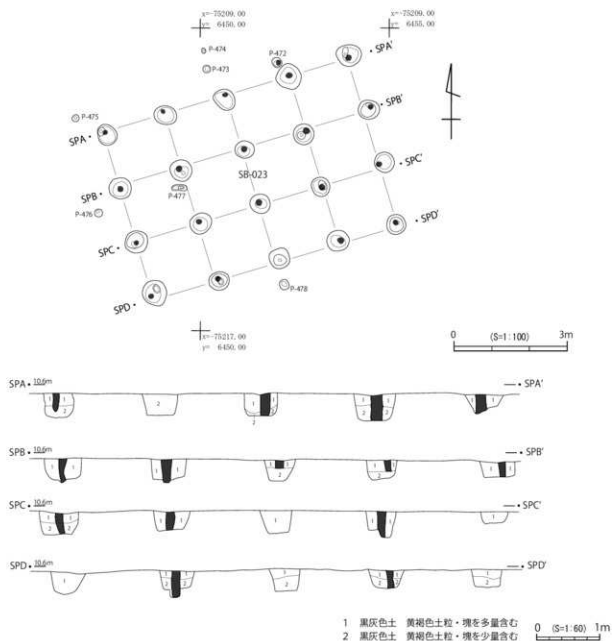
規模・形態・構造 柱穴 13 基を検出した。そのうちの 1 基で柱痕跡を確認した。桁行 4 間、梁行 3 間の側柱東西棟建物である。主軸は $N-22^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で $1.70 \sim 2.00m$ 、梁行で $1.35 \sim 1.70m$ である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径 $10cm$ 程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。坏・甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SB-022 (第 37 図)

重複関係 SD-022 → SB-022

規模・形態・構造 柱穴 11 基を検出した。そのうちの 1 基で柱痕跡を確認した。桁行 3 間、梁行 3 間の側柱東西棟建物である。主軸は $N-22^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で $1.40 \sim 2.30m$ 、梁行で $1.10 \sim 1.40m$ である。



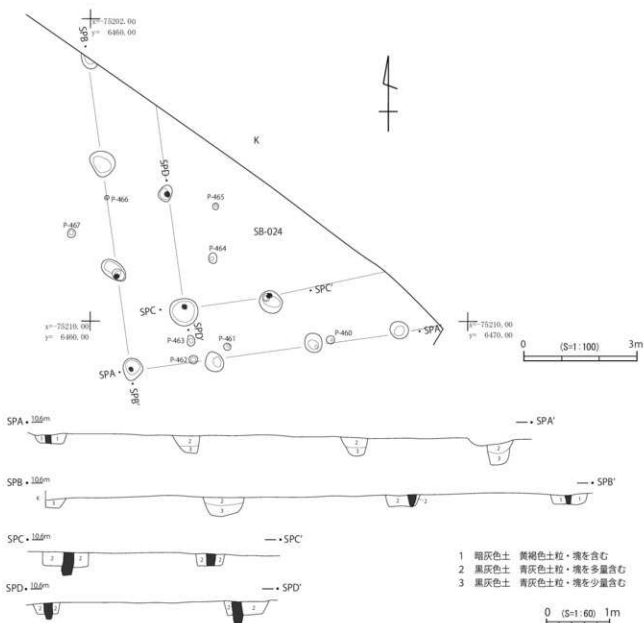
第 38 図 SB-023 実測図

柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径 10 cm 程の柱を想定できる。
遺物 土師器が出土した。壺片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SB-023 (第 38 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴 20 基を検出した。そのうちの 19 基で柱痕跡を確認した。桁行 4 間、梁行 3 間の総柱東西棟建物である。主軸は N-16°-W で、柱間は桁行で 1.60 ~ 1.75m、梁行で 1.40 ~ 1.60m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 10 ~ 15 cm 程の柱を想定できる。



第 39 図 SB-024 実測図

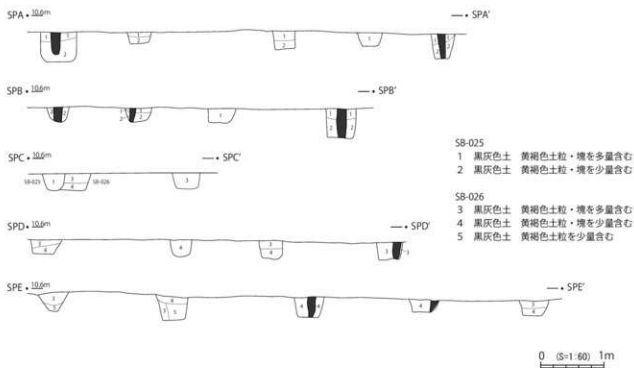
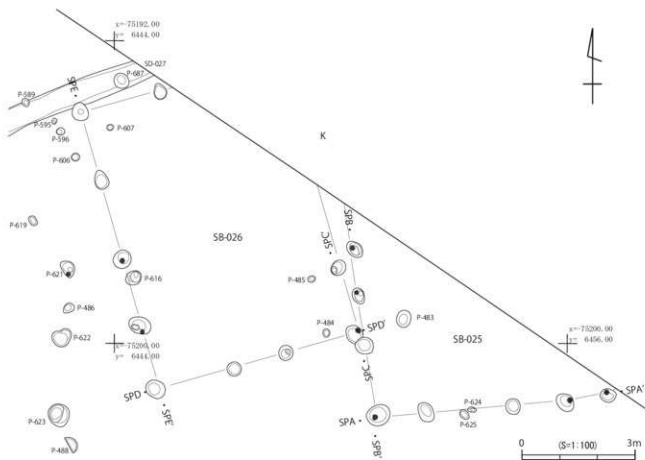
遺物 土師器が出土した。甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SB-024(第 39 図)

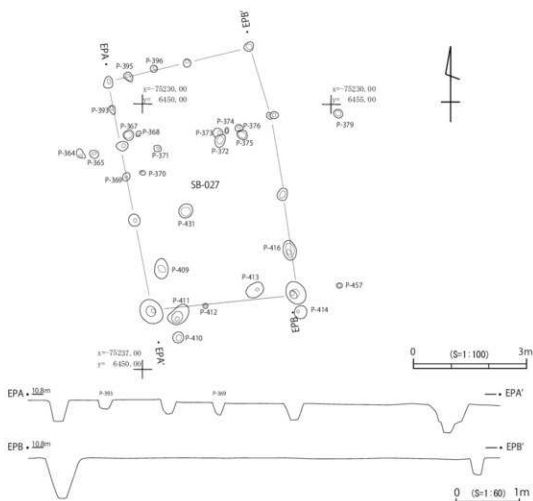
重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴 10 基を検出した。そのうちの 5 基で柱痕跡を確認した。攪乱によって削平されており、検出部分では桁行 1 間以上、梁行 1 間以上で南と西側に廂(縁)をもつ建物の可能性がある。主軸は N-8°-W で、柱間は桁行で 1.60 ~ 1.75m、梁行で 1.40 ~ 1.60m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 10 ~ 15 cm 程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。高坏片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



第 40 図 SB-025・026 実測図



第 41 図 SB-027 実測図

SB-025 (第 40 図)

重複関係 SB-026 → SB-025

規模・形態・構造 柱穴 8 基を検出した。そのうちの 5 基で柱痕跡を確認した。攪乱によって削平されており、検出部分では桁行 4 間以上、梁行 3 間以上の側柱建物の可能性がある。主軸は $N-9^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 0.95 ~ 2.25m、梁行で 1.15 ~ 1.90m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 11 ~ 16 cm 程の柱を想定できる。

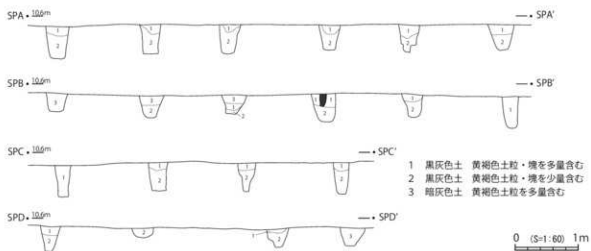
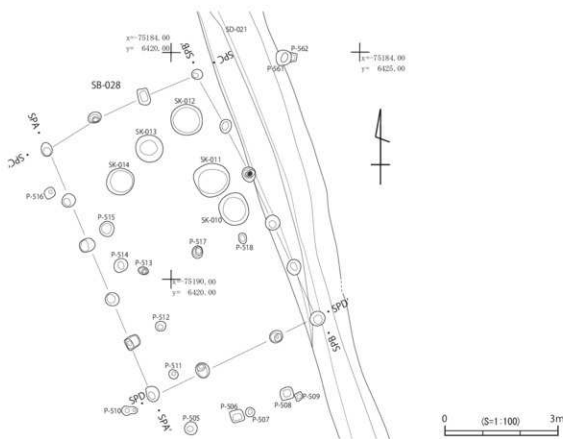
遺物 なし

SB-026 (第 40 図)

重複関係 SB-027 → SB-026 → SB-025

規模・形態・構造 柱穴 10 基を検出した。そのうちの 3 基で柱痕跡を確認した。攪乱によって削平されているが、桁行 4 間、梁行 3 間の側柱南北棟建物である。主軸は $N-15^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.50 ~ 2.25m、梁行で 1.45 ~ 2.10m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整な楕円形である。確認した痕跡から直径 12 ~ 15 cm 程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



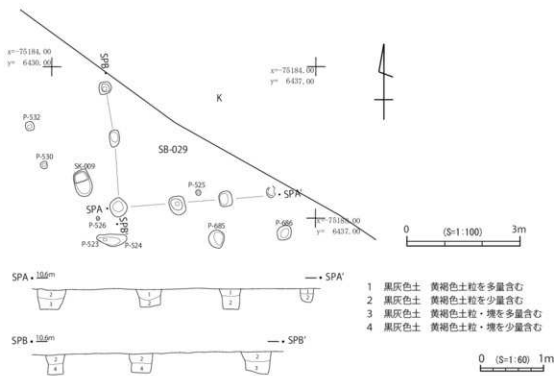
第 42 図 SB-028 実測図

SB-027 (第 41 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴 9 基を検出した。桁行 3 間、北側梁行 2 間、南側梁行 1 間の側柱南北棟建物である。主軸は $N-10^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.90 ~ 2.60m、梁行で 1.65 ~ 2.15m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整な楕円形である。

遺物 なし



第 43 図 SB-029 実測図

SB-028 (第 42 図)

重複関係 SD-021 → SB-028

規模・形態・構造 柱穴 16 基を検出した。そのうちの 1 基で柱痕跡を確認した。桁行 5 間、梁行 3 間の側柱南北棟建物である。主軸は $N-26^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.25 ~ 1.55m、梁行で 1.15 ~ 2.10m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径 12 cm 程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。壺片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SB-029 (第 43 図)

重複関係 なし

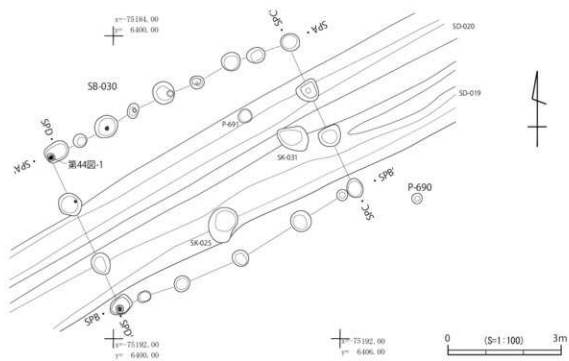
規模・形態・構造 柱穴 6 基を検出した。捜乱によって削平されており、検出部分では桁行 3 間以上、梁行 2 間以上の側柱建物の可能性がある。主軸は $N-7^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.25 ~ 1.55m、梁行で 1.30 ~ 1.85m である。柱穴の平面形は楕円形・隅丸方形である。

遺物 なし

SB-030 (第 44 図)

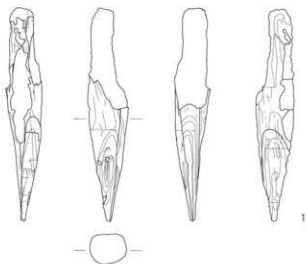
重複関係 SD-020 → SD-019 → SB-030

規模・形態・構造 柱穴 20 基を検出した。そのうちの 4 基で柱痕跡を確認した。桁行 4 間、梁行 3 間の側柱東西棟建物である。主軸は $N-26^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で 1.55 ~ 1.95m、梁行で 1.20 ~ 1.70m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 12 cm 程の柱を想定できる。



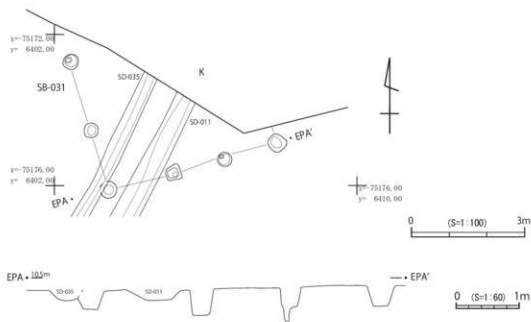
- 1 黒灰色土 黄褐色土粒を多量含む
- 2 黒灰色土 黄褐色土粒を少量含む
- 3 黒灰色土 黄褐色土粒・塊を多量含む
- 4 黒灰色土 黄褐色土粒・塊を少量含む

0 1m (S=1:60)



0 10cm (S=1:4)

第44図 SB-030 実測図



第45図 SB-031実測図

遺物 土師器・陶磁器・柱根が出土した。土師器は坏・甕片、上面から近世陶器の土版片、近世磁器の碗片が出土した。

1は柱根である。柱穴内から立てられた状態で出土した。遺存高22.6cm、径3.8cm。先端に向かって細くなるように加工されている。

SB-031(第45図)

重複関係 SB-031→SD-035、SD-011との新旧関係は不明である。

規模・形態・構造 柱穴6基を検出した。攪乱によって削平されており、検出部分では桁行3間、梁行2間以上の側柱建物の可能性がある。主軸は $N-17^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で1.65～1.95m、梁行で1.30～1.80mである。柱穴の平面形は円形・隅丸方形・不整な槽円形である。

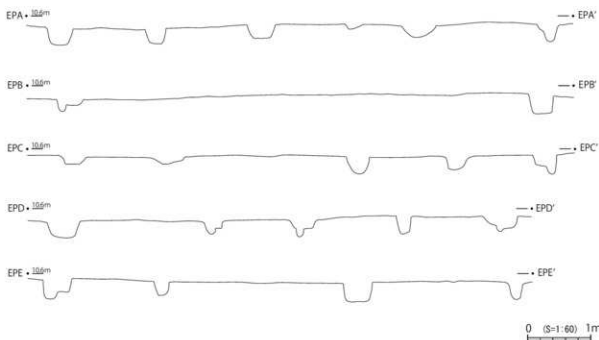
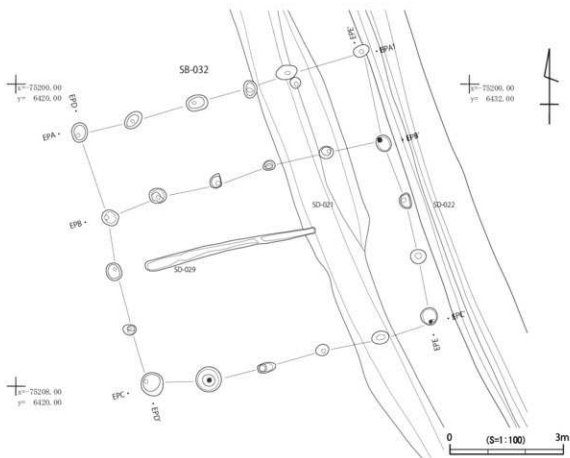
遺物 なし

SB-032(第46図)

重複関係 SD-021・022→SB-032

規模・形態・構造 柱穴22基を検出した。そのうちの3基で柱痕跡を確認した。桁行5間、梁行3間の側柱東西棟建物で、北側に廂(縁)をもつ。主軸は $N-13^{\circ}-W$ で、柱間は桁行で1.35～1.65m、梁行で1.50～1.75mである。柱穴の平面形は円形・槽円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径10～12cm程の柱を想定できる。

遺物 なし



第 46 图 SB-032 实测图

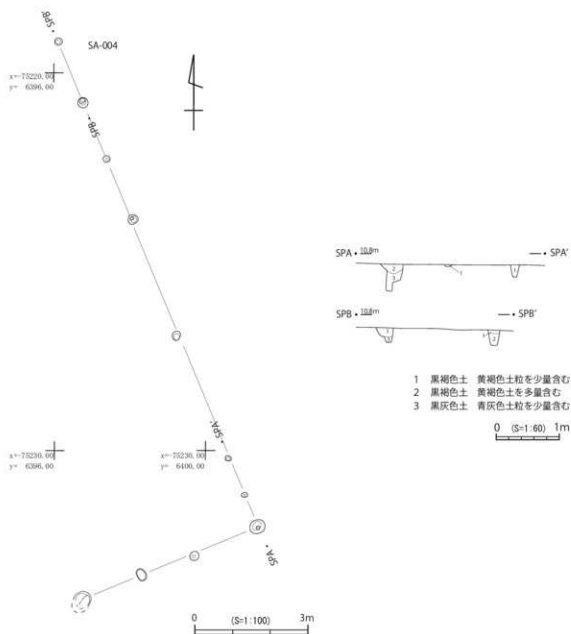
柱穴列

SA-004 (第 47 図)

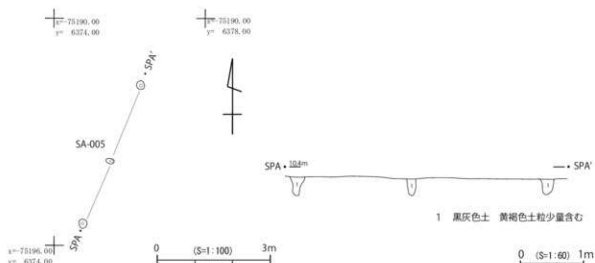
重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴 11 基を検出した。柱穴の配置は L 字状である。長軸を基準に主軸は $N-22^{\circ}-W$ で、長さ 19.20m、柱間は 0.90 ~ 3.50m である。柱穴の平面形は円形・楕円形である。

遺物 なし



第 47 図 SA-004 実測図



第 48 図 SA-005 実測図

SA-005(第 48 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 柱穴 3 基を検出した。柱穴の配置は直線である。主軸は $N-23^{\circ}-E$ で、長さ 4.16m、柱間は 1.30 ~ 2.15m である。柱穴の平面形は円形・楕円形である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SA-006(第 49 図)

重複関係 SA-006 → SD-010

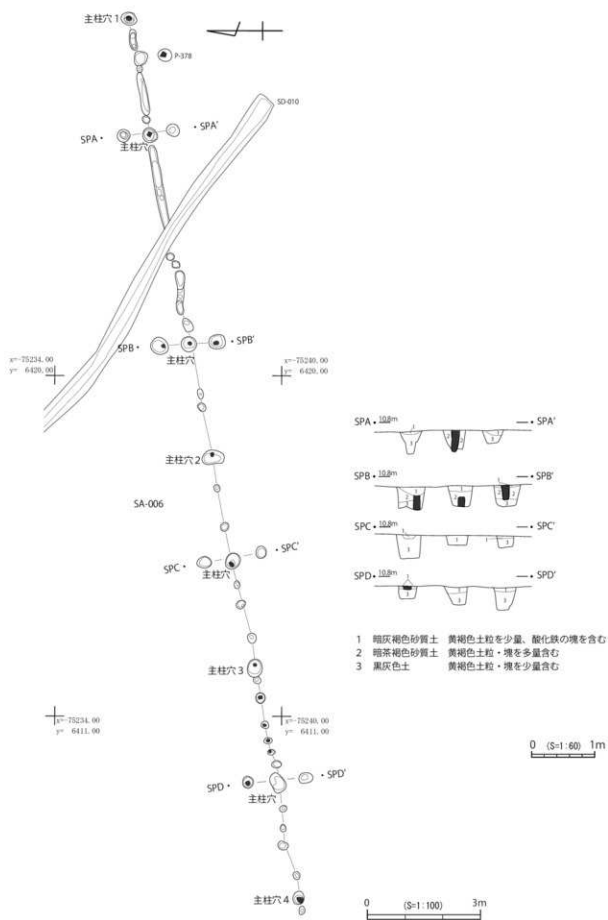
規模・形態・構造 柱穴 40 基を検出した。両脇に 1 基ずつ控え柱穴が配置された主柱穴 4 基とその控え柱穴 8 基、控え柱穴を持たない主柱穴 4 基によって構成され、そのうちの主柱穴 6 基、控え柱穴 4 基で柱痕跡を確認した。控え柱穴を持たない主柱穴の深さは、1 が 26 cm、2 が 46 cm、3 が 21 cm、4 が 42 cm で、深さ 20 cm 以内の小柱穴と比べ掘り方がしっかりしていたものを主柱穴と判断した。主柱穴間には小柱穴と溝状遺構が配置され、そのうちの 5 基で柱痕跡を確認した。主柱穴の配置は直線である。主軸は $N-80^{\circ}-E$ で、長さ 24.31m、主柱穴の柱間は 2.75 ~ 3.20m である。主柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形で、確認した柱痕跡から 8 ~ 10cm × 12 ~ 15cm 程の四角い柱を想定できる。控え柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形で、確認した柱痕跡から 8 ~ 10cm × 14cm 程の四角い柱を想定できる。小柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な円形で、確認した柱痕跡から 5 ~ 7 cm × 12cm 程の四角い柱と直径 9 cm 程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

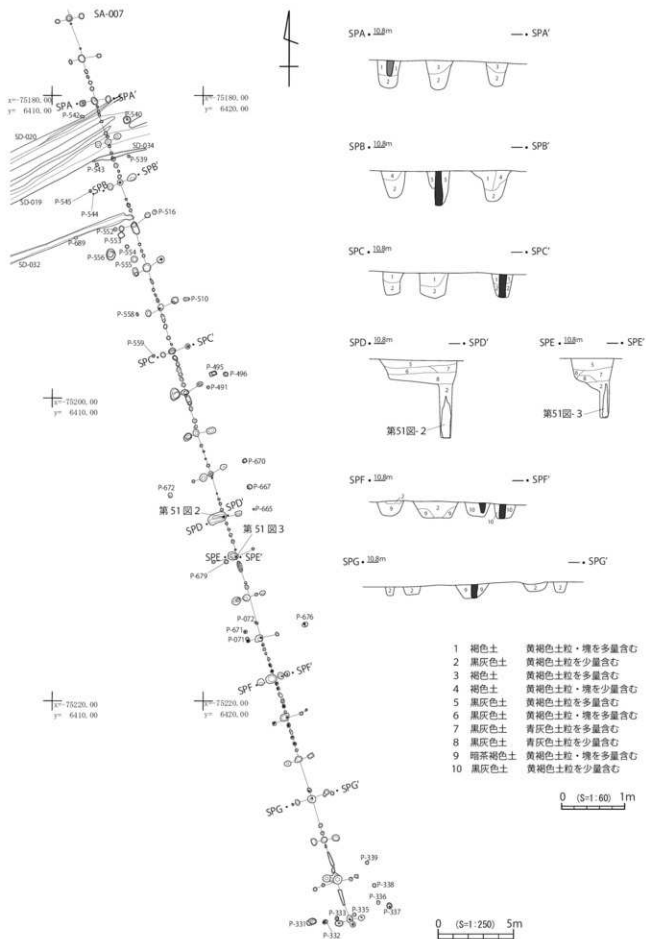
SA-007(第 50・51 図)

重複関係 SD-020 → SD-019 → SA-007 → SD-032・034、P-071

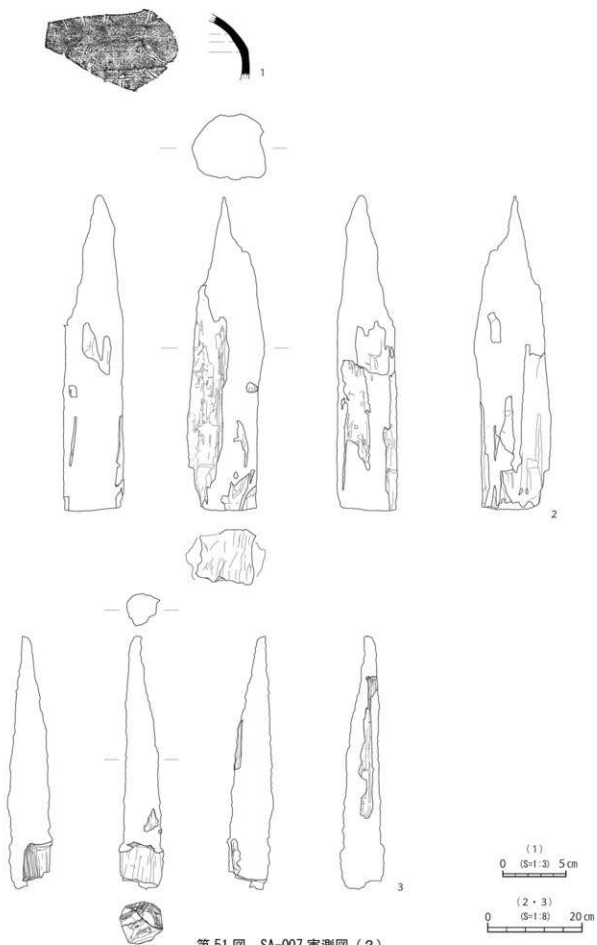
規模・形態・構造 柱穴 160 基を検出した。両脇に 1 基ずつ控え柱穴が配置された主柱穴によって構成さ



第 49 図 SA-006 実測図



第50図 SA-007 実測図 (1)



第 51 図 SA-007 実測図 (2)

れ、そのうちの主柱穴7基、控え柱穴8基で柱痕跡を確認した。主柱穴間には小柱穴と溝状遺構が配置され、そのうちの10基で柱痕跡を確認した。主柱穴の配置は直線である。主軸はN-17°-Wで、長さ63.02m、主柱穴の柱間は2.70～3.00mである。主柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形で、確認した柱痕跡から13×15cm程の四角い柱と直径13～14cm程の柱を想定できる。控え柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な楕円形で、確認した柱痕跡から8～12cm×9～12.5cm程の四角い柱と直径10～15cm程の柱を想定できる。小柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な楕円形で、確認した柱痕跡から10～16cm×7～13cm程の四角い柱と直径7～19cm程の柱を想定できる。

遺物 土師器、須恵器、柱根が出土した。1は須恵器壺の肩部から体部片である。ロクロ成形。焼成は良好。色調は灰白色。胎土は白色土粒、黒色土粒、赤褐色土粒を含む。2・3は柱根である。2は柱根で、柱穴内に立てられた状態で出土した。遺存高66.2cm、底部11cm×13cmの方形。下部及び底部に加工痕がみられる。3は柱根で、柱穴内に立てられた状態で出土した。遺存高53.4cm、底部9.1cmの円形。下部及び底部に加工痕がみられる。

SA-008(第52図)

重複関係 SA-008→SK-032、SA-009と同一の可能性がある。

規模・形態・構造 柱穴19基を検出した。両脇に1基ずつ控え柱穴が配置された主柱穴によって構成され、主柱穴の配置は直線である。主軸はN-85°-Eで、長さ16.80m、主柱穴の柱間は3.20～3.40mである。主柱穴の平面形は円形・隅丸方形、控え柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な隅丸方形である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SA-009(第53図)

重複関係 SD-023→SA-009、SA-008と同一の可能性がある。

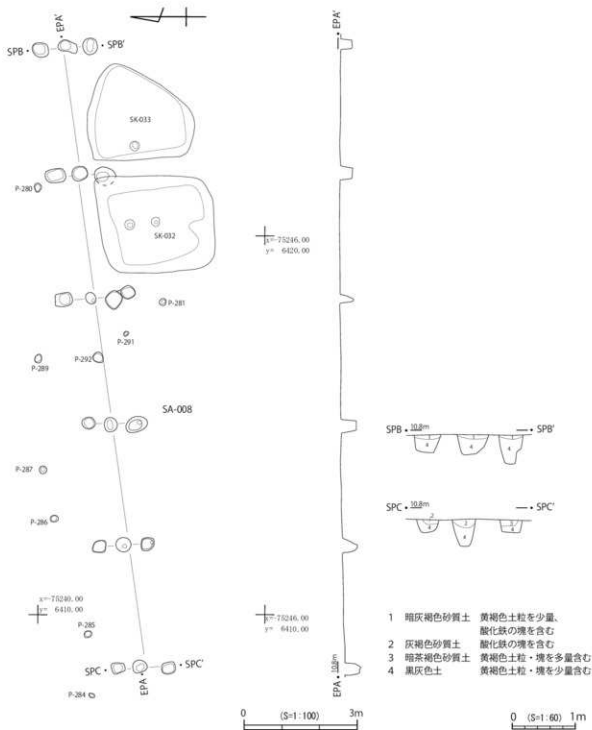
規模・形態・構造 柱穴14基を検出した。両脇に1基ずつ控え柱穴が配置された主柱穴によって構成され、主柱穴の配置は直線である。そのうちの主柱穴3基、控え柱穴4基で柱痕跡を確認した。主軸はN-75°-Eで、長さ9.28m、主柱穴の柱間は2.85～3.00mである。主柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形で、確認した柱痕跡から直径10～12cm程の柱を想定できる。控え柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形で、確認した柱痕跡から直径8～14cm程の柱を想定できる。

遺物 土師器・須恵器が出土した。壺片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SA-010(第54図)

重複関係 SB-021との新旧関係は不明である。

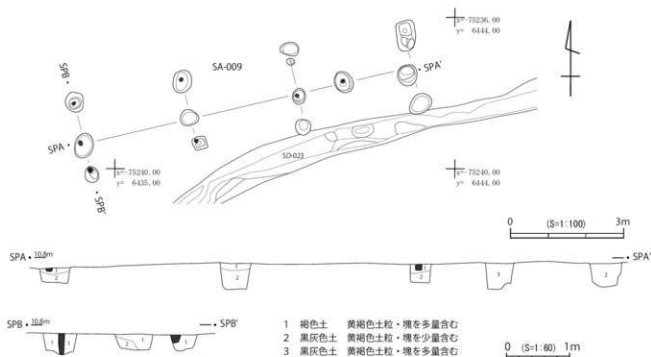
規模・形態・構造 柱穴7基を検出した。そのうちの2基で柱痕跡を確認した。控え柱穴が配置された主柱穴が1基検出された。主柱穴の配置は直線である。主軸はN-22°-Wで、長さ7.72m、主柱穴の柱間は1.65～2.20mである。主柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形である。確認した柱痕跡から直径10～15cm程の柱を想定できる。控え柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形で、確認した柱痕跡から直



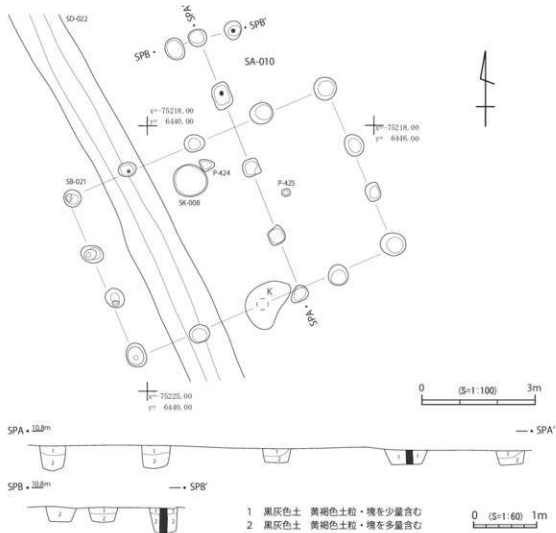
第52図 SA-008 実測図

径8～10 cm程の柱を想定できる。

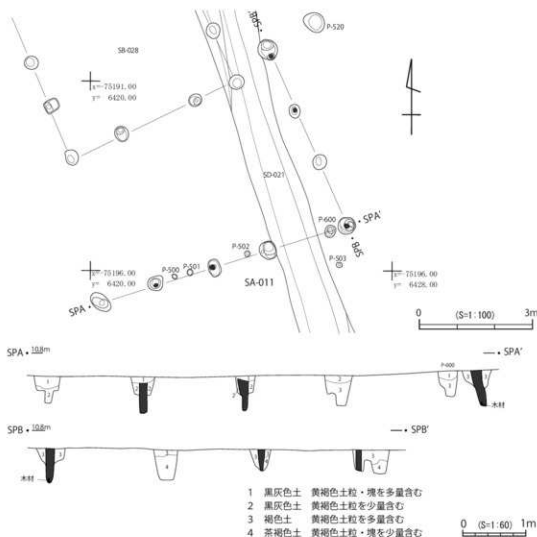
遺物 土師器が出土した。破片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



第53図 SA-009 実測図



第54図 SA-010 実測図



第55図 SA-011実測図

SA-011(第55図)

重複関係 SD-021→SA-011

規模・形態・構造 柱穴8基を検出した。そのうちの5基で柱痕跡を確認した。柱穴の配置はL字状である。主軸はN-25°-Wで、長さ12.30m、柱間は1.50～2.10mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整な円形である。確認した柱痕跡から直径10～17cm程の柱を想定できる。

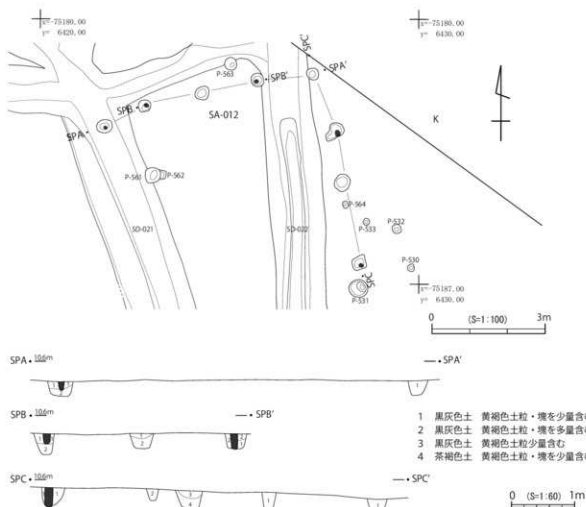
遺物 土師器、須恵器が出土した。坏・高坏・甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。柱痕跡を確認した柱穴1基から柱根と思われる木材を検出したが、脆く取り上げることはできなかった。

SA-012(第56図)

重複関係 SD-021・022→SA-012

規模・形態・構造 柱穴8基を検出した。そのうちの5基で柱痕跡を確認した。柱穴の配置はL字状である。主軸はN-13°-Wで、長さ11.35m、柱間は1.20～2.20mである。柱穴の平面形は円形・楕円形・方形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径12cm程の柱を想定できる。

遺物 土師器が出土した。甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



第 56 図 SA-012 実測図

SA-013 (第 57 図)

重複関係 SD-027 → SA-013

規模・形態・構造 柱穴 12 基を検出した。そのうちの 2 基で柱痕跡を確認した。柱穴の配置は L 字状である。主軸は $N-5^{\circ}-W$ で、長さ 9.80m、柱間は 1.40 ~ 1.80m である。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整な楕円形である。確認した柱痕跡から直径 9 ~ 10cm 程の柱を想定できる。

遺物 なし

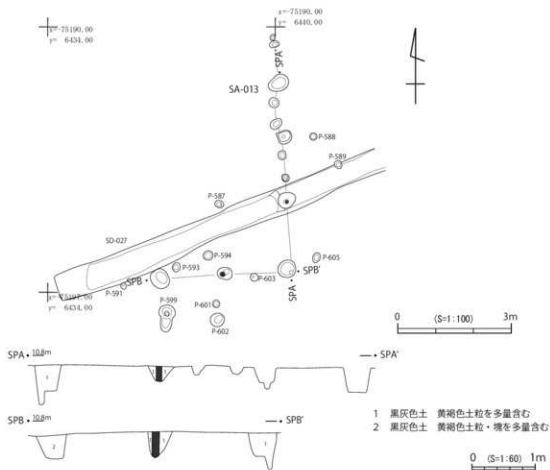
円形周溝遺構

SZ-001 (第 58 図)

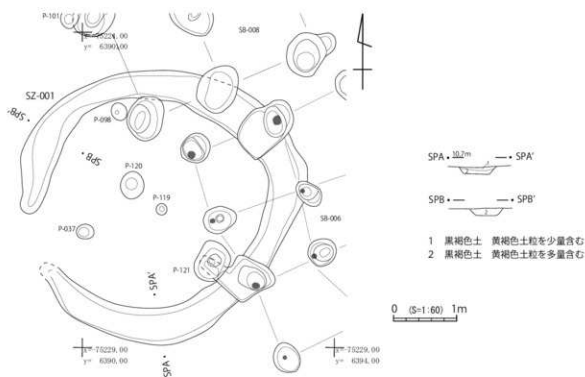
重複関係 SZ-001 → SB-006・008

規模・形態・構造 幅 0.23 ~ 0.60m、深さ 0.18m、長さ 11.45m。南西に開口する周溝状の溝である。断面形は皿状である。1 基のみの検出で、周辺の調査区からも検出はされていない。

遺物 土師器が出土した。甕片などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



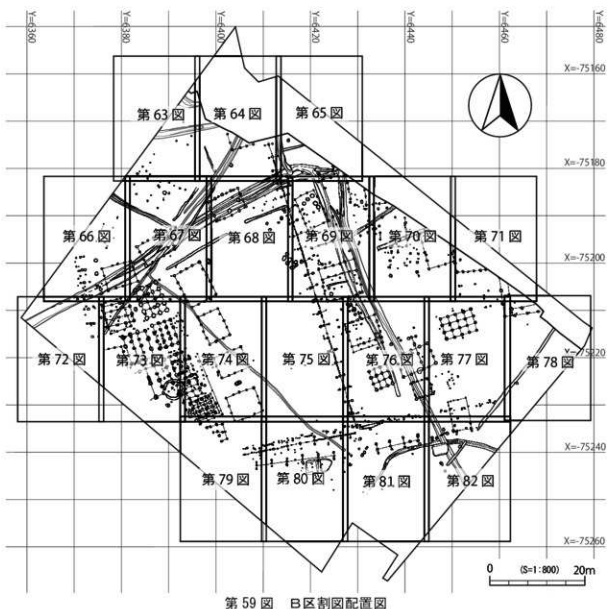
第 57 図 SA-013 実測図



第 58 図 SZ-001 実測図

溝跡・土坑・ピット (第59図)

B区で検出した溝跡・土坑・ピットについては、調査区広範囲に分布し、その検出数も多いことから平面実測図は調査区全体を割図にて報告する。



第59図 B区割図配置図

溝跡 (第60・61・63～70・72～78・80～82図、表2)

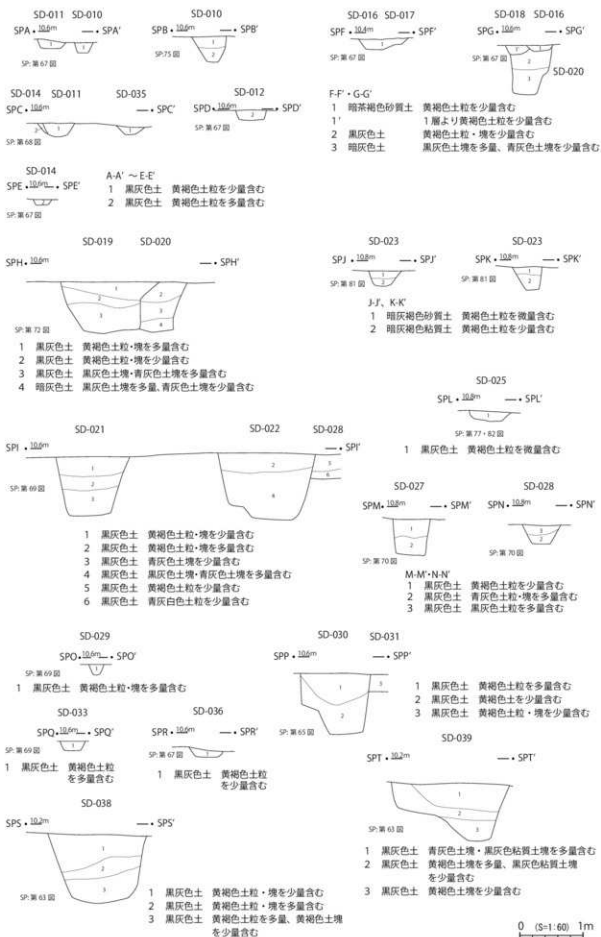
下記のとおり一覧表にまとめた。ピットとの重複関係については表4のピット観察表を参照されたい。

遺構	重複関係	規模 (m)			走行方向	断面形	出土遺物	特記事項	図版番号
		幅	長さ	深さ					
SD-010	SB-002・003・017、SA-006→	0.30～ 0.60	59.18	0.15～ 0.40	北東-南西からL字に 曲がり北西-南東	逆台形	土師器・須恵器	第60・67・73～75・ 80図	
	SD-010→SD-011								
	SD-013との重複不明								
SD-011	SD-020→SD-019→SB-013・	0.34～ 0.76	50.60	0.15～ 0.20	北東-南西	乱状	土師器・須恵器	第60・64・67・68・ 73図	
	014・016・017→SD-014・								
	015、SK-029→SD-011								
	SD-031との重複不明								

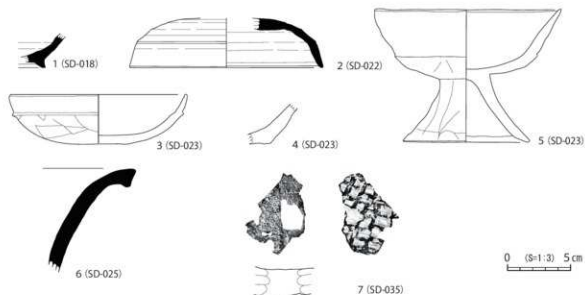
表2 B区溝跡観察表(1)

SD-012	無	0.32 ~ 0.60	1.50	0.16	東-南西	直状	土師器			第60・67・68区
SD-013	SD-017 → SD-013 SD-010上の断面不明	0.28 ~ 0.50	5.00	0.05	北東-南西	直状	無			第67・73区
SD-014	SD-020 → SD-019 → SD-016 → SD-014 → SD-011	0.28 ~ 0.60	16.00	0.10	北東-南西	直状	土師器			第60・67・68区
SD-015	SD-017 → SD-015 → SD-011	0.38 ~ 0.40	2.90	0.05	北東-南西	直状	土師器			第67区
SD-016	SD-020 → SD-018 → SD-016 SD-017上の断面不明	0.40 ~ 0.95	06.60	0.15	北西-南東からL字に 曲がり北東-南西	直状	無			第60・66・67区
SD-017	SD-016上の断面不明	0.19 ~ 0.30	10.40	0.10	北西-南東	直状	無			第60・66・67区
SD-018	SD-020 → SD-019 → SD-018 → SD-016	0.20 ~ 0.38	4.10	0.15	北東-南西	直状	無			第60・67区
SD-019	SD-020 → SD-019 → SD-015・016・030, SD-034, SA-007, SD-011・014, SK-005・025・031 SD-021・022上の断面不明	1.10 ~ 1.60	73.87	0.80	東-南西	U字状	無			第60・64 ~ 69・72区
SD-020	SD-020 → SD-019 → SD-015・016・030, SA-007, SD-011・014・016・018・030・040, SK-031 SD-021上の断面不明	0.60 ~ 1.75	65.00	0.75	東-南西	箱形	無			第60・64 ~ 68・72区
SD-021	SD-021 → SD-019・020・028・032, SA-011・SK-007	0.74 ~ 1.78	49.20	0.92	北-南東	逆台形	無	東・西側にテラス有		第60・69・76区
SD-022	SD-023・028 → SD-022 → SD-021・022・032, SA-012, SD-024・033・SK-034	1.10 ~ 1.63	72.00	1.05	北-南東	逆台形	須恵器	西側にテラス有		第60・65・69・70・76・77・82区
SD-023	SD-023 → SD-022・SA-009 → SD-024, SK-034	0.42 ~ 1.00	30.00	0.24 ~ 0.35	東-西、弧状を呈する	逆台形	土師器・須恵器			第60・81・82区
SD-024	SD-023 → SD-022 → SD-024	0.45 ~ 0.56	6.36	0.10	北東-南西	箱形	無			第82区
SD-025	無	0.55 ~ 0.90	27.10	0.16	北東-南西	直状	土師器・須恵器			第60・77・78・82区
SD-026	無	0.47 ~ 0.66	3.96	0.03	東-西	直状	土師器			第81区
SD-027	SD-027 → SD-026, SA-013	0.59 ~ 0.73	11.30	0.55	北東-南西	箱形	無			第60・70区
SD-028	SD-028 → SD-022	0.65 ~ 0.84	11.00	0.28	北東-南西	逆台形	無			第60・69・70区
SD-029	SD-021 → SD-029	0.19 ~ 0.32	4.60	0.15	北東-南西	逆台形	無			第60・69区
SD-030	SD-020・031 → SD-030	1.05 ~ 1.20	8.68	0.95	北-南	箱形	無	西側にテラス有		第60・64・65区
SD-031	SD-031 → SD-030	0.40 ~ 0.60	4.50	0.26	東-西	逆台形	無			第60・65区
SD-032	SA-007 → SD-032	0.38 ~ 0.65	9.90	0.03	東-南西	直状	無			第68区
SD-033	SD-022 → SD-033	0.20 ~ 0.45	6.32	0.15	北西-南東	逆台形	無			第60・69区
SD-034	SD-019 → SA-007 → SD-034	0.15 ~ 0.40	3.67	0.03	東-西	直状	無			第68区
SD-035	SD-031 → SD-035	0.24 ~ 0.50	20.5	0.10	北東-南西	直状	無			第60・64・67・68区
SD-036	無	0.30 ~ 0.58	7.90	0.06	北東-南西	直状	無			第60・67区
SD-037	無	0.18 ~ 0.40	4.00	0.06	北西-南東	直状	無			第64区
SD-038	無	1.18 ~ 1.67	12.80	1.10	東-西	U字状	無			第60・63・64区
SD-039	無	0.80 ~ 2.30	4.20	0.90	東-西	U字状	無	南側にテラス有		第60・63・64区
SD-040	SD-030 → SD-019 → SD-040	0.48 ~ 1.00	4.60	0.52	東-西	逆台形	土師器			第65区

表2 B区溝跡観察表(2)



第 60 図 B 区跡跡土層断面図



第 61 図 B区溝跡出土遺物実測図

溝跡出土遺物（第 61 図）

土師器・須恵器が出土した。小片のため、遺物は少ない。各溝跡から出土した遺物は一覧表に記載した。図示できた遺物は 7 点である。

1 は須恵器高台付杯の底部片である。遺存高 2.7cm、ロクロ成形。内面に赤彩、外面底部に自然釉が付着している。焼成は良好。色調は内面が暗赤褐色、外面が灰白色。胎土に砂粒を含む。2 は須恵器蓋である。口縁部から体部 1/5 の遺存である。復元口径 15.2cm、遺存高 3.9cm、ロクロ成形。焼成は良好。色調は灰色。胎土は細かい砂粒、白色土粒、小礫を含む。3 は土師器杯で完形である。口径 14.0cm、器高 3.9cm。調整は外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面は摩耗が激しく調整不明。焼成は良好。色調は橙色。白色土粒、黒色土粒、小礫を含む。4 は土師器甕の底部片である。遺存高 2.9cm。調整は内面ヨコナデ、外面ヘラケズリ。焼成は良好。色調はにぶい黄橙色。胎土は砂粒、白色土粒、小礫を含む。5 は土師器高杯で完形である。口径 14.8cm、底径 10.0cm、器高 10.5cm。調整は杯部内面ヨコナデ。外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。脚部外面ヘラケズリ・ヨコナデ。内面は摩耗が激しく調整不明。杯部内面の一部に赤彩を施す。焼成は良好。胎土は細砂粒、白色土粒、黒色土粒、赤褐色土粒を含む。6 は須恵器壺か甕の口縁部～頸部片である。ロクロ成形。焼成は良好。色調は内面灰色、外面にぶい褐色。胎土は白色土粒、小礫、黒色土粒を含む。7 は平瓦である。凸面格子状タタキ、凹面布目痕、凹面に摩耗痕があり、転用している可能性がある。厚さ 1.9～2.3cm、重さ 87.07g。焼成はやや不良。色調は黄灰色。胎土は白色土粒を含む。

土坑（第 62・64・66～69・74・76・79・80・82 図、表 3）

SK-030(第 62・67 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 平面形は楕円形で、長軸 82 cm、短軸 72 cm、深さ 5 cm。断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。1 は土師器高坏の坏部口縁部片である。調整は内面は摩耗激しく不明。外面口縁部にヨコナデが確認できる。焼成は良好。色調は浅黄橙色。胎土は砂粒、白色粒、黒色粒を含む。

SK-032(第 62・80 図)

重複関係 SA-008 → SK-032

規模・形態・構造 平面形は隅丸長方形で、長軸 305 cm、短軸 258 cm、深さ 15.1～17.9 cm。断面形は皿状である。確認面直下から炭化物、10～12 cmの深さから焼土が検出されたが、硬化面等は確認できなかった。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SK-033(第 62・80 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 平面形は隅丸台形で、長軸 285 cm、短軸 140～260 cm、深さ 7.4～14.9 cm。断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SK-034(第 62・82 図)

重複関係 SD023 → SD-022 → SK-034

規模・形態・構造 平面形は隅丸長方形で、長軸 330 cm、短軸 240 cm、深さ 34.5～43.4 cm。断面形は逆台形である。

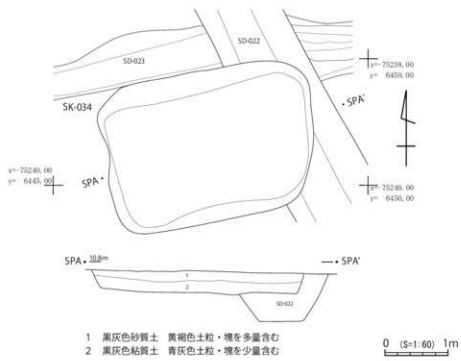
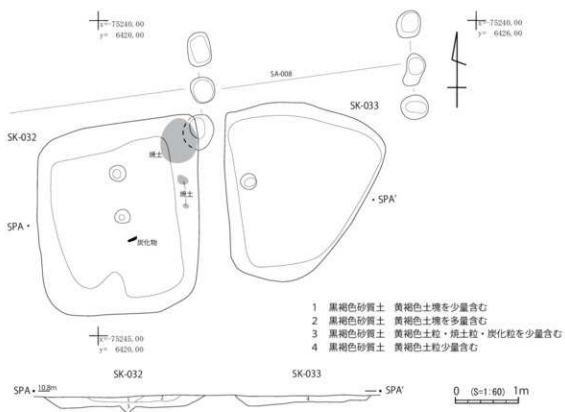
遺物 土師器が出土した。2 は高坏で坏部 1/4 の遺存である。復元口径 15.8 cm。遺存高 4.9 cm。摩耗しているが、調整は内面ヨコナデ、外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。焼成は良好。色調は橙色。胎土は細砂粒、黒色土粒、小礫を含む。3 は坏の口縁部片である。調整は内面ヨコナデ、外面口縁部ヨコナデ。外面体部は摩耗が激しく調整不明。焼成は良好。色調は浅黄橙色。胎土は砂粒、白色土粒、黒色土粒を含む。

その他土坑

下記のとおり一覧表にまとめた。

遺構	重複関係	規模 (cm)			平面形	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ			
SK-001	SK-001 → P-035・036	140	80～80	36	不正な隅丸方形	無	第 74・79 図
SK-002	無	138	88	35	楕円形	無	第 74 図
SK-003	無	82	65	27	楕円形	無	第 66 図

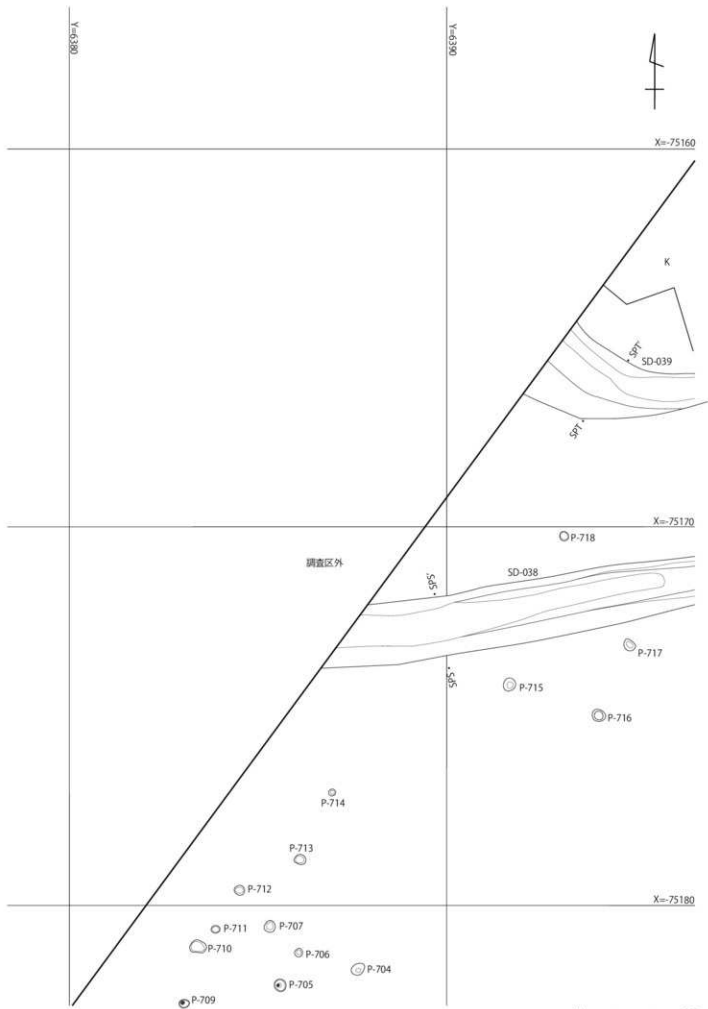
表 3 B区土坑観察表(1)



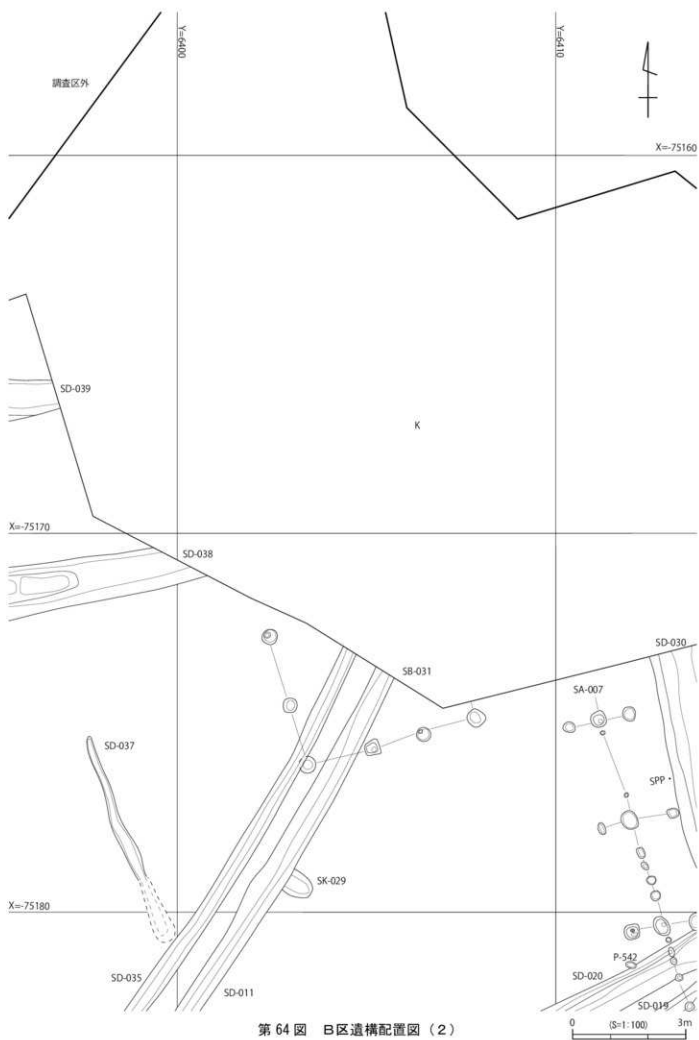
第 62 図 B区土坑実測図

SK-004	無	73	-	34	不整な円形	無	第66図
SK-005	SD-019 → SK-005	110	50	50	楕円形	無	第66図
SK-006	無	115	90	33	楕円形	無	第67・68図
SK-007	SD-021 → SK-007	100	80	23	不整な楕円形	無	第76図
SK-008	無	90	-	12	円形	無	第76図
SK-009	無	68	45	95	楕円形	無	第69図
SK-010	無	83	78	24	楕円形	土師器	第69図
SK-011	無	90	-	25	不整な円形	土師器	第69図
SK-012	無	82	-	14	円形	無	第69図
SK-013	無	75	-	24	円形	無	第69図
SK-014	無	70	-	23	円形	無	第69図
SK-015	無	68	-	16	円形	無	第68図
SK-016	無	106	55 ~ 70	20	不整な楕円形	無	第68図
SK-017	無	80	70	38	楕円形	無	第68図
SK-018	無	75	-	24	円形	無	第68図
SK-019	無	90	75	15	楕円形	無	第68・69図
SK-020	無	87	68	13	楕円形	土師器	第69図
SK-021	無	108	53 ~ 63	9	不整な楕円形	無	第69図
SK-022	無	60	46	14	楕円形	土師器	第69図
SK-023	無	67	55	15	楕円形	無	第69図
SK-024	無	78	70	15	楕円形	無	第69図
SK-025	SD-019 → SK-025	95	72	31	不整な楕円形	無	第68図
SK-026	無	65	-	11	円形	無	第76図
SK-027	無	109	50 ~ 85	21	不整な楕円形	土師器	第76図
SK-028	無	62	58	14	円形	無	第76図
SK-029	SK-029 → SD-011	79	63	23	楕円形	無	第64図
SK-031	SD-020 → SD-019 → SK-031	86	65	48	不整な楕円形	土師器	第68図

表3 B区土坑観察表(2)



第 63 図 B区遺構配置図 (1)



第 64 図 B区遺構配置図(2)

Y=4420

Y=4420

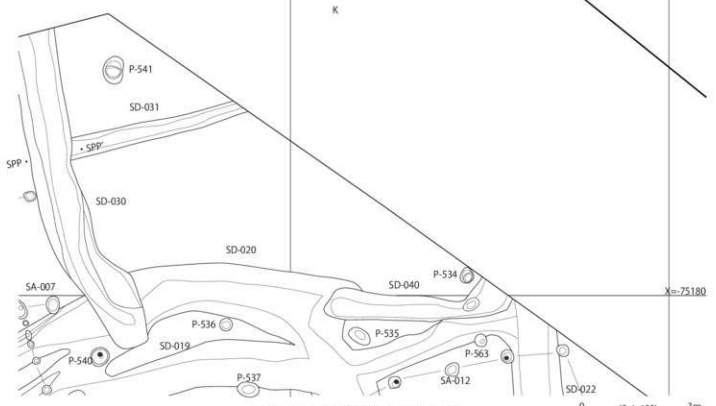
X=75160

X=75170

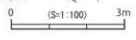
X=75180

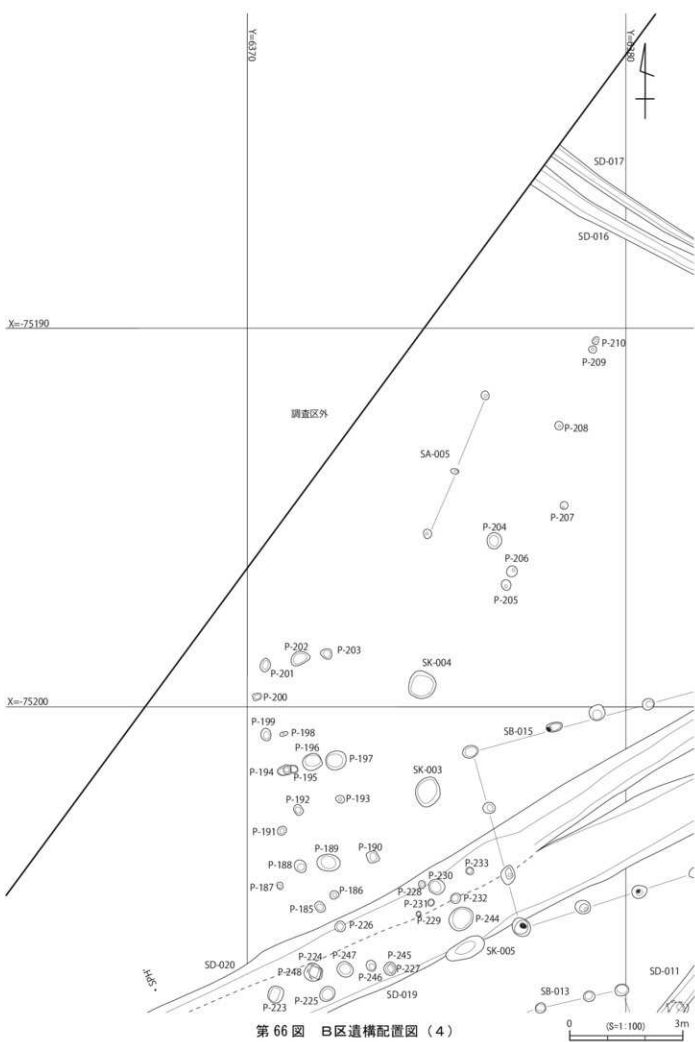
調査区外

K

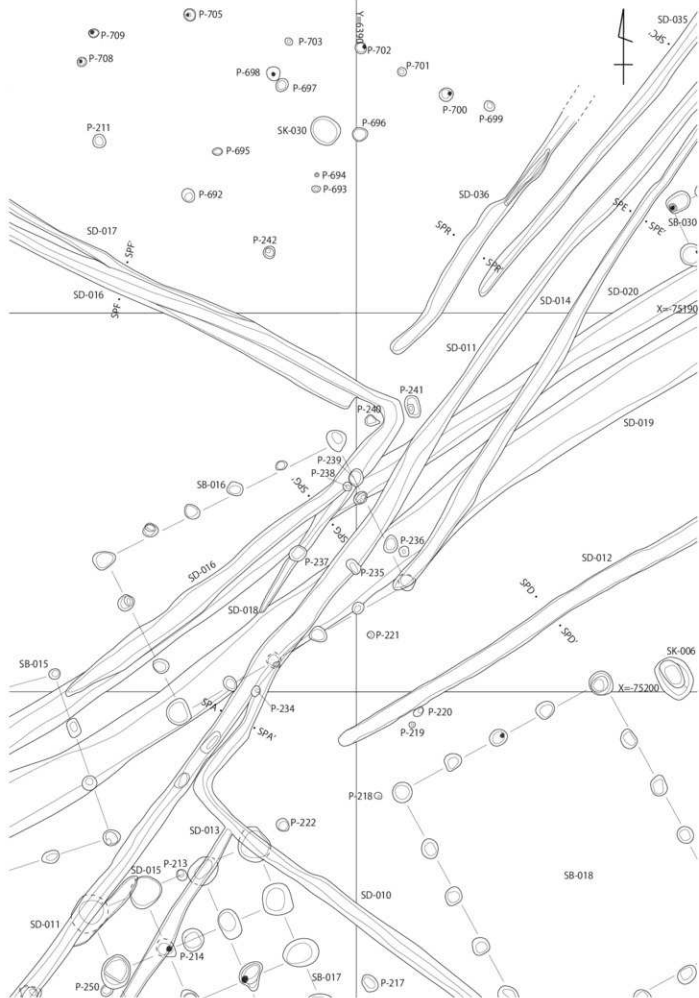


第 65 図 B区遺構配置図 (3)

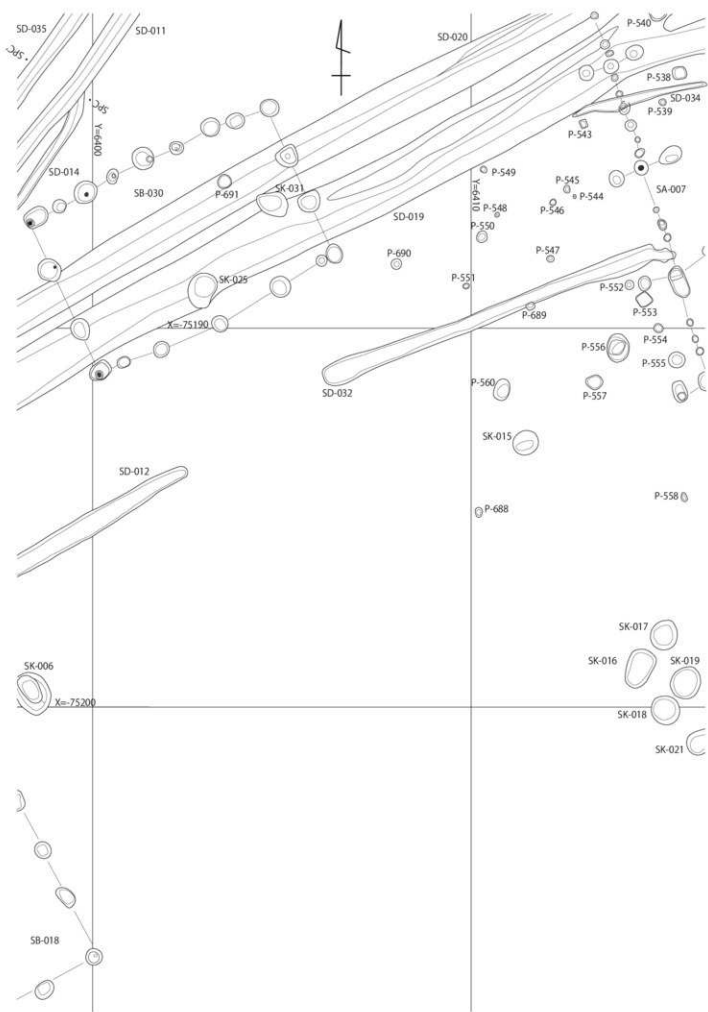




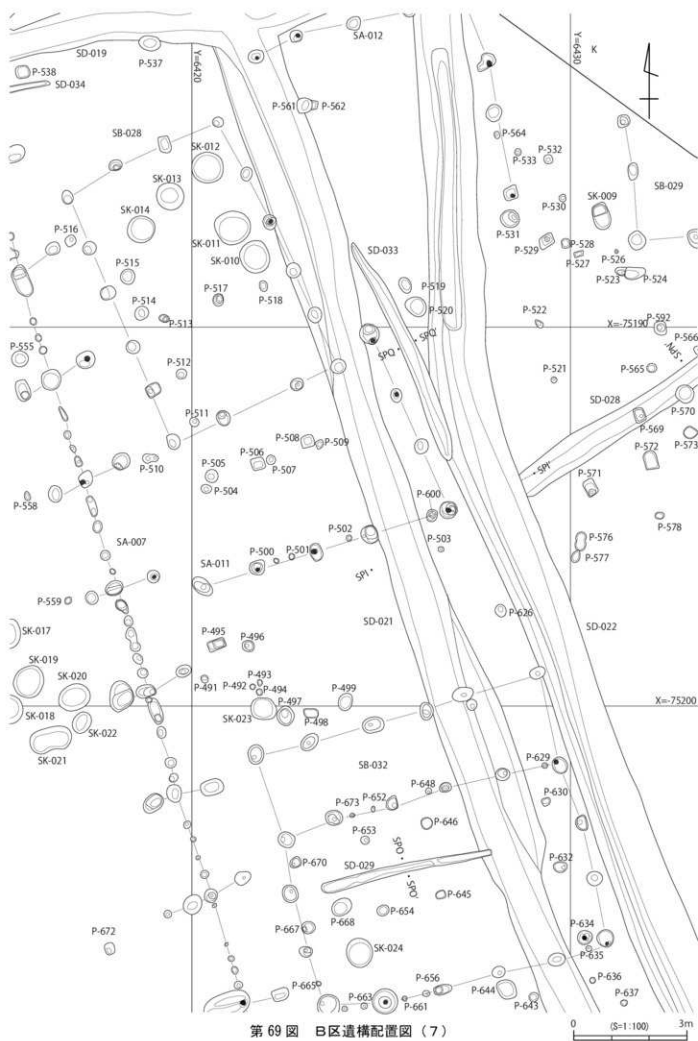
第 66 図 B区遺構配置図(4)



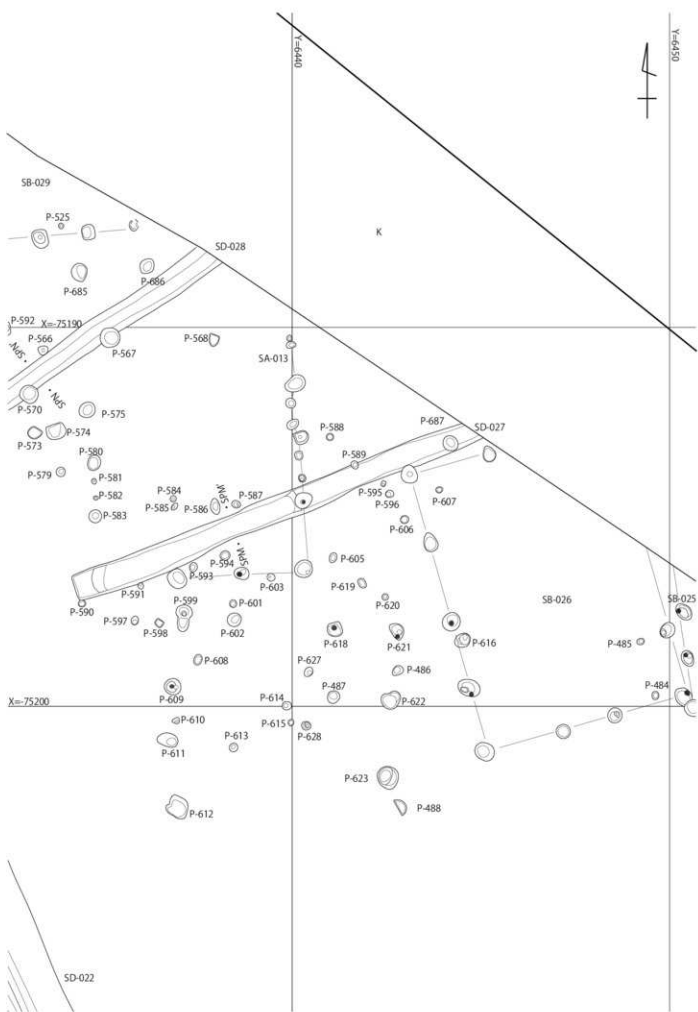
第 67 图 B区遺構配置図(5)



第 68 图 B区遺構配置図 (6)

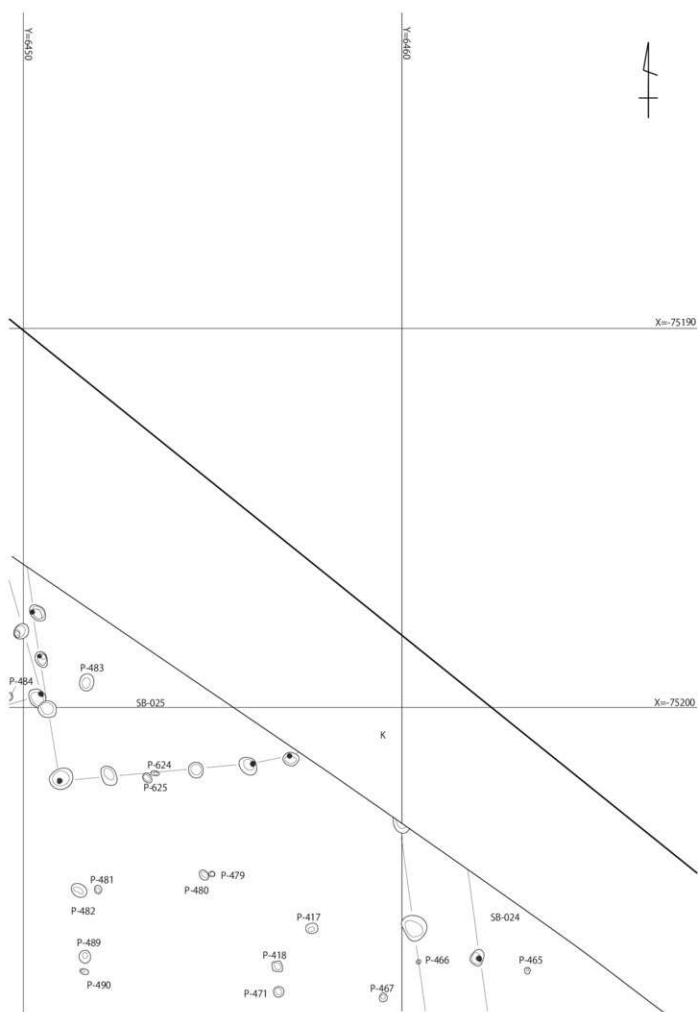


第 69 图 B区遺構配置図 (7)

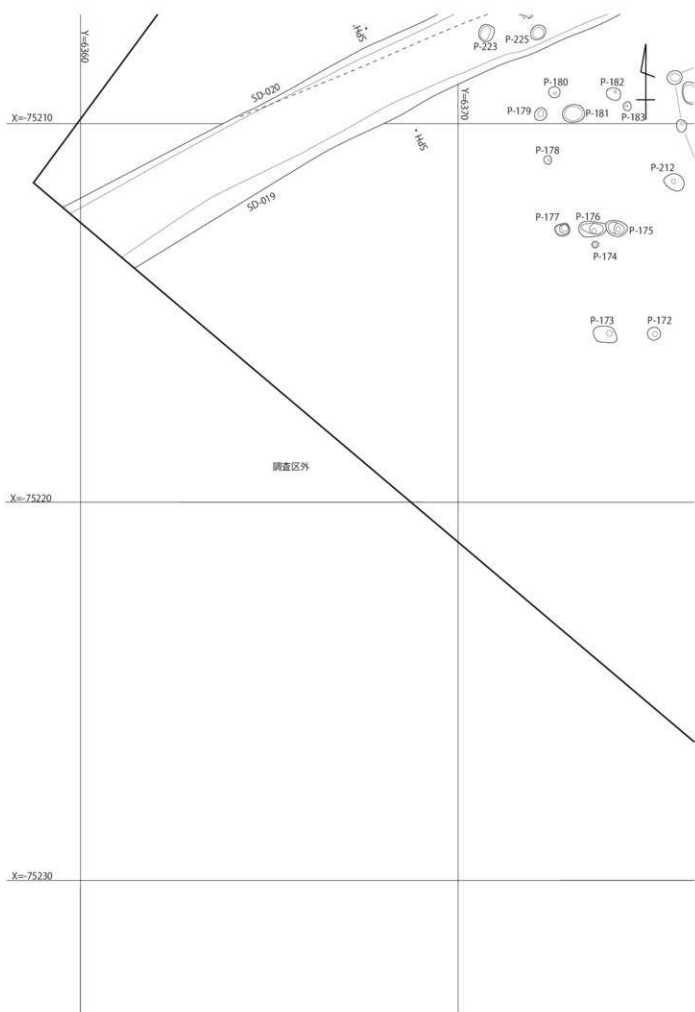


第70図 B区遺構配置図(8)

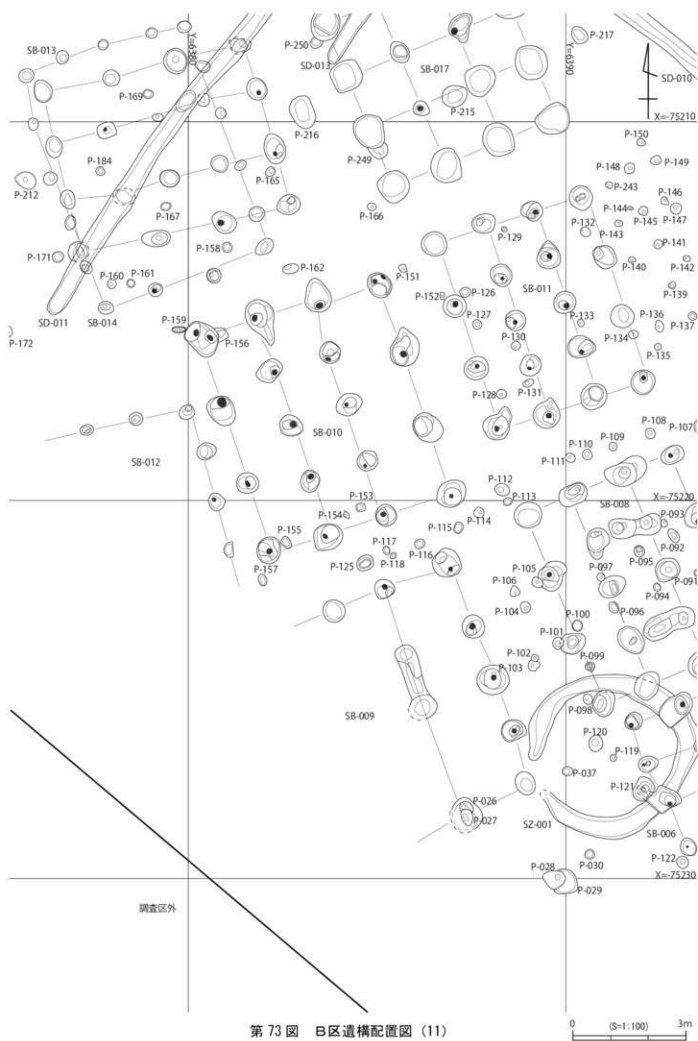
0 (S=1:100) 3m

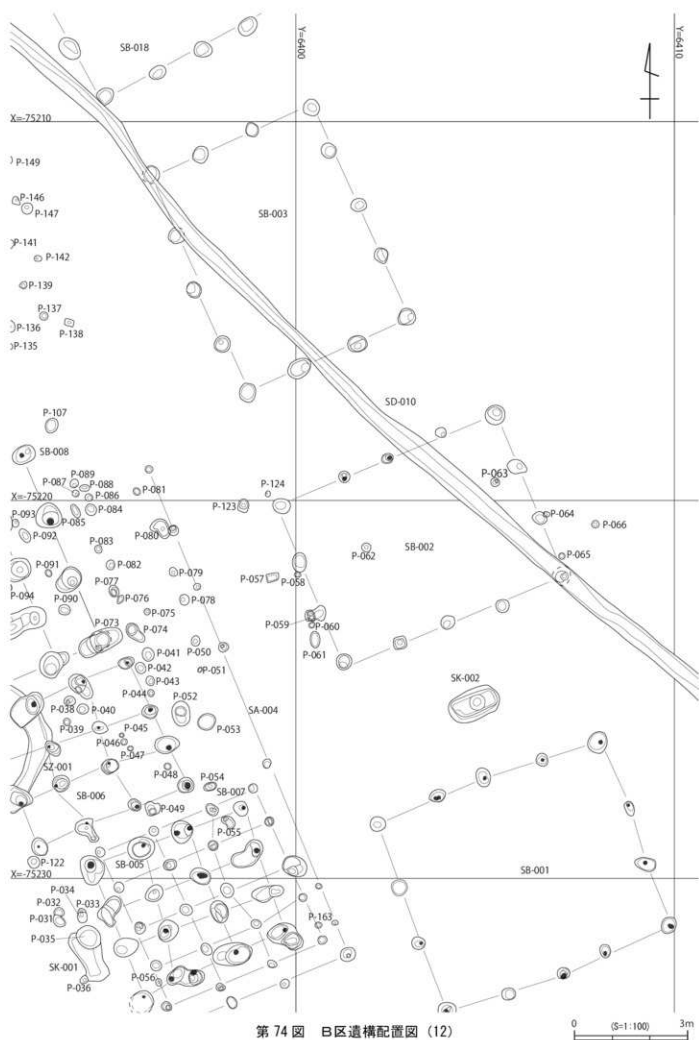


第 71 図 B区遺構配置図 (9)

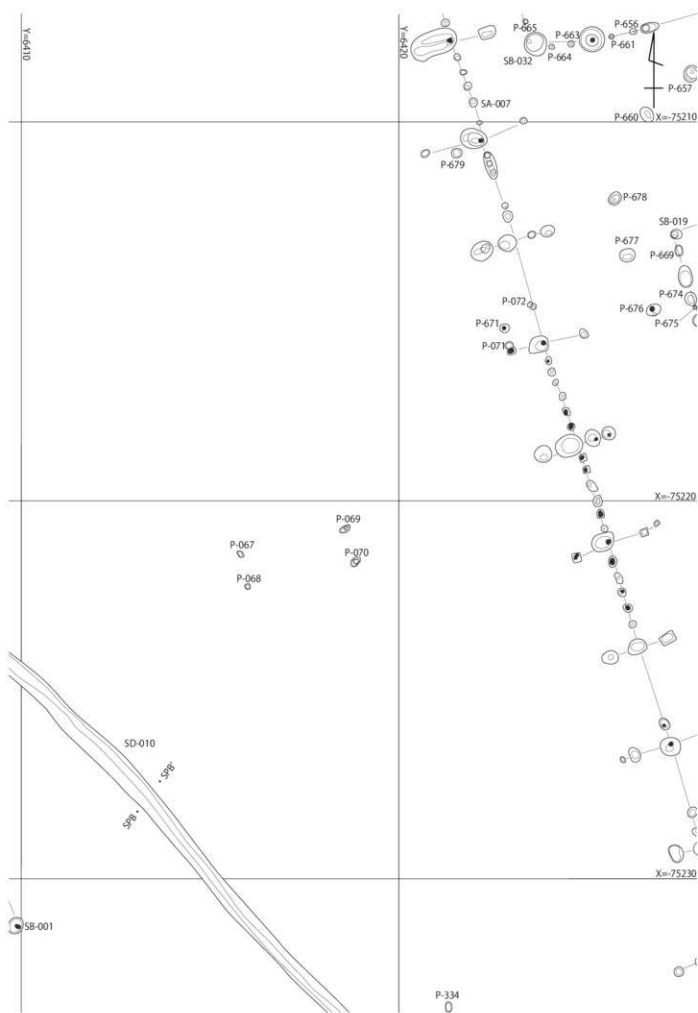


第 72 図 B区遺構配置図 (10)

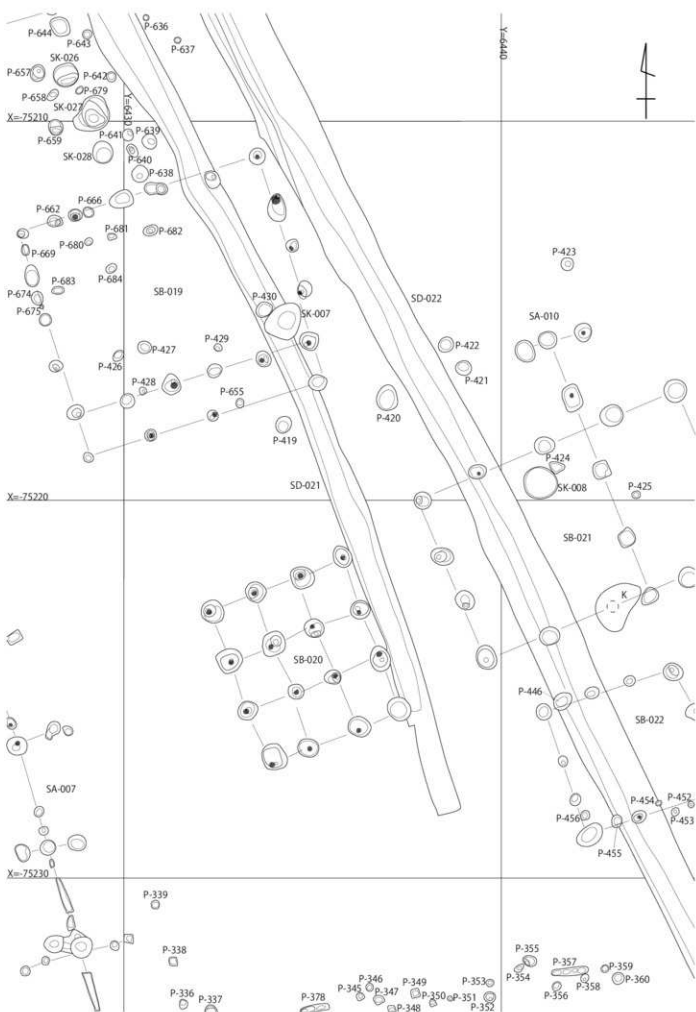




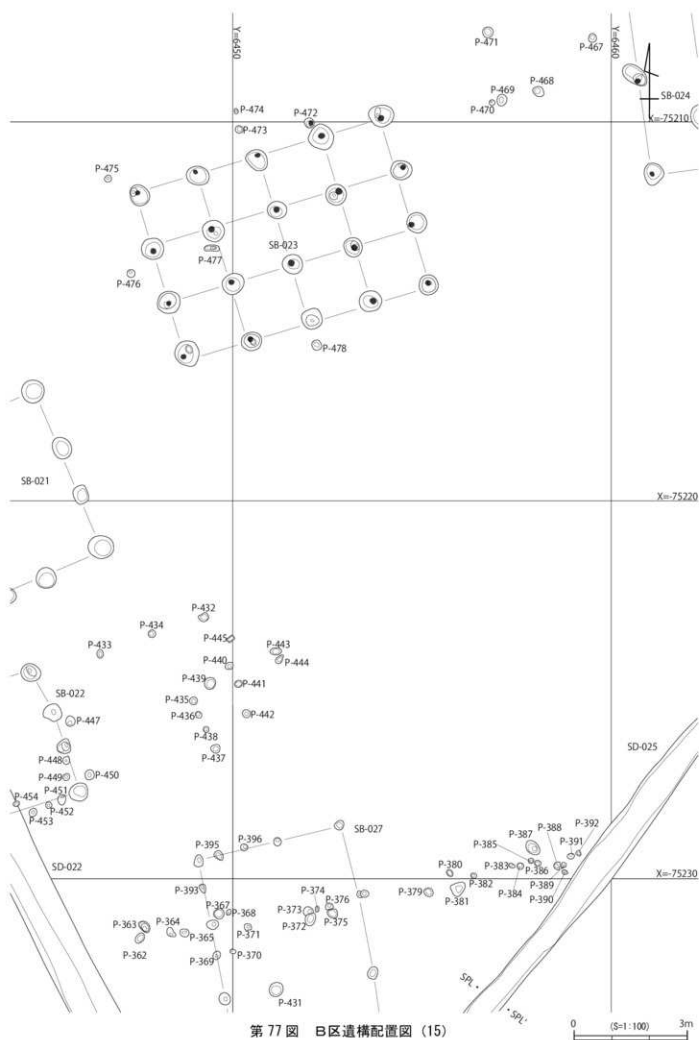
第74図 B区遺構配置図(12)



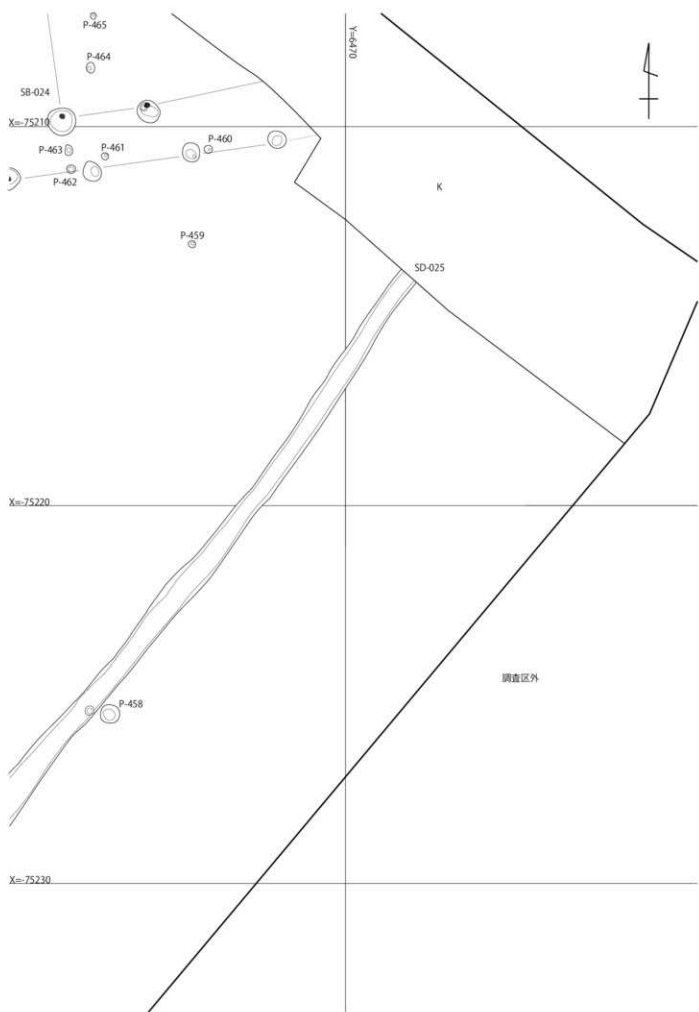
第 75 図 B区遺構配置図 (13)



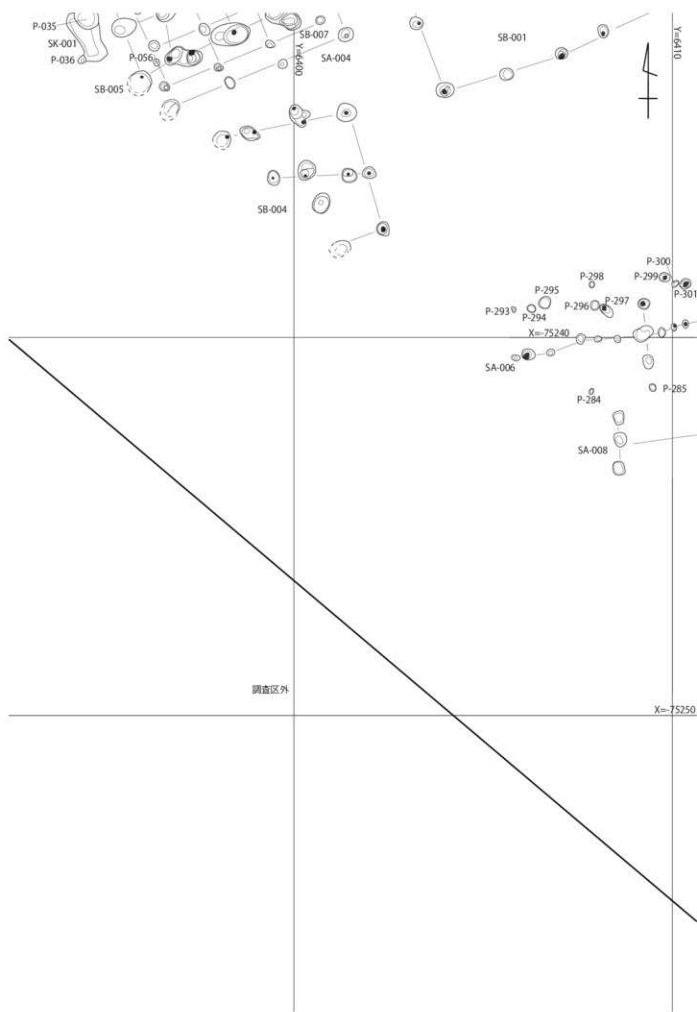
第76图 B区遺構配置図(14)



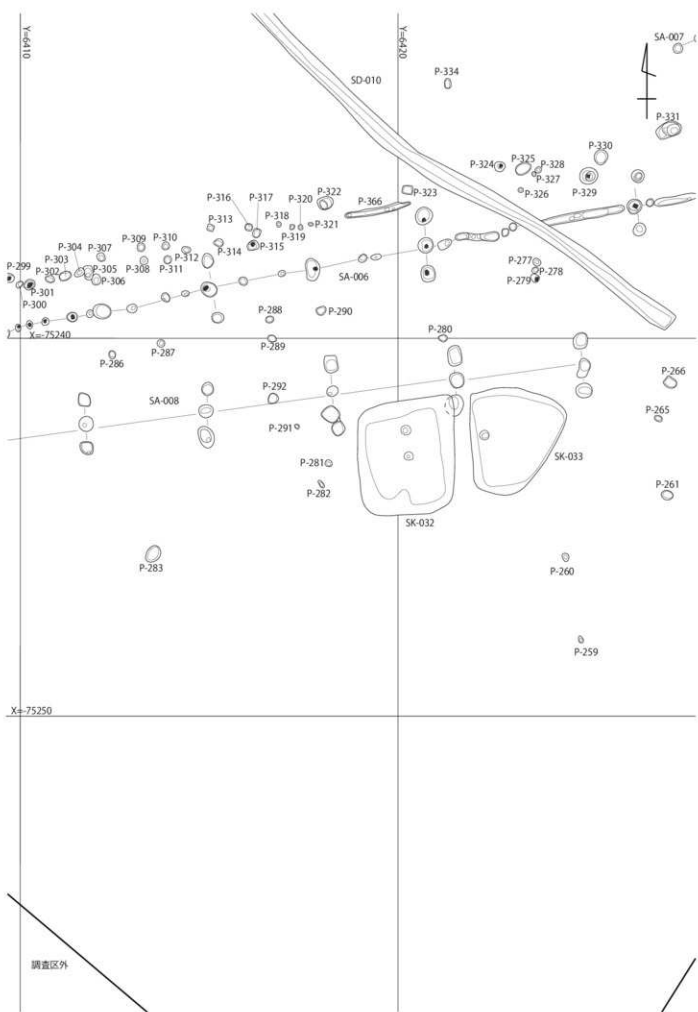
第77図 B区遺構配置図 (15)



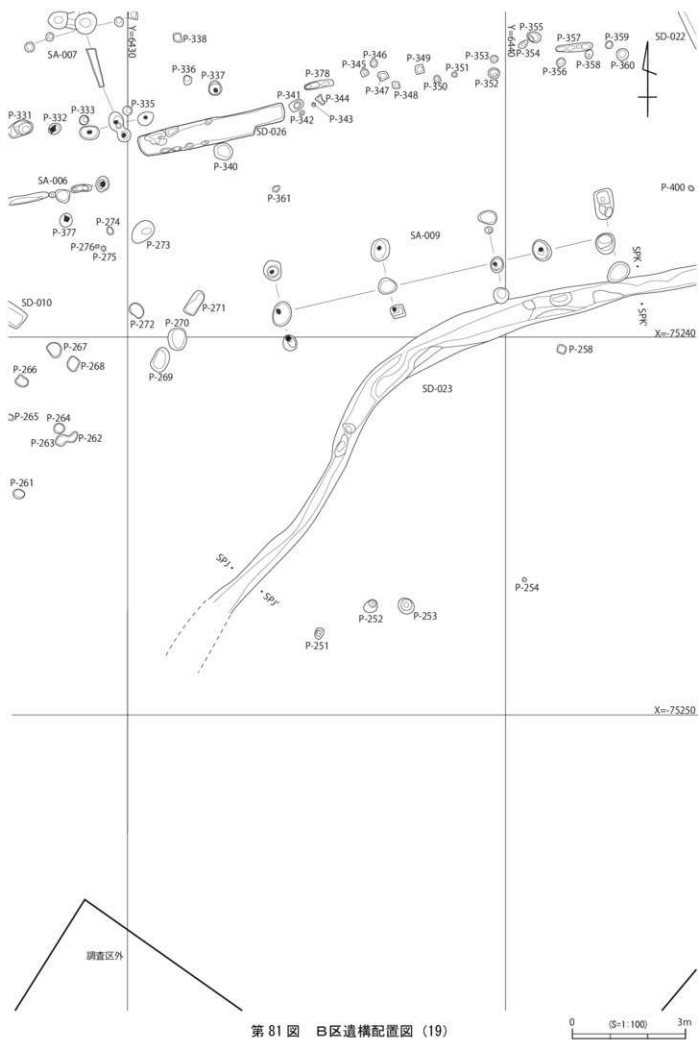
第 78 图 B区遺構配置図 (16)



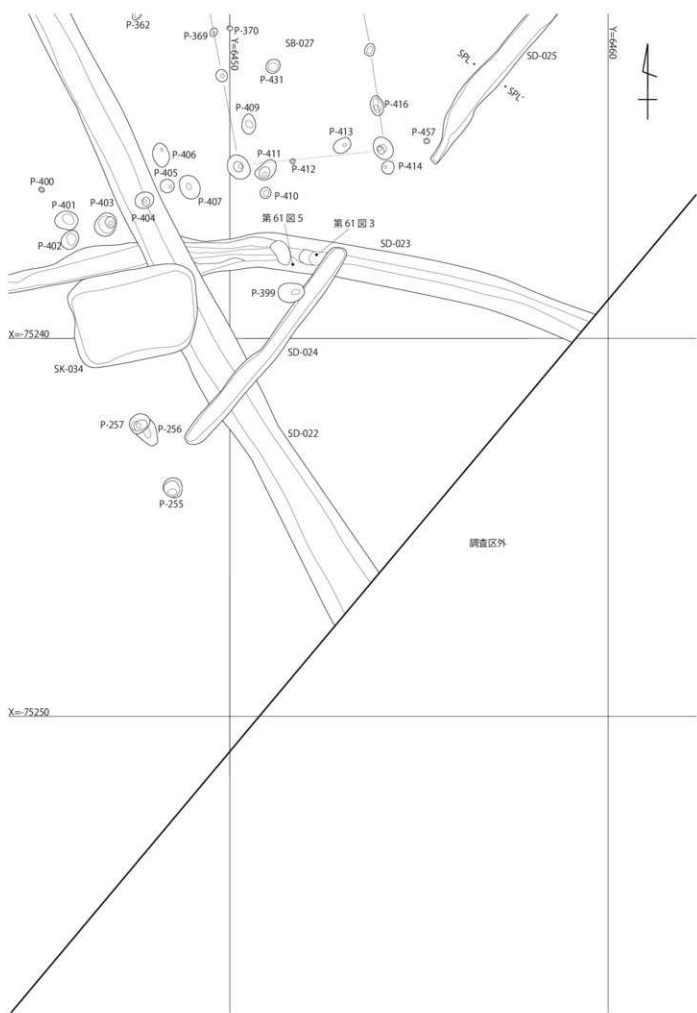
第 79 図 B区遺構配置図 (17)



第 80 図 B区遺構配置図 (18)



第 81 図 B区遺構配置図 (19)



第 82 図 B区遺構配置図 (20)



ピット (第 63 ~ 83 図、表 4)

ピット出土遺物 図示できた遺物は P-698 から出土した 2 点である。1・2 は陶器で、同一個体の可能性がある。いずれも常滑産の甕の胴部片である。焼成は良好。色調は内面にぶい褐色、外面灰色、部分的にぶい褐色。胎土は白色土粒を含む。



第 83 図 B 区ピット出土遺物実測図

図示した出土遺物以外のピットについては、下記のとおり一覽表にまとめた。

P-164・168・170・394・397・398・408・415・604・617・631・633・647・649・650・651 は欠番である。

遺構	重複関係	規模 (cm)			平面形	柱径の有無 (cm)	出土遺物	備考
		長軸 <small>(内径の場合のみ表示)</small>	短軸 <small>(内径の場合のみ表示)</small>	深さ				
P-026	SB-009 → P-026 → P-027	37.5	30	10	楕円形	無	無	第 73 図
P-027	SB-009 → P-026 → P-027	40	30	9	楕円形	無	無	第 73 図
P-028	P-029 → P-028	45	35	34	楕円形	無	無	第 73 図
P-029	P-029 → P-028	67.5	67.5	20	不整な方形	無	無	第 73 図
P-030	無	30	-	8	円形	無	無	第 73 図
P-031	P-032 → P-031	37.5	22.5	25	楕円形	無	無	第 74 図
P-032	P-032 → P-031	30	-	8	円形	無	無	第 74 図
P-033	P-033 → P-034	21	-	10	円形	無	無	第 74 図
P-034	P-033 → P-034	22.5	21	18	楕円形	無	無	第 74 図
P-035	SK-001 → P-035	70	58.5	28	不整な方形	無	無	第 74・79 図
P-036	SK-001 → P-036	22.5	-	35	円形	無	無	第 74・79 図
P-037	無	30	22.5	16	楕円形	無	無	第 73 図
P-038	無	37.5	22.5	20	楕円形	無	無	第 74 図
P-039	無	22.5	-	5	円形	無	無	第 74 図
P-040	無	30	22.5	27	楕円形	無	無	第 74 図
P-041	無	37.5	30	28	楕円形	無	無	第 74 図
P-042	無	30	22.5	26	楕円形	無	無	第 74 図
P-043	無	27	22.5	18	楕円形	無	無	第 74 図
P-044	無	22.5	15	25	楕円形	無	無	第 74 図
P-045	無	19.5	-	3.5	円形	無	無	第 74 図
P-046	無	22.5	-	3.5	円形	無	無	第 74 図
P-047	無	18	-	3.5	円形	無	無	第 74 図
P-048	無	22.5	-	1	円形	無	無	第 74 図
P-049	無	37.5	37.5	38	不整な方形	無	無	第 74 図
P-050	無	27	22.5	16	楕円形	無	無	第 74 図
P-051	無	15	13	17	楕円形	無	無	第 74 図
P-052	無	60	45	33	楕円形	無	無	第 74 図
P-053	無	50	37.5	2	楕円形	無	無	第 74 図
P-054	無	37.5	22.5	30	楕円形	無	無	第 74 図
P-055	無	38	25.5	28	楕円形	無	無	第 74 図
P-056	無	24	15	4	楕円形	無	無	第 74・79 図
P-057	無	37.5	22.5	1	長方形	無	無	第 74 図
P-058	SB-002 → P-058	15	-	1	円形	無	無	第 74 図

表 4 B 区ピット観察表 (1)

P-059	SB-002 → P-039	30	22.5	3	楕円形	無	無	第74図
P-060	無	19	-	1	円形	無	無	第74図
P-061	無	45	22.5	1	楕円形	無	無	第74図
P-062	無	22.5	-	16	円形	無	無	第74図
P-063	無	22.5	-	31	円形	無	無	第74図
P-064	SB-002 → P-064	22.5	15	4	楕円形	無	無	第74図
P-065	無	22.5	-	2	円形	無	無	第74図
P-066	無	22.5	-	28	円形	無	無	第74図
P-067	無	22.5	15	12	長方形	無	無	第75図
P-068	無	15	-	9	円形	無	無	第75図
P-069	無	30	18	22	楕円形	無	無	第75図
P-070	無	30	18	18	楕円形	無	無	第75図
P-071	SA-007 → P-071	24	18	17	楕円形	無	無	第75図
P-072	SA-007 → P-072	22.5	7.5	9	楕円形	無	無	第75図
P-073	SB-008 → P-073	127.5	60	22	楕円形	無	無	第74図
P-074	無	61.5	31.5	24	不整な楕円形	無	無	第74図
P-075	無	15	-	1.5	円形	無	無	第74図
P-076	無	30	15	1.5	楕円形	無	無	第74図
P-077	無	37.5	20	28	楕円形	無	無	第74図
P-078	無	30	-	24	円形	無	無	第74図
P-079	無	22.5	-	14	不整な円形	無	無	第74図
P-080	SA-004 → P-080	60	37.5	10 ~ 14	不整な楕円形	無	無	第74図
P-081	無	22.5	15	3	楕円形	無	無	第74図
P-082	無	30	-	20	円形	無	無	第74図
P-083	無	22.5	-	12	円形	無	無	第74図
P-084	無	37.5	30	3	楕円形	無	無	第74図
P-085	無	39	22.5	29	楕円形	無	無	第74図
P-086	無	22.5	-	13	円形	無	無	第74図
P-087	無	22.5	-	26	円形	無	無	第74図
P-088	無	30	22.5	7	楕円形	無	無	第74図
P-089	無	27	-	23	円形	無	無	第74図
P-090	無	37.5	30	16	楕円形	無	無	第74図
P-091	無	22.5	-	7	円形	無	無	第74図
P-092	無	37.5	22.5	20	楕円形	無	無	第73・74図
P-093	無	22.5	-	13	円形	無	無	第73・74図
P-094	無	30	22.5	17	楕円形	無	無	第73図
P-095	無	37.5	30	15	楕円形	無	無	第73図
P-096	無	37.5	22.5	18	楕円形	無	無	第73図
P-097	SB-008 → P-097	22.5	-	9	円形	無	無	第73図
P-098	無	37.5	22.5	27	楕円形	無	無	第73図
P-099	無	30	-	17	円形	無	無	第73図
P-100	無	30	-	20	円形	無	無	第73図
P-101	SB-008 → P-101	30	-	23	円形	無	無	第73図
P-102	P-103 → P-102	22.5	-	12	円形	無	無	第73図
P-103	P-103 → P-102	27	22.5	29	楕円形	無	無	第73図
P-104	無	30	-	23	円形	無	無	第73図
P-105	SB-008 → P-105	37.5	22.5	30	楕円形	無	無	第73図
P-106	無	30	-	19.5	不整な円形	無	無	第73図
P-107	無	45	37.5	25	楕円形	無	無	第74図
P-108	無	30	-	25	円形	無	無	第73図
P-109	無	22.5	-	24	円形	無	無	第73図
P-110	無	30	22.5	29	楕円形	無	無	第73図
P-111	無	30	22.5	25	楕円形	無	無	第73図
P-112	無	45	37.5	19.5	楕円形	無	無	第73図
P-113	無	27	18	5.5	楕円形	無	無	第73図
P-114	無	30	-	25.5	円形	無	無	第73図
P-115	無	37.5	22.5	4.5	楕円形	無	無	第73図
P-116	無	30	22.5	7	楕円形	無	無	第73図
P-117	無	30	21	10	楕円形	無	無	第73図
P-118	無	22.5	15	8	楕円形	無	無	第73図
P-119	無	15	-	24.5	円形	無	無	第73図
P-120	無	45	37.5	41	楕円形	無	無	第73図

表4 B区ビット観察表(2)

P-121	52-001 → SB-006 → P-121	67.5	45	36	長方形	無	無	第73図
P-122	無	37.5	30	28.5	楕円形	無	無	第73図
P-123	無	37.5	27	11.5	楕円形	無	無	第74図
P-124	無	18	7.5	16	楕円形	無	無	第74図
P-125	無	52.5	40	40	隅丸方形	無	無	第73図
P-126	無	30	22.5	13	楕円形	無	無	第73図
P-127	無	22.5	-	18	円形	無	無	第73図
P-128	無	27	-	20	円形	無	無	第73図
P-129	無	15	-	17	円形	無	無	第73図
P-130	無	22.5	-	20	円形	無	無	第73図
P-131	無	30	22.5	15	楕円形	無	無	第73図
P-132	無	30	22.5	14	楕円形	無	無	第73図
P-133	無	22.5	-	15	円形	無	無	第73図
P-134	無	22.5	18	24	楕円形	無	無	第73図
P-135	無	15	-	24	円形	無	無	第73図
P-136	無	31.5	22.5	22	楕円形	無	鉄製品のみ	第73図
P-137	無	22.5	-	14	円形	無	無	第73・74図
P-138	無	22.5	15	20	長方形	無	無	第74図
P-139	無	22.5	-	10	不整な円形	無	無	第73・74図
P-140	無	22.5	15	31	不整な楕円形	無	無	第73図
P-141	無	22.5	-	18	円形	無	無	第73図
P-142	無	22.5	15	26	楕円形	無	無	第73・74図
P-143	無	22.5	15	20	楕円形	無	無	第73図
P-144	無	15	7.5	6	不整な楕円形	無	無	第73図
P-145	無	22.5	-	19	円形	無	無	第73図
P-146	無	30	22.5	35	不整な長方形	無	無	第73・74図
P-147	無	30	-	26	円形	無	無	第73・74図
P-148	無	30	-	17	円形	無	無	第73図
P-149	無	30	22.5	24	楕円形	無	無	第73図
P-150	無	27	22.5	27	楕円形	無	無	第73図
P-151	無	22.5	22.5	15	不整な方形	無	無	第73図
P-152	無	22.5	15	36	長方形	無	無	第73図
P-153	無	22.5	22.5	16	方形	無	無	第73図
P-154	無	22.5	15	19	不整な方形	無	無	第73図
P-155	無	37.5	30	24	不整な長方形	無	無	第73図
P-156	P-156 → SB-010	40	30	23	不整な長方形	無	無	第73図
P-157	無	37.5	22.5	14	楕円形	無	無	第73図
P-158	無	20	-	30	円形	無	無	第73図
P-159	無	35	15	29 ~ 43	楕円形	無	無	第73図
P-160	無	20	-	40	円形	無	無	第73図
P-161	無	20	-	13	円形	無	無	第73図
P-162	無	42.5	30	38	楕円形	無	無	第73図
P-163	無	16	-	2	円形	無	無	第74図
P-165	無	20	-	15	円形	無	無	第73図
P-166	無	22.5	15	15	楕円形	無	無	第73図
P-167	無	30	-	37.5	円形	無	無	第73図
P-169	無	24	22	12.5	楕円形	無	土銅線	第73図
P-171	無	30	-	16	円形	無	無	第73図
P-172	無	37.5	-	41	円形	無	無	第72図
P-173	無	61.5	45	48	長方形	無	無	第72図
P-174	無	15	-	9	円形	無	無	第72図
P-175	P-176 → P-175	52.5	37.5	32	楕円形	無	無	第72図
P-176	P-176 → P-175	75	45	29	楕円形	無	無	第72図
P-177	無	45	37.5	36	不整な楕円形	無	無	第72図
P-178	無	22.5	-	28	円形	無	無	第72図
P-179	無	37.5	30	31	楕円形	無	無	第72図
P-180	無	30	-	32.5	円形	無	無	第72図
P-181	無	67.5	50	35.8	楕円形	無	無	第72図
P-182	無	45	37.5	34.5	楕円形	無	無	第72図
P-183	無	22.5	-	35.8	円形	無	無	第72図
P-184	無	23	-	25	円形	無	無	第73図
P-185	無	34.5	22.5	18	楕円形	無	無	第66図

表4 B区ビット観察表(3)

P-186	無	25	20	10	楕円形	無	無	第66図
P-187	無	18	15	9	楕円形	無	無	第66図
P-188	無	37.5	30	35	楕円形	無	無	第66図
P-189	無	60	45	40	楕円形	無	無	第66図
P-190	無	30	30	33	方形	無	無	第66図
P-191	無	25	-	33	円形	無	無	第66図
P-192	無	30	22.5	16	長方形	無	無	第66図
P-193	無	22.5	15	30	楕円形	無	無	第66図
P-194	P-195 → P-194	37.5	22.5	43	楕円形	無	無	第66図
P-195	P-195 → P-194	22.5	-	39	円形	無	無	第66図
P-196	無	52.5	45	38	楕円形	無	無	第66図
P-197	無	60	45	32	楕円形	無	無	第66図
P-198	無	22.5	7.5	16	楕円形	無	無	第66図
P-199	無	33	25	18	楕円形	無	無	第66図
P-200	無	30	18	27	方形	無	無	第66図
P-201	無	37.5	30	21	楕円形	無	無	第66図
P-202	無	54	40	23	不整な楕円形	無	無	第66図
P-203	無	30	25	21	不整な円形	無	無	第66図
P-204	無	40	-	3	円形	無	無	第66図
P-205	無	28.5 ~ 33	-	12	円形	無	無	第66図
P-206	無	30	-	25	円形	無	無	第66図
P-207	無	15	-	15	円形	無	無	第66図
P-208	無	22.5	-	9	円形	無	無	第66図
P-209	無	22.5	-	11	不整な円形	無	無	第66図
P-210	無	22.5	15	3	楕円形	無	無	第66図
P-211	無	35	-	28	円形	無	無	第67図
P-212	無	60	52.5	34	楕円形	無	無	第72・73図
P-213	無	30	-	35	円形	無	無	第67図
P-214	無	60	55	40	不整な方形	無	土師器	第67図
P-215	無	67.5	60	38	楕円形	無	無	第73図
P-216	無	37.5	7.5	23	不整な長方形	無	土師器	第73図
P-217	無	52.5	30	32	楕円形	無	無	第67・73図
P-218	無	15	-	18	円形	無	無	第67図
P-219	無	16.5	-	17	円形	無	無	第67図
P-220	無	33	22.5	6	楕円形	無	無	第67図
P-221	無	15	-	20	円形	無	無	第67図
P-222	無	37.5	-	28	不整な円形	無	無	第67図
P-223	SD-019 → P-223	52.5	45	8	長方形	無	無	第66・72図
P-224	SD-020 → SD-019 → P-248 → P-224	48	37.5	10	長方形	無	無	第66図
P-225	SD-019 → P-225	45	37.5	7	楕円形	無	無	第66・72図
P-226	SD-020 → P-226	30	-	8	円形	無	無	第66図
P-227	SD-019 → P-245 → P-227	37.5	-	11	不整な円形	無	無	第66図
P-228	SD-020 → P-228	22.5	-	16	円形	無	無	第66図
P-229	SD-020 → SD-019 → P-229	15	-	8	円形	無	無	第66図
P-230	SD-020 → P-230	45	-	18	円形	無	無	第66図
P-231	SD-020 → P-231	22.5	-	9	円形	無	無	第66図
P-232	SD-020 → SD-019 → P-232	30	-	8	円形	無	土師器	第66図
P-233	SD-020 → P-233	22.5	-	7	円形	無	無	第66図
P-234	SD-010 → SD-011 → P-234	30	22.5	17	楕円形	無	無	第67図
P-235	SD-019 → SD-011 → P-235	45	33	23	楕円形	無	無	第67図
P-236	SD-019 → P-236	30	-	23	円形	無	無	第67図
P-237	SD-020 → SD-018 → P-237	42.5	40	24	方形	無	無	第67図
P-238	SD-020 → SD-016 → P-238	15	-	15	円形	無	無	第67図
P-239	SD-020 → SD-016 → P-239	45	-	33	円形	無	無	第67図
P-240	無	45	27	25	不整な楕円形	無	無	第67図
P-241	無	57.5	37.5	18	楕円形	無	無	第67図
P-242	無	30	-	37	円形	無	無	第67図
P-243	無	15	-	12	円形	無	無	第73図
P-244	SD-019 → P-244	72	52.5	19	楕円形	無	土師器	第66図
P-245	SD-019 → P-245 → P-227	30	-	24	不整な円形	無	無	第66図
P-246	SD-019 → P-246	30	-	21	円形	無	無	第66図
P-247	SD-019 → P-247	45	37.5	18	楕円形	無	無	第66図

表4 B区ビット観察表(4)

P-248	SD-020 → SD-019 → P-248 → P-224	42.5	40	14	長方形	無	無	第66図
P-249	P-249 → SB-017	52.5	48	36	楕円形	無	無	第73図
P-250	P-250 → SB-017	37.5	-	20	円形	無	無	第67・73図
P-251	無	37.5	22.5	22	長方形	1.5	無	第81図
P-252	無	37.5	30	20	楕円形	12	無	第81図
P-253	無	45	37.5	15	円形	22.5	無	第81図
P-254	無	7.5	-	7	円形	無	無	第81図
P-255	無	60	52.5	42	楕円形	無	無	第82図
P-256	P-256 → P-257	60	52	30	楕円形	無	無	第82図
P-257	P-256 → P-257	52	40	42	楕円形	無	無	第82図
P-258	無	30	22.5	11	方形	無	無	第81図
P-259	無	22.5	1.5	18	方形	無	無	第80図
P-260	無	22.5	-	3	円形	無	無	第80図
P-261	無	30	22.5	3	楕円形	無	無	第80・81図
P-262	P-263と重複しているが新旧不明	37.5	22.5	8	楕円形	無	無	第81図
P-263	P-262と重複しているが新旧不明	37.5	30	2	楕円形	無	無	第81図
P-264	無	30	-	2	円形	無	無	第81図
P-265	無	22.5	1.5	3	楕円形	無	無	第80図
P-266	無	37.5	30	10	不整形楕円形	無	無	第80・81図
P-267	無	45	37.5	38	不整形楕円形	無	無	第81図
P-268	無	30	30	9	不整形方形	無	無	第81図
P-269	無	47.5	45	44	不整形楕円形	無	無	第81図
P-270	無	57	52.5	28	長方形	無	無	第81図
P-271	無	47.5	32.5	26	長方形	無	土師器	第81図
P-272	無	45	30	18	長方形	無	無	第81図
P-273	無	47.5	45	28	不整形楕円形	無	須恵器	第81図
P-274	無	22.5	1.5	8	方形	無	無	第81図
P-275	無	15	7.5	3	楕円形	無	無	第81図
P-276	無	9	-	7	円形	無	無	第81図
P-277	無	22.5	1.5	13	楕円形	無	無	第80図
P-278	無	15	-	20	円形	無	無	第80図
P-279	無	23	-	21	不整形円形	9	無	第80図
P-280	無	22.5	1.5	20	楕円形	無	無	第80図
P-281	無	22.5	-	5	円形	無	無	第80図
P-282	無	27	1.5	7	楕円形	無	無	第80図
P-283	無	52.5	37.5	10	楕円形	無	無	第88図
P-284	無	15	7.5	10	楕円形	無	無	第79図
P-285	無	22.5	-	8	円形	無	無	第79図
P-286	無	22.5	19.5	13	楕円形	無	無	第80図
P-287	無	22.5	-	13	円形	無	無	第80図
P-288	無	20	17	12	楕円形	無	無	第80図
P-289	無	22.5	16	11	楕円形	無	無	第80図
P-290	無	31.5	24	11	不整形楕円形	無	無	第80図
P-291	無	15	7.5	9	楕円形	無	無	第80図
P-292	無	37	27	36	楕円形	無	無	第80図
P-293	無	15	7.5	4	楕円形	無	無	第79図
P-294	無	22.5	-	10	円形	無	無	第79図
P-295	無	30	-	17	円形	無	無	第79図
P-296	無	23	-	13	円形	無	無	第79図
P-297	無	45	30	30	楕円形	18	無	第79図
P-298	無	15	-	6	円形	無	無	第79図
P-299	無	30	24	20	楕円形	8	無	第79図
P-300	無	19	1.5	3	楕円形	無	無	第79・80図
P-301	無	32	27	10	楕円形	1.5	無	第79・80図
P-302	無	23	1.5	7	楕円形	無	無	第80図
P-303	無	31	21	8	楕円形	無	無	第80図
P-304	P-305 → P-304	30	20	8	楕円形	無	無	第80図
P-305	P-306 → P-305 → P-304	37.5	22	18	方形	1.5	無	第80図
P-306	P-306 → P-305	27	22.5	18	方形	無	無	第80図
P-307	無	21	-	24	円形	無	無	第80図
P-308	無	21	-	11	円形	無	無	第80図
P-309	無	24	-	17	円形	5	無	第80図

表4 B区ビット観察表(5)

P-310	無		23	-	22	不整な円形	無	無	第 80 図
P-311	無		24	-	25	円形	無	無	第 80 図
P-312	無		23	18	6	楕円形	無	無	第 80 図
P-313	無		22	20	16.7	方形	無	無	第 80 図
P-314	無		30	22.5	3	楕円形	無	無	第 80 図
P-315	無		36	22.5	46	方形	9	無	第 80 図
P-316	無		22.5	22.5	27	方形	無	無	第 80 図
P-317	無		30	22	5	長方形	無	無	第 80 図
P-318	無		15	-	18	円形	無	無	第 80 図
P-319	無		15	14	10	方形	無	無	第 80 図
P-320	無		16	16	7	方形	無	無	第 80 図
P-321	無		15	11	8	楕円形	無	無	第 80 図
P-322	無		40	30	23	方形	12	無	第 80 図
P-323	無		24	22	17	方形	無	無	第 80 図
P-324	無		32	-	42	円形	9	無	第 80 図
P-325	無		43	29	12	楕円形	無	無	第 80 図
P-326	無		15	-	11	円形	無	無	第 80 図
P-327	無		15	10	11	楕円形	無	無	第 80 図
P-328	無		22.5	14	2	楕円形	無	無	第 80 図
P-329	無		52.5	45	41	楕円形	8	無	第 80 図
P-330	無		37.5	-	3	円形	無	無	第 80 図
P-331	無		47.5	45	9	不整な長方形	無	土師器	第 80 図
P-332	無		37.5	22.5	15	楕円形	17	無	第 81 図
P-333	無		22	-	18	円形	無	無	第 81 図
P-334	無		30	22.5	3	楕円形	無	無	第 75・80 図
P-335	無		23	-	30	円形	無	土師器	第 81 図
P-336	無		22	-	12	不整な円形	無	無	第 76・81 図
P-337	無		45	30	15	楕円形	12	土師器	第 81 図
P-338	無		22	21	14	方形	無	無	第 76・81 図
P-339	無		22.5	22.5	13	方形	無	無	第 76 図
P-340	無		46.5	-	15	不整な円形	無	土師器	第 81 図
P-341	無		37.5	30	27	不整な長方形	無	無	第 81 図
P-342	無		7.5	-	4	円形	無	無	第 81 図
P-343	無		7.5	-	4	円形	無	無	第 81 図
P-344	無		31.5	15	3	不整な長方形	無	無	第 81 図
P-345	無		22.5	22.5	23	方形	無	無	第 76・81 図
P-346	無		22.5	-	28	円形	無	無	第 76・81 図
P-347	無		22.5	22.5	6	方形	無	無	第 76・81 図
P-348	無		23	21	15	方形	無	無	第 76・81 図
P-349	無		23	23	10	方形	無	無	第 76・81 図
P-350	無		22.5	15	26	方形	無	無	第 76・81 図
P-351	無		15	10.5	27	不整な楕円形	無	無	第 76・81 図
P-352	無		30	-	16	円形	12	無	第 76・81 図
P-353	無		22.5	-	11	円形	無	無	第 76・81 図
P-354	無		30	20	33	楕円形	無	無	第 76・81 図
P-355	無		36	30	14	楕円形	15	無	第 76・81 図
P-356	無		30	22.5	16	楕円形	無	無	第 76・81 図
P-357	無		97.5	22.5	6	楕円形	無	無	第 76・81 図
P-358	無		22.5	-	31	円形	無	無	第 76・81 図
P-359	無		22.5	-	13	円形	無	無	第 76・81 図
P-360	無		33	-	25	円形	無	無	第 76・81 図
P-361	無		22.5	16	10	不整な楕円形	無	無	第 81 図
P-362	無		32	22.5	7	楕円形	無	無	第 77 図
P-363	無		40.5	22.5	25	楕円形	無	無	第 77 図
P-364	無		37.5	20	12	不整な楕円形	無	無	第 77 図
P-365	無		30	21	13	楕円形	無	無	第 77 図
P-366	無		173	18	18	不整な楕円形	無	無	第 80 図
P-367	無		30	-	22	円形	無	無	第 77 図
P-368	無		15	-	16	円形	無	無	第 77 図
P-369	無		22.5	19	20	楕円形	無	無	第 77・82 図
P-370	無		15	9	15	楕円形	無	無	第 77・82 図
P-371	無		19.5	15	30	方形	無	無	第 77 図

表 4 B区ビット観察表 (6)

P-372	P-373 と重複しているが新旧不明	37.5	22.5	10	楕円形	無	無	第 77 図
P-373	P-372 と重複しているが新旧不明	30	-	4	不整な円形	無	無	第 77 図
P-374	無	15	12	3.5	楕円形	無	無	第 77 図
P-375	無	26.5	22	1.5	楕円形	無	無	第 77 図
P-376	無	22.5	15	11	楕円形	無	無	第 77 図
P-377	無	37	31	30	楕円形	1.3	無	第 81 図
P-378	無	74	21	8	不整な楕円形	無	無	第 76・81 図
P-379	無	30	20	23	楕円形	無	無	第 77 図
P-380	無	22	15	11	楕円形	無	無	第 77 図
P-381	無	44	34.5	32	不整な楕円形	無	無	第 77 図
P-382	無	15	-	9	円形	無	無	第 77 図
P-383	無	20	15	6.5	楕円形	無	無	第 77 図
P-384	無	19.5	15	21	楕円形	無	無	第 77 図
P-385	無	15	-	5	円形	無	無	第 77 図
P-386	無	15	-	6	円形	無	無	第 77 図
P-387	無	42.5	30	31	楕円形	無	無	第 77 図
P-388	無	22.5	18	5	不整な方形	無	無	第 77 図
P-389	無	15.5	11.5	4	不整な方形	無	無	第 77 図
P-390	無	18	15	4.5	楕円形	無	無	第 77 図
P-391	無	19	15	6	楕円形	無	無	第 77 図
P-392	無	15	-	6	不整な円形	無	無	第 77 図
P-393	無	22	17	9	楕円形	無	無	第 77 図
P-395	無	32	22.5	27	楕円形	無	無	第 77 図
P-396	無	21	-	26	円形	無	無	第 77 図
P-399	SD-024 → P-399	70	48	33	楕円形	無	無	第 82 図
P-400	無	19.5	15	8	楕円形	無	無	第 81・82 図
P-401	無	60	49.5	45	楕円形	無	無	第 82 図
P-402	無	52.5	37.5	50	楕円形	無	土師器	第 82 図
P-403	無	63	55.5	20	楕円形	22.5	無	第 82 図
P-404	SD-022 → P-404	49.5	37.5	34	楕円形	無	無	第 82 図
P-405	無	37	32	30	楕円形	無	無	第 82 図
P-406	無	63	45	31	楕円形	無	土師器	第 82 図
P-407	無	61.5	52	42	楕円形	無	無	第 82 図
P-409	無	52	34.5	42.5	楕円形	無	土師器	第 82 図
P-410	無	29	-	32.5	円形	無	無	第 82 図
P-411	無	67.5	37.5	36.5	楕円形	無	無	第 82 図
P-412	無	13	-	6	円形	無	無	第 82 図
P-413	無	45	34.5	21.5	楕円形	無	無	第 82 図
P-414	無	37.5	-	42	円形	無	無	第 82 図
P-416	無	53	34	25	楕円形	無	土師器	第 82 図
P-417	無	31	27	23	楕円形	無	無	第 71 図
P-418	無	27	27	21	方形	無	無	第 71 図
P-419	無	46	37.5	25	楕円形	無	無	第 76 図
P-420	無	67.5	60	27	楕円形	無	無	第 76 図
P-421	無	45	37.5	21	楕円形	無	無	第 76 図
P-422	無	44	-	20	円形	無	無	第 76 図
P-423	無	32	-	29	円形	無	土師器	第 76 図
P-424	無	42	30	8	不整な楕円形	無	無	第 76 図
P-425	無	23	-	10	円形	無	無	第 76 図
P-426	無	30	22.5	14	楕円形	無	無	第 76 図
P-427	無	30	-	14.5	円形	無	無	第 76 図
P-428	無	21	-	18	円形	無	無	第 76 図
P-429	無	22.5	15	17.5	楕円形	無	無	第 76 図
P-430	SD-021 → P-430	52.5	39	32	楕円形	無	無	第 76 図
P-431	無	33	-	15	円形	無	無	第 77・82 図
P-432	無	25	21	22	不整な方形	無	土師器	第 77 図
P-433	無	22.5	15	25	楕円形	無	無	第 77 図
P-434	無	25	-	27	円形	無	無	第 77 図
P-435	無	22.5	-	20	円形	無	無	第 77 図
P-436	無	15	-	13	円形	無	無	第 77 図
P-437	無	26	22	21	楕円形	無	土師器	第 77 図
P-438	無	15	-	12	円形	無	無	第 77 図

表 4 B 区ビット観察表 (7)

P-439	無		32	-	25	円形	無	無	第77図
P-440	無		22	-	26	円形	無	無	第77図
P-441	無		19	-	21	円形	無	無	第77図
P-442	無		22	-	30	円形	無	無	第77図
P-443	無		29	22.5	25	楕円形	無	土留器	第77図
P-444	無		24	15	27	不整形楕円形	無	無	第77図
P-445	無		22.5	15	16	長方形	無	木杭	第77図
P-446	無	SD-022 → P-446	60	45	25	楕円形	無	無	第76図
P-447	無		22.5	-	27	円形	無	無	第77図
P-448	無		18	-	14	円形	無	無	第77図
P-449	無		16	-	16	円形	無	無	第77図
P-450	無		27	-	17	円形	無	無	第77図
P-451	無		22.5	19.5	18	楕円形	無	無	第77図
P-452	無		16	-	16	円形	無	無	第76・77図
P-453	無		22.5	-	16	円形	無	無	第76・77図
P-454	無	SD-022 → P-454	17	-	5	円形	無	無	第76・77図
P-455	無	SD-022 → P-455	29	25.5	17	楕円形	無	無	第76図
P-456	無		25.5	22.5	11	楕円形	無	無	第76図
P-457	無		16	13	12	楕円形	無	無	第82図
P-458	無		52	-	30	円形	無	無	第78図
P-459	無		22.5	-	15	不整形円形	無	無	第78図
P-460	無		22.5	-	17	円形	無	無	第78図
P-461	無		22.5	-	15	円形	無	無	第78図
P-462	無		23	-	9	円形	無	無	第78図
P-463	無		33	22.5	14	楕円形	無	無	第78図
P-464	無		33	22.5	12	楕円形	無	無	第78図
P-465	無		21	-	8	円形	無	無	第71・78図
P-466	無		12	-	10	円形	無	無	第71図
P-467	無		23	-	11	円形	無	無	第71・77図
P-468	無		30	27	12	不整形方形	無	無	第77図
P-469	無		30	22.5	37	楕円形	無	無	第77図
P-470	無		15	-	17	円形	無	無	第77図
P-471	無		28.5	-	10	円形	無	無	第71・77図
P-472	無		30	-	37	円形	1.5	無	第77図
P-473	無		22.5	-	15	円形	無	無	第77図
P-474	無		14	7.5	10	楕円形	無	無	第77図
P-475	無		15	-	20	円形	無	無	第77図
P-476	無		22.5	-	23	円形	無	無	第77図
P-477	無		45	15	8	楕円形	無	無	第77図
P-478	無		28.5	25	30	方形	無	無	第77図
P-479	無		15	14	7	方形	無	無	第71図
P-480	無		33	24	37	楕円形	無	無	第71図
P-481	無		18	-	18	円形	無	無	第71図
P-482	無		48	34	40	楕円形	無	無	第71図
P-483	無		43.5	38	28	楕円形	無	無	第71図
P-484	無		18	-	19	円形	無	無	第70図
P-485	無		20	15	20	楕円形	無	無	第70図
P-486	無		37.5	24	32	楕円形	無	無	第70図
P-487	無		35	-	29	円形	無	無	第70図
P-488	無		45	24	32	不整形楕円形	無	無	第70図
P-489	無		30	-	32	円形	無	無	第71図
P-490	無		25.5	15	22	楕円形	無	無	第71図
P-491	無		21	-	17	円形	無	無	第69図
P-492	無		16	-	20	円形	無	無	第69図
P-493	無		16	9	17	楕円形	無	無	第69図
P-494	無		16	-	16	円形	無	無	第69図
P-495	無		46	24	20	長方形	無	無	第69図
P-496	無		32	-	4	円形	無	無	第69図
P-497	無		46.5	45	4	不整形方形	無	土留器	第69図
P-498	無		46.5	27	4	長方形	無	無	第69図
P-499	無		47	33	5	楕円形	無	無	第69図
P-500	無		20	13.5	12	楕円形	無	無	第69図

表4 B区ビット観察表(8)

P-501	無	15	-	14	円形	無	無	第69図
P-502	無	15	-	15	円形	無	無	第69図
P-503	無	14	-	15	円形	無	無	第69図
P-504	無	30	21	33	楕円形	無	無	第69図
P-505	無	32	-	34	円形	無	無	第69図
P-506	無	40	30	36	長方形	無	無	第69図
P-507	無	24	-	24	円形	無	無	第69図
P-508	無	32	31	45	方形	無	無	第69図
P-509	無	22	22	18	方形	無	無	第69図
P-510	無	45	15	17	楕円形	無	無	第69図
P-511	無	30	-	25	円形	無	無	第69図
P-512	無	33	-	34	円形	無	無	第69図
P-513	無	23	15	6	楕円形	10	無	第69図
P-514	無	39	-	13	不整な円形	無	無	第69図
P-515	無	42	-	6	円形	無	無	第69図
P-516	無	23	23	20	方形	無	無	第69図
P-517	無	31.5	25	21	楕円形	無	土師器	第69図
P-518	無	30	22.5	28	楕円形	無	無	第69図
P-519	無	45	30	12	楕円形	無	無	第69図
P-520	無	66	52	15	不整な楕円形	無	無	第69図
P-521	無	16	-	18	円形	無	無	第69図
P-522	無	25	15	15	不整な楕円形	無	無	第69図
P-523	P-523 → P-524	27	22	22	不整な楕円形	無	無	第69図
P-524	P-523 → P-524	36	32	24	不整な楕円形	無	無	第69図
P-525	無	13	-	14	円形	無	無	第70図
P-526	無	8	-	15	円形	無	無	第69図
P-527	無	22.5	15	17	長方形	無	無	第69図
P-528	無	23	23	19	方形	無	無	第69図
P-529	無	45	32	24	長方形	1.5	無	第69図
P-530	無	22.5	-	20	円形	無	無	第69図
P-531	無	46.5	-	30	円形	無	無	第69図
P-532	無	23	-	22	円形	無	無	第69図
P-533	無	15	-	7	円形	無	無	第69図
P-534	無	45	37.5	30	長方形	無	無	第65図
P-535	無	58	30	34	楕円形	無	無	第65図
P-536	無	33	-	42	円形	無	土師器	第65図
P-537	SD-019 → P-537	60	37.5	35	楕円形	無	土師器	第65・69図
P-538	無	36	36	38	方形	無	土師器	第68・69図
P-539	無	22.5	-	11	円形	無	無	第68図
P-540	SD-020 → SD-019 → P-540	37	-	25	円形	12	土師器	第65図
P-541	無	75	58.5	38	楕円形	無	無	第65図
P-542	SD-020 → P-542	33	15	23	楕円形	無	無	第64図
P-543	無	22	22	28	方形	無	土師器	第68図
P-544	無	7.5	-	3	円形	無	無	第68図
P-545	無	22.5	-	30	不整な円形	無	無	第68図
P-546	無	22.5	-	13	円形	無	無	第68図
P-547	無	19.5	-	24	円形	無	無	第68図
P-548	無	12	-	5	円形	無	無	第68図
P-549	無	17	-	11	円形	無	無	第68図
P-550	無	30	-	34	円形	無	無	第68図
P-551	無	21	13.5	11	楕円形	無	土師器	第68図
P-552	無	23	-	12	円形	無	無	第68図
P-553	無	45	30	48	方形	無	無	第68図
P-554	無	26	-	4	円形	無	無	第68図
P-555	無	45	-	13	円形	無	無	第68・69図
P-556	無	75	60	4	楕円形	無	無	第68図
P-557	無	47	37	5	不整な方形	無	無	第68図
P-558	無	22	15	21	不整な楕円形	無	無	第68・69図
P-559	無	19.5	-	24	円形	無	無	第69図
P-560	無	32.5	37.5	13	楕円形	無	無	第68図
P-561	SD-021 → P-561 → P-562	37.5	-	35	円形	無	土師器	第69図
P-562	SD-021 → P-561 → P-562	23	23	15	方形	無	無	第69図

表4 B区ビット観察表(9)

P-563	SD-019 → P-563	30	-	22	円形	無	無	第65図
P-564	無	22.5	15	36	楕円形	無	無	第69図
P-565	無	30	-	26	円形	無	無	第69図
P-566	無	30	-	21	不整な円形	無	無	第70図
P-567	SD-028 → P-567	52.5	-	16	円形	無	無	第70図
P-568	無	32	30	26	不整な方形	無	無	第70図
P-569	SD-028 → P-569	42	32	26	長方形	1.5	無	第69図
P-570	SD-028 → P-570	50	44	17	楕円形	無	無	第69・70図
P-571	無	46.5	33	2.9	長方形	無	土崩落	第69図
P-572	無	46.5	37.5	23	不整な長方形	無	無	第69図
P-573	無	37.5	30	6	不整な方形	無	無	第69・70図
P-574	無	50	37.5	17	長方形	無	無	第70図
P-575	無	39	-	26	円形	無	無	第70図
P-576	P-577 → P-576	52.5	22.5	15	不整な楕円形	無	無	第69図
P-577	P-577 → P-576	37.5	22.5	15	楕円形	無	無	第69図
P-578	無	27	18	12	楕円形	無	無	第69図
P-579	無	22.5	-	8	円形	無	無	第70図
P-580	無	45	37.5	36	楕円形	無	無	第70図
P-581	無	13	-	20	円形	無	無	第70図
P-582	無	11	-	17	円形	無	無	第70図
P-583	無	34.5	-	41	円形	無	無	第70図
P-584	無	16	-	26	円形	無	無	第70図
P-585	無	28.5	16	20	楕円形	無	無	第70図
P-586	無	46.5	28.5	19	不整な楕円形	無	無	第70図
P-587	無	30	15	17	楕円形	7.5	無	第70図
P-588	無	21	-	19	円形	無	無	第70図
P-589	SD-027 → P-589	21	-	21	円形	無	無	第70図
P-590	SD-027 → P-590	21	-	14	円形	無	無	第70図
P-591	SD-027 → P-591	16	-	9	円形	無	無	第70図
P-592	無	38	-	46	円形	無	無	第69図
P-593	無	22	-	18	円形	無	無	第70図
P-594	無	30	-	7	円形	無	無	第70図
P-595	無	18	-	19	不整な円形	無	無	第70図
P-596	無	23	-	14	円形	無	無	第70図
P-597	無	23	-	13	円形	無	無	第70図
P-598	無	23	21	7	方形	無	無	第70図
P-599	無	67.5	45	34	不整な楕円形	1.8	無	第70図
P-600	無	32	27	40	長方形	無	無	第69図
P-601	無	22.5	-	27	円形	無	無	第70図
P-602	無	38	-	40	円形	無	無	第70図
P-603	無	20	-	29	円形	無	無	第70図
P-605	無	30	21	19	楕円形	無	無	第70図
P-606	無	22.5	-	13	円形	無	無	第70図
P-607	無	19	-	13	不整な円形	無	無	第70図
P-608	無	30	21	21	楕円形	無	無	第70図
P-609	無	45	-	37	円形	1.2	無	第70図
P-610	無	16	14	7	不整な楕円形	無	無	第70図
P-611	無	52.5	37.5	37	楕円形	無	無	第70図
P-612	無	52.5	52.5	10	不整な方形	無	土崩落	第70図
P-613	無	23	-	22	円形	無	無	第70図
P-614	無	23	-	30	円形	無	無	第70図
P-615	無	15	-	8	円形	無	無	第70図
P-616	無	40	32	28	楕円形	無	無	第70図
P-618	無	45	45	42	方形	1.2	無	第70図
P-619	無	31.5	27	15	楕円形	無	無	第70図
P-620	無	16.5	-	19	円形	無	無	第70図
P-621	無	45	30	37	楕円形	1.5	無	第70図
P-622	無	56	45	36	不整な楕円形	無	無	第70図
P-623	無	61.5	-	37	不整な円形	無	無	第70図
P-624	無	30	15	15	楕円形	無	無	第71図
P-625	無	37.5	23	18	楕円形	無	無	第71図
P-626	無	34	22.5	13	楕円形	無	無	第69図

表4 B区ビット観察表(10)

P-627	無	28	20	28	楕円形	無	無	第70図
P-628	無	24	-	33.6	円形	無	無	第70図
P-629	無	15	-	6	円形	無	無	第69図
P-630	無	22.5	22.5	13	不整な方形	無	無	第69図
P-632	無	37.5	27	5	楕円形	無	無	第69図
P-634	無	42	-	15	円形	12	無	第69図
P-635	無	16	-	14	円形	無	無	第69図
P-636	無	16.5	-	22	円形	無	無	第69・76図
P-637	無	15	-	16	円形	無	無	第69・76図
P-638	無	46.5	-	31	円形	無	無	第76図
P-639	無	45	37.5	12	楕円形	無	無	第76図
P-640	無	37.5	22.5	12	楕円形	9	無	第76図
P-641	無	29	-	24	円形	無	無	第76図
P-642	無	31	-	32	円形	無	土師器	第76図
P-643	無	28.5	-	17	円形	無	無	第69・76図
P-644	無	46.5	45	16	方形	無	無	第69・76図
P-645	無	30	22.5	17	楕円形	無	無	第69図
P-646	無	34.5	-	18	円形	無	無	第69図
P-648	無	16	-	20	円形	無	無	第69図
P-652	無	15	7.5	16	楕円形	無	無	第69図
P-653	無	22	-	15	円形	無	無	第69図
P-654	無	34.5	27	24	楕円形	無	土師器	第69図
P-655	無	23	20	16	楕円形	無	無	第76図
P-656	無	18	-	19	円形	無	無	第69・75図
P-657	無	48	38	16	楕円形	無	無	第76図
P-658	無	39	21	31	楕円形	無	無	第76図
P-659	無	48.5	21	11	楕円形	無	無	第76図
P-660	無	46.5	33	30	楕円形	無	無	第75図
P-661	無	15	-	13	円形	無	土師器	第69・75図
P-662	無	44	30	21	楕円形	無	無	第76図
P-663	無	18	-	10	円形	無	無	第69・75図
P-664	無	16	-	9	円形	無	無	第75図
P-665	無	15	-	11	円形	無	無	第69・75図
P-666	無	30	24	16	楕円形	無	無	第76図
P-667	無	37.5	31.5	21	楕円形	13.5	無	第69図
P-668	無	60	45	5	楕円形	無	無	第69図
P-669	無	28	18	18	楕円形	無	無	第75・76図
P-670	無	31.5	24	9	不整な方形	無	無	第69図
P-671	無	26	-	20	円形	10	無	第75図
P-672	無	32	26	24	長方形	無	無	第69図
P-673	無	12	-	13	円形	無	無	第69図
P-674	無	38	30	9	楕円形	無	無	第75・76図
P-675	無	10	-	2	円形	無	無	第75・76図
P-676	無	39	30	30	楕円形	9～14.5	無	第75図
P-677	無	45	30	30	楕円形	無	無	第75図
P-678	無	43.5	31.5	29	楕円形	無	土師器	第75図
P-679	無	30	-	27.4	円形	無	無	第75図
P-680	無	20	-	11	円形	無	無	第76図
P-681	無	22.5	16.5	10	長方形	無	無	第76図
P-682	無	45	28.5	22	楕円形	13.5	無	第76図
P-683	無	37.5	21	25	楕円形	無	無	第76図
P-684	無	30	22.5	20	楕円形	無	土師器	第76図
P-685	無	46.5	-	26	不整な円形	無	無	第70図
P-686	無	43.5	37.5	35	方形	無	無	第70図
P-687	SD-027 → P-687	45	37.5	30	楕円形	無	無	第70図
P-688	無	30	22.5	35	楕円形	無	無	第68図
P-689	SD-032 → P-689	22.5	15	42	方形	無	無	第68図
P-690	無	28	-	32	円形	無	無	第68図
P-691	SD-020 → P-691	36	-	2	円形	無	無	第68図
P-692	無	37.5	-	31	円形	無	無	第67図
P-693	無	24	15	11	楕円形	無	無	第67図
P-694	無	9	-	8	円形	無	土師器	第67図

表4 B区ビット観察表(11)

P-695	無	30	22.5	4	楕円形	無	無	第67図
P-696	無	46.5	37.5	31	楕円形	無	無	第67図
P-697	無	37.5	25.5	20	楕円形	無	土師器	第67図
P-698	無	37	-	30	円形	11	陶器	第67・83図
P-699	無	30	22.5	32	楕円形	無	無	第67図
P-700	無	37.5	-	35	円形	8	無	第67図
P-701	無	22.5	-	5	円形	無	無	第67図
P-702	無	30	-	43	円形	10	無	第67図
P-703	無	22.5	-	24	円形	無	無	第67図
P-704	無	37.5	30	31	楕円形	無	無	第63図
P-705	無	38	-	24	円形	14	無	第63・67図
P-706	無	22.5	-	12	円形	無	無	第63図
P-707	無	30	-	29	円形	無	無	第63図
P-708	無	22.5	-	20	円形	8	無	第67図
P-709	無	30	22.5	22	楕円形	10	無	第63・67図
P-710	無	45	30	23	不整形楕円形	無	無	第63図
P-711	無	22.5	-	13	円形	無	無	第63図
P-712	無	30	27	14	楕円形	無	無	第63図
P-713	無	30	28.5	10	楕円形	無	無	第63図
P-714	無	23	-	21	円形	無	無	第63図
P-715	無	30	-	21	円形	無	無	第63図
P-716	無	37.5	30	12	楕円形	無	無	第63図
P-717	無	37.5	24	15	楕円形	無	無	第63図
P-718	無	24	-	16	不整形円形	無	無	第63図

表4 B区ビット観察表(12)

第3章 まとめ

富吉遺跡Ⅲは、小糸川下流域左岸の標高約11.0mの段丘低位面に立地する。現在は、周辺とほぼ同じ標高となっているが、全域は盛土されており、過去の地形と大きく変化している。今回の調査では、掘立柱建物跡32棟、柱穴列16列、溝跡40条、円形周溝遺構1基、土坑34基、ビット697基が検出された。出土遺物は少ないが、土師器、須恵器、陶磁器が出土したため、古墳時代から中世にかけての遺構であると考えられる。ビットについては一つ一つの詳細な時期を示すことはできないが、その多くが中世以降のものである。

1 古墳時代後期

この時期の遺構は、溝跡18条（SD-001～006・019～023・027・028・030・031・038～040）、円形周溝遺構1基（SZ-001）、土坑1基（SK-034）である。これまでの富吉遺跡内の発掘調査で、富吉遺跡Ⅲの北東側に古墳時代後期の集落が広がっている様相が判明しているが、今回の調査では住居跡等の居住を示すものは検出されなかった。出土遺物は非常に少ないものの、集落域出土の遺物と同時代のものが中心となって出土している。また、北東側に広がる集落域の遺構の確認面と比べると標高が低いことから、今回の調査区域は小糸川の氾濫を受けやすく、当時の居住域には向かない立地であったと考えられる。

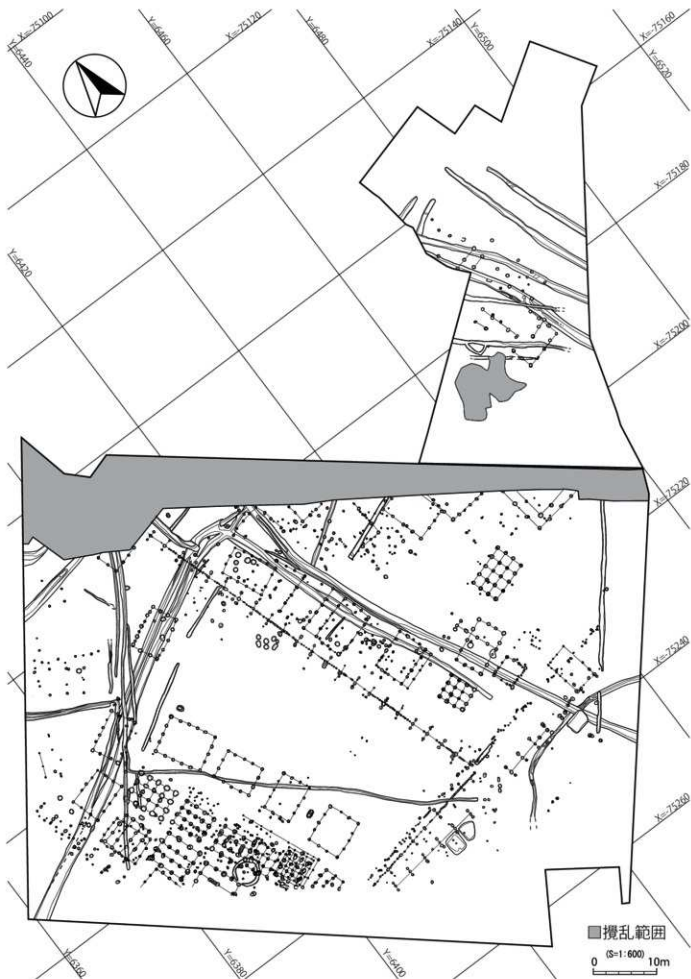
出土した軒丸瓦（第32図-1）は四葉甲弁蓮華文で、小糸川対岸の北東に位置する九十九坊廃寺跡と同様のものである。これまでの同遺跡内の調査や近隣の上湯江遺跡から、丸瓦や平瓦を中心として瓦片が出土しており、いずれも小片で、転用の痕跡も見られる。掘立柱建物跡（SB-017）の柱穴の確認面直下からの出土であることから、掘立柱建物跡に伴うものではないと判断した。

2 古代末から中世以降

この時期の遺構は、掘立柱建物跡32棟（SB-001～032）、柱穴列16列（SA-001～013）、溝跡22条（SD-007～009・010～018・024・025・026・029・032～037）、土坑33基（SK-001～033）である。

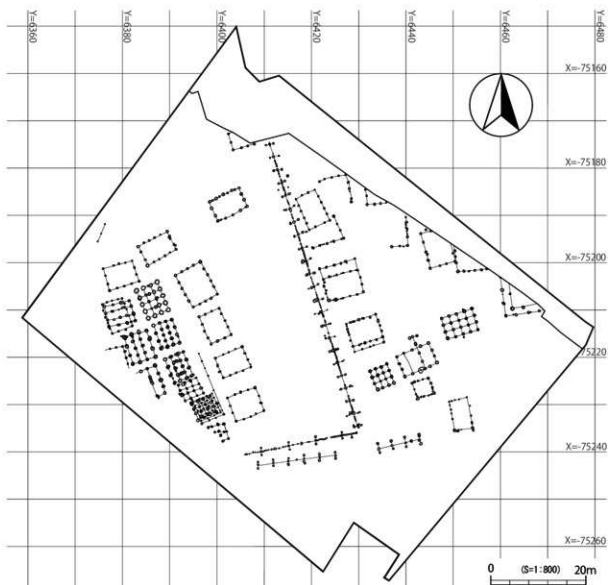
以前と様相が変わり、掘立柱建物跡群が出現する。控え柱穴2基と主柱穴1基で構成される1組の柱穴が並ぶ柱穴列（SA-006・007）は、調査区外へ続いている可能性もあるが、現状はL字に区画された内側と外側に建物跡が広がっている。区画内では、遺構の空白域も存在し、広場のような空間であったともとれる。調査区の南西域で建物跡の重複が激しいが、柱穴自体の切り合いはなく、建物跡は重ならないように平面的な重複で検出されていることから、これらの32棟はすべて同時に存在していたのではないことがわかる。建物跡は、桁行方向で南北棟と東西棟に分かれるものの、その主軸は北から西へ7°から29°の傾きであり、少なくとも2時期に分かれていていると考えられる。出土遺物が少ないため、建物跡の時期の特定及び時期毎の詳細な配置までは明らかにできなかった。

小糸川の中・下流域に位置する泉遺跡⁽¹⁾、三直中郷遺跡⁽²⁾、外箕輪遺跡⁽³⁾、常代遺跡⁽⁴⁾、郡遺跡⁽⁵⁾、上湯江遺跡⁽⁶⁾においては、中世の一般農民層や有力農民層ないし在地領主層の屋敷跡と考えられる掘立柱建物跡が検出されている。屋敷跡と考えられる遺跡では、同範囲内で井戸跡が検出されることが多いが、今回の調査地点では井戸跡は検出されなかった。また、建物跡群に伴う遺物もほとんどなく生活感に乏し



第 84 図 調査成果

いため、居住域とはいえない。そのようななか、この建物跡群の性格を知るものとして、小櫃川流域に位置する横田郷（現、袖ヶ浦市）の存在があげられる。笹生氏が復元した横田郷の景観では、郷内における流通の場を河川に面した低地に比定⁽⁷⁾している。富吉遺跡Ⅲの掘立柱建物跡群の性格は、河川を利用した物流に関わる倉庫や管理棟として、保管や輸送の拠点的な機能をもっていたと考える。



第 85 図 B区掘立柱建物跡及び柱穴列遺構配置図

富吉遺跡では、平成6年度の確認調査以降、遺跡内の調査件数が積み重なり、その内容が明らかになってきた。今回の調査では、これまで見られなかった古代末から中世の掘立柱建物跡 32 棟や柱穴列を検出するなど新しい成果が得られた。近年、小糸川中・下流域の上述した遺跡においても調査例が増えており、小糸川流域の様相がわかりりつつある。

- 註 (1) 『泉遺跡発掘調査報告書Ⅰ』1996 財団法人君津都市文化財センター
『泉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1996 財団法人君津都市文化財センター
- (2) 『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書—君津市三直中郷遺跡(沖田地区・中郷地区)—』
2005 財団法人千葉県文化財センター
- (3) 『外箕輪遺跡発掘調査報告書』1994 財団法人君津都市文化財センター
- (4) 『常代遺跡群』1996 財団法人君津都市文化財センター
- (5) 『郡遺跡群発掘調査報告書』1996 財団法人君津都市文化財センター
- (6) 『上湯江遺跡Ⅴ—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—』2022 君津市教育委員会
- (7) 『千葉県の歴史 資料編 中世1 考古資料』1998 財団法人 千葉県史料研究財団



1 富吉遺跡の北側を流れる小糸川(南東→) ※調査区は右下



2 B区南西側掘立柱建物跡群(北東→)

図版2



1 A区調査前風景（南東→）



2 SA-001・002完掘（北西→）



3 SA-002A遺物出土状況（南西→）



4 SD-001完掘（南東→）



5 SD-002完掘（南東→）



6 左SD-004・右003完掘（南東→）



7 SD-005・006完掘（西→）



8 左SD-009・右008完掘（南東→）



1 A区作業風景(南西→)



2 B区調査前(北東→)



3 SB-001完掘(南西→)



4 SB-002・003完掘(東→)



5 SB-005完掘(南西→)



6 SB-007、SA-004完掘(南東→)



7 SB-008~011完掘(南東→)



8 SB-010完掘(南東→)

図版4



1 SB-013・014完掘 (南→)



2 SB-013・014・017・018完掘 (西→)



3 SB-015・016完掘 (北東→)



4 SB-018完掘 (北東→)



5 SB-019完掘 (南東→)



6 SB-020完掘 (北西→)



7 SB-021、SA-010完掘 (北西→)



8 SB-021・022完掘 (北西→)



1 SB-023完掘 (西→)



2 SB-027完掘 (南東→)



3 SB-028完掘 (南→)



4 SB-029完掘 (南東→)



5 SB-030柱根出土状況 (南東→)



6 SB-032完掘 (南西→)



7 SA-005完掘 (南→)



8 SA-006・008完掘 (西→)

図版6



1 SA-007完掘 (北→)



2 SA-007柱根出土状況 (南東→)



3 SA-009完掘 (南西→)



4 SA-012完掘 (南西→)



5 SD-010完掘 (南東→)



6 左からSD-036・035・011・014完掘 (南西→)



7 SD-012完掘 (北東→)



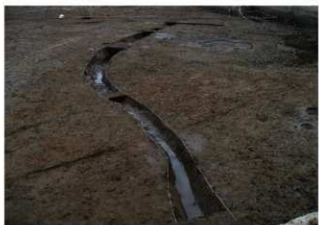
8 左SD-011・右016調査状況 (北→)



1 SD-020完掘 (北東→)



2 左SD-022・右021完掘 (北西→)



3 SD-023調査状況 (南西→)



4 SD-023遺物出土状況1 (東→)



5 SD-023遺物出土状況2 (東→)



6 SD-026完掘 (南西→)



7 SD-029完掘 (南西→)



8 SD-032完掘 (南西→)

図版8



1 SD-033完掘 (南東→)



2 SD-034完掘 (西→)



3 SK-010~014完掘 (南西→)



4 SK-016~022完掘 (南東→)



5 SK-032・033完掘 (南→)



6 B区北西側ビット完掘 (西→)



7 B区南東側ビット完掘 (西→)



8 SZ-001完掘 (南→)



1 B区作業風景(南→)



2 調査終了風景(北東→)



3 第7図1



4 第32図1



5 第61図2



6 第61図3



7 第61図5



8 第61図7



9 第62図2



10 第62図3



11 第35・51・61・62・83図



12 第44図1



13 第51図2・3

報 告 書 抄 録

ふりがな	きみつし とみよしいせきさん							
書名	—君津市— 富吉遺跡Ⅲ							
副書名	みふねの里保育園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	朝倉 唯 曾我真実子							
編集機関	君津市教育委員会							
所在地	〒299-1192 千葉県君津市久保2丁目13番1号							
発行年月日	西暦2024年(令和6年)3月29日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地 系北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
富吉遺跡Ⅲ	千葉県君津市貞元 字喜平303番1 ほか	12225	KT051	35° 19' 19"	139° 54' 14"	[確認(1)] 2017年1月30日～ 2017年2月10日	367 /3,647 m ²	みふねの 里保育園 建設
						[確認(2)] 2018年1月25日～ 2018年2月16日	657 /6,537.13 m ²	
						[本調査(1)] 2021年10月25日～ 2022年3月9日	2,043 m ²	
						[本調査(2)] 2022年6月20日～ 2023年2月28日	7,534 m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
富吉遺跡Ⅲ	包蔵地	古墳時代、 奈良・平安 時代、中世	古墳時代後期溝跡18条・円形周溝遺構 1基・土坑1基、古代末～中世以降創 立柱建物跡32棟・柱穴列16列・溝跡 22条・土坑33基、ピット697基		古墳時代土師器・ 須恵器、奈良・平 安時代須恵器・瓦、 中世陶器、木製品、 鉄製品、近世陶磁 器	古墳時代後期から中世までの遺構・ 遺物を検出した。今回の調査の中 心は古代末から中世である。遺物 は少量であるが、竪立柱建物跡や 柱穴列を多数検出した。富吉遺跡 が、小浜川を利用した物流に関わ る倉庫や管理棟として、絶的な 機能をもっていたことが考えられ る。		

令和6年3月22日 印刷
令和6年3月29日 発行

— 君津市 —
富吉遺跡Ⅲ

みふねの里保育園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 君津市健康こども部
君津市教育委員会
君津市久保2丁目13番1号
印刷 有限会社アドメイクス
千葉県木更津市清見台東2-19-16
